

熊本市 健康まちづくり 活性化に向けた アンケート調査 報告書

(職員版)

2023年3月

熊本市 健康づくり推進課
東邦大学 医学部衛生学教室

はじめに

令和3年度に実施した「健康まちづくり活性化に向けたアンケート調査」へご協力いただきましてありがとうございました。

このアンケートは、熊本市が平成24年度から推進している「校区単位の健康まちづくり事業」の成果の検証と、今後一層の活性化を目的として実施しました。このアンケートでは、熊本市の保健師等の専門職、まちづくりセンター職員、ささえりあ職員、小学校長など、健康まちづくり事業に関わる職員の皆さまに調査票をお送りし、令和3年12月までに計313人の方からご回答をいただきました。健康まちづくり事業に対するご意見や、参考になる取組み例につきましても多数頂戴することができました。

多くの皆さまから貴重なご回答をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

この報告書では、調査結果からわかったことや、取組みの事例などをまとめています。今後の校区での活動において参考になれば幸いです。また同じ時期に、地域で活動されている皆さまにも調査を実施しております。こちらの報告書もあわせてご確認ください。

調査結果は、市の健康まちづくり事業や保健事業をはじめ、今後の地域づくりに役立ててまいります。

引き続き、健康まちづくり活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年9月

熊本市健康づくり推進課

東邦大学医学部衛生学教室

研究代表者 今村晴彦

(東邦大学医学部衛生学教室／長野県立大学大学院健康栄養科学研究科)

※本調査は、日本学術振興会科研費（19K11258）により実施しました。

※研究代表者の所属が令和4年4月より変更となりました。

健康まちづくり事業は、全ての市民の皆さまが生涯を通して住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを、市民の皆様と熊本市が協働でつくることを目指しています。

熊本市健康まちづくり活性化に向けたアンケート調査報告書

【職員版】

目次

調査の概要	1
アンケート結果から見てきた「健康まちづくり」の特徴	2
アンケート集計結果	11
A. 回答者の属性	13
1. あなたの性別を教えてください。(問 25/23)	
2. あなたの年齢（令和3年9月1日時点）を教えてください。(問 26/24)	
3. あなたの職種を教えてください。(問 1/1)	
4-1. あなたは、現在の職種として通算でどのくらい働いていますか？(問 27/25)	
4-2. あなたは、現在の担当校区を通算でどのくらい担当していますか？/現在所属されている 区役所には通算でどのくらい在職していますか？(問 28/3)	
5. あなたは、現在担当している校区/地域にどの程度愛着がありますか？(問 29/26)	
6. 現在担当されている小学校区/所属されている区役所を教えてください。(問 2/2)	
B. 校区・地域での活動について	17
7. あなたの担当校区/担う業務において、支援をする（必要があれば支援をする）など、関わり がある地域の住民組織や団体をお教えてください。(問 4/4)	
8. あなたの担当校区/地域は、職員として働きかけがしやすいと思いますか？(問 5/5)	
9. あなたの担当校区/地域の住民組織や団体の関係者は、地域の状況や困りごとなど、あなたの 業務の参考になるような情報を提供してくれていると思いますか？(問 6/6)	
10. あなたの担当校区では、小学校区全体としてどのような取組みが重視されてきたと思いま すか？あなたからみた、優先度が高いと思われる取組みを5つまで選択してください。 (問 7/-)	
C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について	22
11. あなたの担当校区において、校区としての「健康まちづくり」を統括的に担っている住民組 織はどれですか？(問 8/-)	
12. さまざまな校区の行事や活動があるなかで、あなたの担当校区では、校区として「健康まち づくりに関する活動」の優先度はどの程度だと思いますか？(問 9/-)	
13. あなた自身の職務のなかで、担当校区/地域の「健康まちづくり」を推進することの優先度 はどの程度ですか？新型コロナウイルス感染症発生前と現在において、各々にお答え下さ い。(問 10/9)	

14. あなた自身の考えとして、あなたが担当する校区/地域において、「健康まちづくり」を行う必要性はどの程度感じますか？（問 11/10）
15. あなたの担当校区/地域で取り組むべき健康づくり対策として、どのようなことが大事だと思いますか？あなたが大事だと思う優先度の高いものを5つまで選択してください。（問 12/12）
16. 担当校区/地域において、住民組織や団体が、これからさらに主体的に「健康まちづくり」を進めていくために、行政としてどのような支援方法が有効だと思いますか？あなたが有効だと思うものを5つまで選択してください。（問 13/11）
17. あなたは、熊本市が小学校区単位の健康関連データをまとめた「校区健康カルテ」を作成していることを知っていますか？（問 14/13）
- 17-1. 17 の質問で「1. 知っており、自分の担当校区のカルテを見たことがある」とお答えした人にお聞きします。「校区健康カルテ」をどの程度活用しましたか？（問 14-1/13-1）
- 17-2. 17-1 の質問で「1. 既に活用した」とお答えした人にお聞きします。住民に「校区健康カルテ」を提示した反応はどのようなものでしたか？（問 14-2/13-2）
18. 「校区健康カルテ」は、校区の健康づくりに役立つと思いますか？（問 15/14）
19. 「校区健康カルテ」についての感想やご意見（追加してほしい項目や改善点など）があればお聞かせください。（問 16/15）
20. 次の行政等の職員は、担当校区/地域での「健康まちづくり」の推進について、どのくらいの頻度であなたと情報交換をしますか？それぞれの職員についてお答えください。（問 19/7）
21. 次の行政等の職員とあなたは、担当校区/地域での「健康まちづくり」の推進に関する目標をどのくらい共有していますか？それぞれの職員についてお答えください。（問 20/9）
22. 「健康まちづくり」事業について、あなたの考えをお聞かせください。（問 21/17）
23. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）について、「健康まちづくり事業を推進する」という観点から、考えをお聞かせください。（問 22/19）
24. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）における、組織としての全体的な「健康まちづくり」事業の推進方法について、考えをお聞かせください。（問 23/20）

D. 小学校区/地域に関するお考え 45

25. あなたが担当している小学校区/地域について、以下に関する考えをお聞かせください。（問 17/16）

E. 自由記述「健康まちづくり」の推進例やご意見 46

26. 担当校区/地域における「健康まちづくり」の推進について、工夫していること（コロナ禍での活動の工夫も含む）や、これまで成果が出たことなどについて、どのようなことでも良いのでお聞かせください。（問 18/18）
27. 校区、あるいは市全体として健康まちづくり活動が活発に取り組まれていくために、どのようなことが必要だと思いますか？アイディアやご意見などをご自由にお聞かせください。（問 24/21）／その他、健康まちづくりの活動についてご意見等があればお聞かせください。（問-/22）

調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、健康まちづくりを通して、市民の皆さまがより元気で健やかな日々が過ごせることを目的として、熊本市と東邦大学医学部衛生学教室が共同で実施したものです。得られた結果は、熊本市の健康まちづくり事業や保健事業をはじめとした、健康づくりおよび地域づくりに役立てられます。

（２）調査の対象と調査方法

校区で健康まちづくりを推進する保健師や医師、歯科医師、管理栄養士、歯科衛生士などの専門職、および関係する部署（地域包括支援センター、まちづくりセンター、小学校）の職員の皆さまを対象に、自己記入式の質問票によるアンケート調査として実施しました。質問項目は、担当校区や地域における健康まちづくりのこれまでの取り組みやご意見に関するもので、無記名調査として実施しました。

なお、担当校区をもつ職員は、主に担当する校区における健康まちづくりに関する質問、担当校区をもたない職員は、主に所属する区役所の地域全体における健康まちづくりに関する質問と、質問対象とする範囲について異なる聞き方をしております。

調査対象者	アンケート 配布者数
区役所専門職① 担当校区をもつ保健師（全員）	92 人
区役所専門職② 担当校区をもたない専門職（全員） （保健師、管理栄養士、医師、歯科医師、歯科衛生士）	55 人
まちづくりセンター 地域担当職員（全員）	92 人
高齢者支援センター ささえりあ 地域担当職員（全員）	92 人
市立小学校 校長（全員）	92 人
計	423 人

（３）回収状況

アンケート配布者数	423 人
回答者数	313 人
回答率	74.0%

【職員版】アンケート結果から見えてきた

「健康まちづくり」の特徴

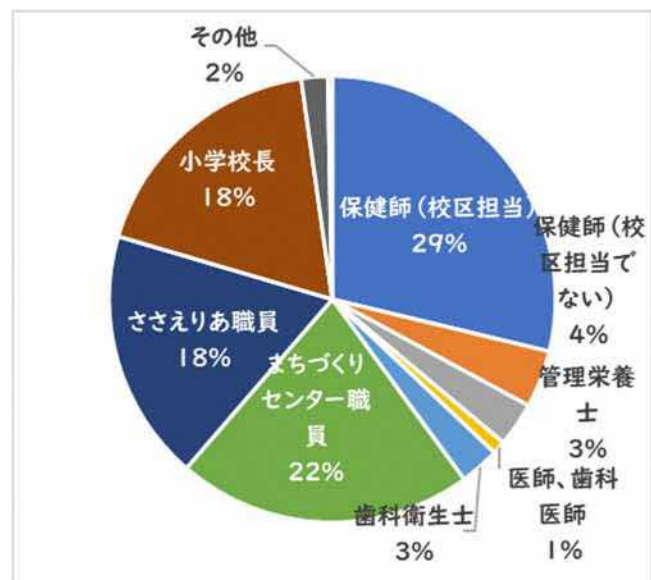
本アンケートの結果から見えてきた、熊本市の地域活動や「健康まちづくり」の特徴・課題を整理し、これからの地域活動に必要と考えられるポイントをまとめました。なお、()内は、質問項目の番号を表します。詳しい数値や内容は、集計結果(Excel)をご参照ください。

回答者の属性

回答者数： 313人

あなたの職種を教えてください。(A-3)

選択肢	回答数	割合
保健師（校区担当）	90	28.8
保健師（校区担当でない）	13	4.2
管理栄養士	10	3.2
医師、歯科医師	3	1.0
歯科衛生士	9	2.9
まちづくりセンター職員	67	21.4
ささえりあ職員	57	18.2
小学校長	57	18.2
その他	6	1.9
無回答など	1	0.0



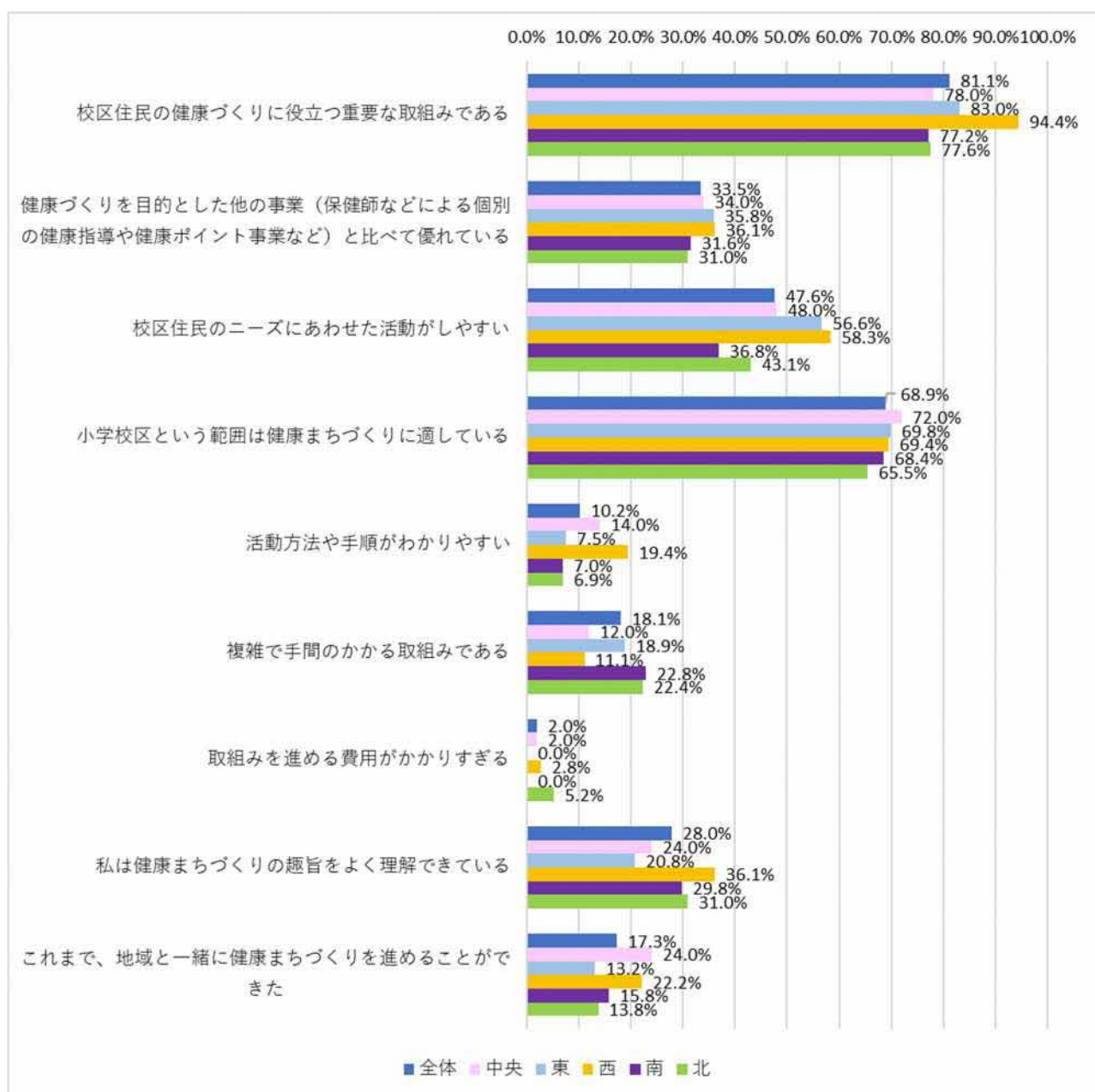
選択肢		回答数				
		保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職 員 N=67	ささえり あ職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1	20歳代	34	2	3	1	3
2	30歳代	23	28	9	1	4
3	40歳代	25	34	22	2	18
4	50歳代	8	2	19	50	12
5	60歳代	0	0	4	3	3
	無回答など	0	1	0	0	1

1. 健康まちづくりが「校区住民の健康づくりに役立つ重要な取組である」と認識されている

健康まちづくりについての考えを聞く9つの質問において、もっとも肯定的な回答を得たのが「校区住民の健康づくりに役立つ重要な取組である」の 81.1%、次いで「小学校区という範囲は健康まちづくりに適している」の 68.9%でした(C-22)。

C-22 「健康まちづくり」事業について、

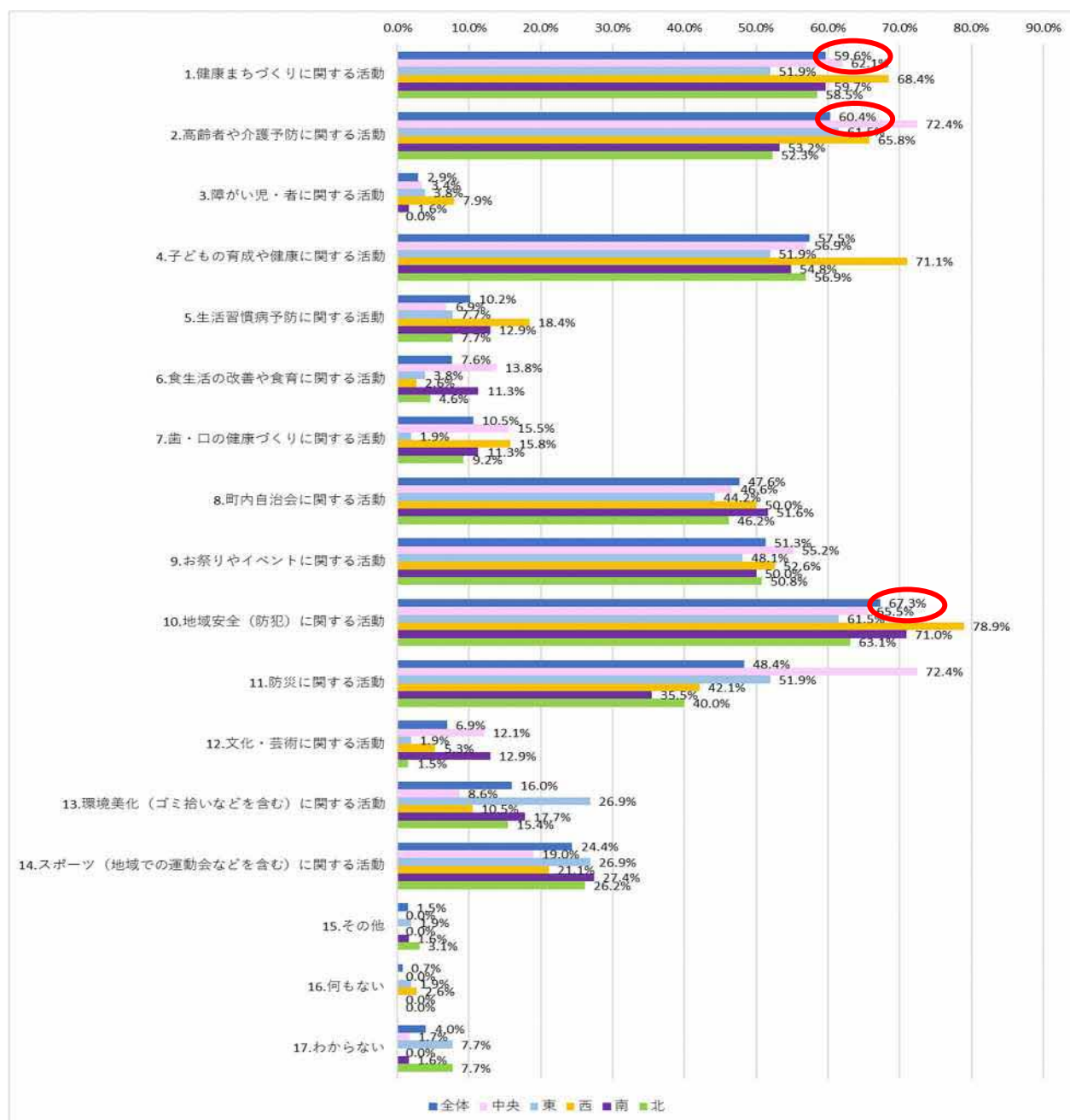
以下の①～⑨に関するあなた自身の考えをお聞かせください。(問 21/17)



2. 地域で重視されてきた取組としては、健康まちづくりは3番目

担当校区など地域でどのような取組みが重視されてきたと思うかを聞く質問について、全体として「健康まちづくりに関する活動」と回答したのは59.6%であり、「地域安全(防犯)に関する活動」(67.3%)、「高齢者や介護予防に関する活動」(60.4%)に次いで3番目に多く選択された結果となりました(B-10)。

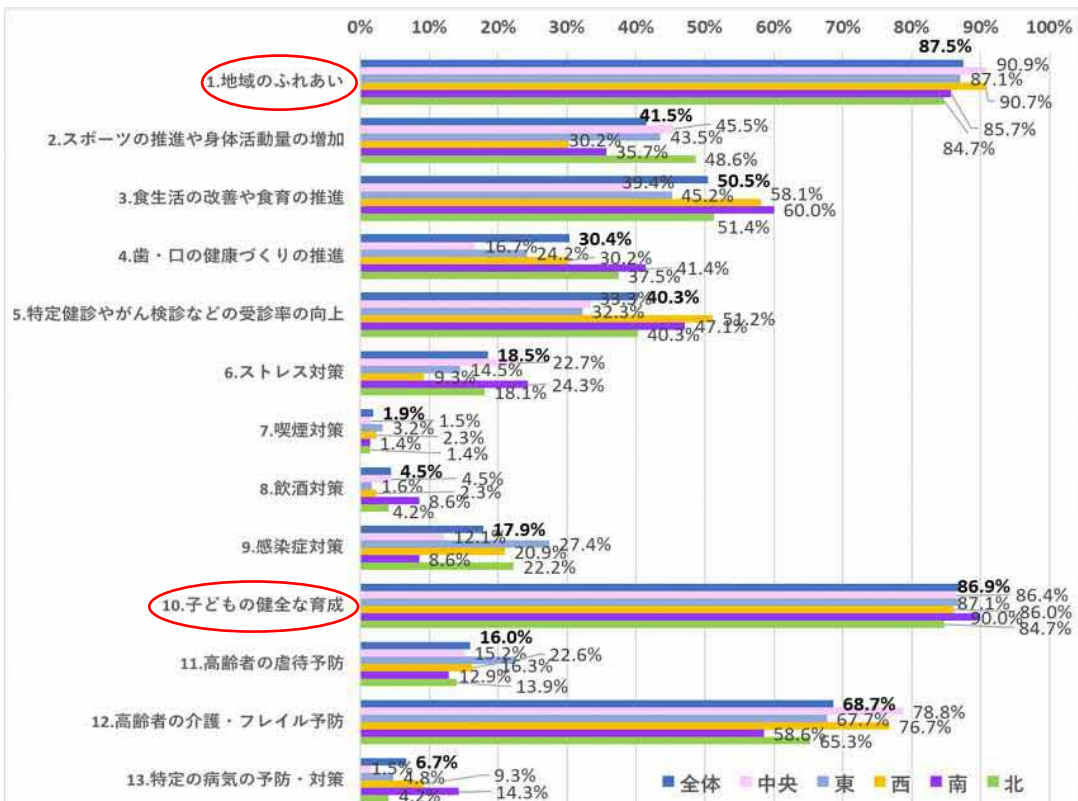
B-10 あなたの担当校区では、小学校区全体としてどのような取組みが重視されてきたと思いますか？あなたからみた、優先度が高いと思われる取組みを5つまで選択してください。(問 7/-)



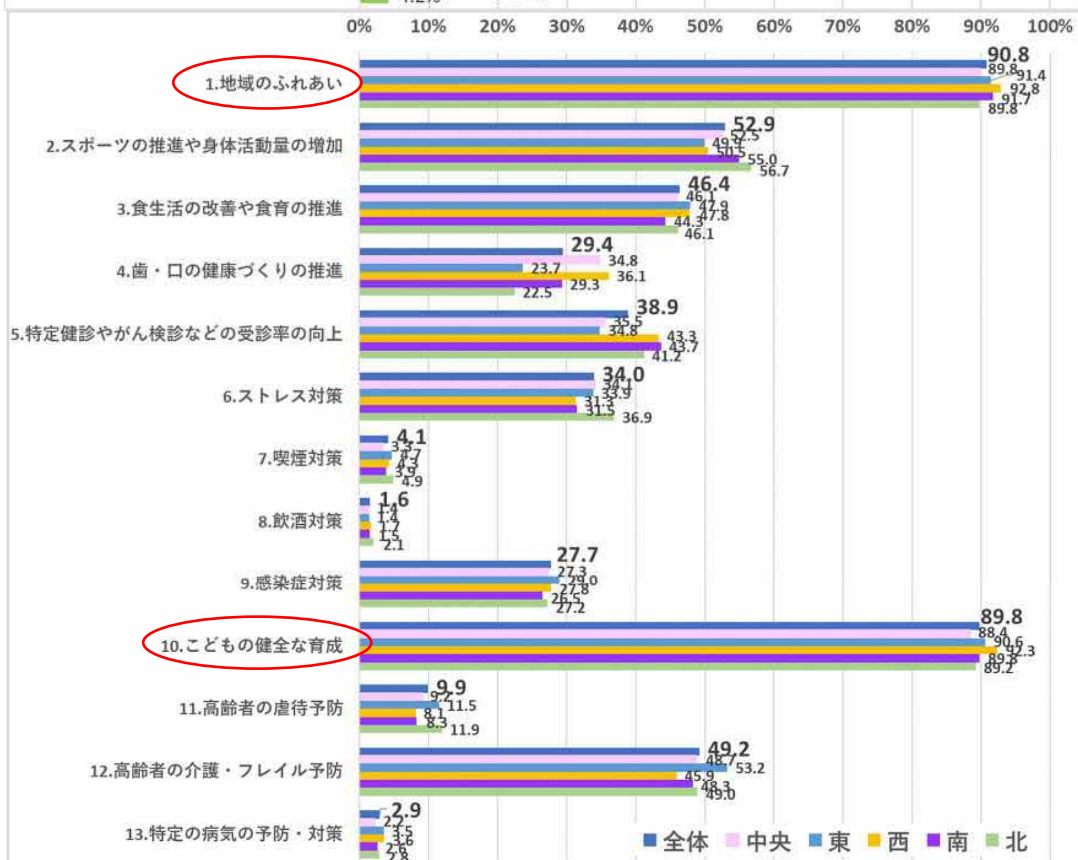
3. 地域で取り組むべき健康づくり対策は、地域関係者への調査結果と一致

担当校区など地域で取り組むべき健康づくり対策として、最も多く選択されたのは「地域のふれあい」(87.5%)で、次に「子どもの健全な育成」(86.9%)でした(C-15)。この結果は、地域関係者への調査結果と一致していました(地域版 C-22)

【職員版】



【地域版】



4. 今後の推進に向けたポイント

一方で、調査結果について、区役所別や職種別にみると、それぞれの区や職種における特徴や、その差が明らかとなりました。健康まちづくりは1つの職種のみで担うものではなく、健康やまちづくりに関わりうる多職種の連携のもと、全庁的な推進が必要な取組です。また、そうした必要性を示すご意見もたくさんいただきました。今後のさらなる健康まちづくりの推進に向けて、本調査結果から明らかとなったポイントを①～⑩にまとめます。

▶ ① 健康まちづくりの意義を再確認する

健康まちづくりについての考えを聞く質問では、全体として、「校区住民の健康づくりに役立つ重要な取組みである」および「小学校区という範囲は健康まちづくりに適している」について、肯定的な割合が高い結果となり(それぞれ 81.1%、68.9%;C-22 の1、4)、健康まちづくりの意義が再確認された結果となりました。「重要な取組みである」と回答した割合は、区役所別にみると西区(94.4%)、職種別にみると医師(100.0%)や管理栄養士・栄養士(90.0%)などで高い結果となりました。一方で、校区担当保健師は 73.9%、まちづくりセンター職員は 70.3%と比較的低い結果となりました。

また、自身の職務が健康まちづくりに必要だと感じるかを聞く質問において、まちづくりセンター職員のほとんどは、必要だと感じていないという結果が示されました(C-23 の 8)。自由記述においても、「まちづくりセンターの立ち位置がわからない」といった意見がありました(E-27)。さらに、ささえりあからも「ささえりあがそこに大きくかわるというスタンスではなかった」といった意見、小学校からも「そもそも、学校には健康まちづくり事業の概要等が知らされておらず、関わり方がイメージできていない」といった意見がありました(E-27)。健康まちづくりには「まちづくり」の視点が不可欠であり、今後、職種間での認識の差を埋め、特にまちづくりセンター職員が健康まちづくりに関われるための、庁内をあげての体制づくりが重要と考えられます。

▶② 健康まちづくりの取組内容を再確認する

校区でどのような取組が重視されてきたと思うかを聞く質問について、全体として「健康まちづくりに関する活動」と回答したのは 59.6%であり、「地域安全(防犯)に関する活動」(67.3%)、「高齢者や介護予防に関する活動」(60.4%)に次いで3番目に多く選択された結果となりました(B-10)。

「健康まちづくりに関する活動」と選択した割合が最も多かったのが、区役所別にみると西区(68.4%)、職種別にみると小学校長等(73.7%)でした。一方で、校区担当保健師は、「健康まちづくりに関する活動」(51.1%)よりも、「高齢者や介護予防に関する活動」(76.1%)、「子どもの育成や健康に関する活動」(72.7%)を多く選択していました。健康まちづくりは、高齢者や子どもに関する活動を含めた、まちづくり、つながりづくりなどの包括的な事業であり、そのことを関係者間で再確認することが重要と考えられます。

▶③ 健康づくりのニーズを再確認する

地域で取組むべき健康づくり対策として、最も多く選択されたのは「地域のふれあい」(87.5%)で、次に「子どもの健全な育成」(86.9%)でした(C-15)。この結果は、地域関係者への調査結果と一致していました(地域版 C-22)。一方で、「高齢者の介護・フレイル予防」、「食生活の改善や食育の推進」、「スポーツの推進や身体活動量の増加」、「特定健診やがん検診などの受診率の向上」、「歯・口の健康づくりの推進」などの具体的な健康づくりのテーマについては、以下のように区や職種によって、ニーズや考え方が様々であることもわかりました。地域関係者への調査結果とあわせて、これらの結果を関係者で共有し、健康まちづくりの取組みの優先度を確認・検討することが重要と考えられます。

<具体的な健康づくりについての区や職種による傾向>

◎高齢者の介護・フレイル予防…中央区や西区、ささえりあ職員など

◎食生活の改善や食育の推進…南区や西区、管理栄養士・栄養士(100%;再掲)など

◎スポーツの推進や身体活動量の増加…北区や中央区、小学校長等、まちづくりセンター職員など

◎特定健診やがん検診などの受診率の向上…西区や南区、校区担当保健師など

◎歯・口の健康づくりの推進…南区や北区、歯科医師、歯科衛生士(100%;再掲)、小学校長など

▶④ 職種ごとに持っている地域とのネットワークや関係性に着目する

職務で関わりのある地域の団体について、職種によって異なる結果が示されました(B-7)。例えば校区担当保健師は民生委員・児童委員、主任児童委員や校区社会福祉協議会など、まちづくりセンター職員は町内自治会、校区自治協議会、地域公民館、まちづくり委員会、地域コミュニティセンター運営委員会など、ささえりあ職員は校区社会福祉協議会、老人クラブなど、小学校長等はPTA、防犯協会、子ども会、交通安全協会、校区青少年健全育成協議会、スポーツ協会、スポーツ団体などです。それぞれの職種のもつネットワークの強みを理解し、活かしていくことで、より効果的な健康まちづくりが可能だと考えられます。

また、地域に働きかけがしやすいと感じているかについての質問では、区役所別にみると西区、職種別にみると小学校長等が、働きかけがしやすいと感じる割合が多い結果でした(B-8)。さらに、地域住民から地域の状況や困りごとなどの情報の提供があるかという質問については、ささえりあ職員、小学校長等、校区担当保健師などが肯定的な回答の割合が高く、これらの職種は他職種にも共有可能な情報が得られている可能性があります(B-9)。健康まちづくりを効果的に推進していくためには、職種を問わず、まずは職員が積極的に地域に出ていき、地域関係者と関わるのが重要です。自由記述においても、「自分たちの業務に関係がある時だけ地域に出るのではなく、常日ごろから顔を見せて関係性を築くべきである」といった意見がありました(E-27)。そのために、例えば区役所間や職種間で、地域との関わりについてのノウハウを共有することも必要かもしれません。

▶⑤ 多職種で健康まちづくりに取組む

健康まちづくりの推進に関する情報交換や目標共有など、職種間の連携についての質問では、校区担当保健師との連携があると回答した割合が、いずれの職種でも半数以下という結果でした(C-20)。これらの結果は区による違いもみられ、東区や西区などは、校区担当保健師との連携が比較的多い結果でした。特に西区は、全体的に多職種との連携が活発と考えられる結果でしたが、まちづくりセンター職員との連携は少ないと考えられました。一方で、まちづくりセンター職員との連携が多いのは北区、中央区などでした。

また全体的に、管理栄養士・栄養士との連携が少ない結果がみられました(情報交換は17.6%、目標共有は12.5%;再掲)。地域関係者への調査でも、食生活の改善や食育の推進へのニーズが高い一方で、実際に地域の食生活改善推進員と連携している割合は少ない結果がみられており(地域版 B-14)、職員レベルにおいても、健康まちづくりにおいて食に関する取組みの連携を進めることが重要と考えられます。なお、管理栄養士・栄養士ともっとも連携している職種は歯科医師・歯科衛生士でした。

▶⑥ 地域への支援方法を再検討する

行政として地域へのどのような支援方法が有効だと思うか、という質問について、「校区の状況をデータで示す」「行政職員や関係機関の連携・協力を強化する」「組織のリーダーと対話を重ねる」「会議などで校区の健康課題などを話し合う」「校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する」が半数以上の支持を得ました(C-16)。一方で、区や職種によって回答傾向に違いがみられました。校区担当保健師は、「校区の状況をデータで示す」「組織のリーダーと対話を重ねる」を重視する一方で、まちづくりセンター職員や小学校長等は「健康まちづくりの推進員を育成する」などの方法も選択していました。

これらの支援方法は、健康まちづくりの取組みにおいて既に何らかの形で実践されていると考えられますが、改めて、その意義が確認された結果となりました。また職種間で、支援方法について認識や情報を共有することで、これまで実践されていなかった方法を検討するきっかけとなるかもしれません。

▶⑦ わかりやすい手引きの作成や研修体制などを充実させる

健康まちづくりについての考えを聞く質問のうち、「活動方法や手順がわかりやすい」について肯定的な割合は全体で 10.2%と低い結果となり、特に、校区担当保健師は 7.2%と低い結果でした。また校区担当保健師は、他の質問において、自身の健康まちづくりの優先度が他の職種よりも低い結果でした(C-13)。校区担当保健師は比較的年齢・経験の若い職員が多く(A-2)、またコロナ禍で従来の保健師活動ができていなかったという点も考慮する必要がありますが、健康まちづくりの進め方や地域との関わり方について、わかりやすい手引きを作成する、研修体制を充実させる、活動のフィードバックを充実させるなどのサポートが必要だと考えられます。自由記述においても、活動のメニュー化や、資料・研修会の充実などが必要といった声がありました(E-27)。

ただし、所属している組織について聞く質問では、職務において健康まちづくりが推奨されているという認識や、上司や同僚からの支援については高い評価であったため、区役所の組織として、そうした強みを活かしつつ、さらに上記のような課題を克服するサポートをすることが重要だと考えられます。また区役所別にみると、特に中央区や西区において、健康まちづくりの推進体制が比較的充実しており、また PDCA サイクルに沿った計画的な推進がされている傾向がみられました(C-23、C-24)。こうした区における推進体制や進め方のノウハウを共有することも重要かもしれません。

▶ ⑧ 「校区健康カルテ」を活用する

校区住民の健康課題やニーズを把握できていると回答した割合が、全体で22.4%と低い結果でした(C-17)。こうした課題に応えるための取組みの1つが「校区健康カルテ」です。

「校区健康カルテ」に関する質問では、カルテを認識している割合は全体で77.3%と高いことが示されました。ただし、職種別にみると、小学校長等にはほとんど認識されていない結果でした(38.6%)。また、まちづくりセンター職員は、カルテが校区の健康づくりに役立つと認識している割合が低い結果でした(全体で78.3%に対して50.7%; C-18)。そのため、こうした職種にもカルテを認識し活用してもらうための工夫が必要と考えられます。例えば、他の職種の活動にも役立つ指標を加えるなどの工夫が考えられます。また、地域関係者への調査の結果、カルテを知っている割合は全体で約2割という結果でしたので、地域でカルテの活用を促していくことも重要と考えられます。

▶ ⑨ 他校区の事例や意見を参考にする

この報告書では、参考になりそうな活動事例をたくさん紹介しています(D-26)。また、活動の工夫について、多くの意見をいただきました(D-27)。地域関係者への調査結果の報告書とあわせて、新しい活動のアイデアや方法の参考に、ぜひご活用ください。

▶ ⑩ 地域の強みを活かす

担当校区の特徴についての質問では、公共交通機関の利便性が高く地域の活動に参加する人が多い(中央区)、歩くのに適した歩道や緑道が多く集まれる場所が多い(東区)、集まる場所が有効に活用されている(中央区、南区など)、日常的に運動をしている人が多い(中央区)、お互いに助け合ったり思いやったりする人が多い(西区、北区)など、地域それぞれに特徴がみられました(D-25)。こうした特徴を「強み」として活動に活かすことが重要です。また、地域関係者への調査結果においても似た傾向がみられましたが(地域版 D-26)、若干異なる傾向もみられたため、地域関係者との認識に違いがあるかを確認することも意味があると考えられます。

アンケート集計結果

調査票で質問した各項目について、

- A. 回答者の属性
- B. 校区・地域での活動について
- C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について
- D. 小学校区/地域に関するお考え
- E. 自由記述 「健康まちづくり」の推進例やご意見

に分類し、市全体及び区役所別・職種別の集計結果をまとめました。

※調査票の問の順番と本報告書の項目の順番は必ずしも一致していません。

※担当校区をもつ職員は、主に担当する校区における健康まちづくりに関する質問、担当校区をもたない職員は、主に所属する区役所の地域全体における健康まちづくりに関する質問と、質問対象とする範囲について異なる聞き方をしております。

A. 回答者の属性

※職種別の集計の「その他の専門職等」は、項目3（次頁）の回答で、「2. 保健師（校区担当でない）」「3. 管理栄養士」「4. 医師、歯科医師」「5. 歯科衛生士」「9. その他」と回答した方です。

以降の職種別の回答では、すべてこの分類で集計をしています。

※割合について、数値が高いほど（100%に近いほど）濃い色となるように色付けしました。

1. あなたの性別を教えてください。（問25/23）

選択肢		区役所別 回答数（割合[%]）					
		全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1	男性	108 (34.5)	24 (36.4)	17 (27.4)	16 (37.2)	26 (37.1)	25 (34.7)
2	女性	201 (64.2)	42 (63.6)	43 (69.4)	26 (60.5)	44 (62.9)	46 (63.9)
	無回答など	4 (1.3)	0 (0.0)	2 (3.2)	1 (2.3)	0 (0.0)	1 (1.4)

選択肢		職種別 回答数（割合[%]）				
		保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1	男性	4 (4.4)	40 (59.7)	19 (33.3)	41 (71.9)	4 (9.8)
2	女性	86 (95.6)	26 (38.8)	38 (66.7)	14 (24.6)	36 (87.8)
	無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	2 (3.5)	1 (2.4)

2. あなたの年齢（令和3年9月1日時点）を教えてください。（問26/24）

選択肢		区役所別 回答数（割合[%]）					
		全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1	20歳代	43 (13.7)	8 (12.1)	10 (16.1)	5 (11.6)	12 (17.1)	8 (11.1)
2	30歳代	65 (20.8)	23 (34.8)	11 (17.7)	0 (0.0)	13 (18.6)	18 (25.0)
3	40歳代	101 (32.3)	19 (28.8)	24 (38.7)	19 (44.2)	22 (31.4)	17 (23.6)
4	50歳代	92 (29.4)	14 (21.2)	15 (24.2)	16 (37.2)	20 (28.6)	27 (37.5)
5	60歳代	10 (3.2)	2 (3.0)	1 (1.6)	3 (7.0)	3 (4.3)	1 (1.4)
	無回答など	2 (0.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)

選択肢		職種別 回答数（割合[%]）				
		保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1	20歳代	34 (37.8)	2 (3.0)	3 (5.3)	1 (1.8)	3 (7.3)
2	30歳代	23 (25.6)	28 (41.8)	9 (15.8)	1 (1.8)	4 (9.8)
3	40歳代	25 (27.8)	34 (50.7)	22 (38.6)	2 (3.5)	18 (43.9)
4	50歳代	8 (8.9)	2 (3.0)	19 (33.3)	50 (87.7)	12 (29.3)
5	60歳代	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.0)	3 (5.3)	3 (7.3)
	無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)

A. 回答者の属性

3. あなたの職種を教えてください。（問1/1）

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 保健師（校区担当）	90 (28.8)	18 (27.3)	20 (32.3)	12 (27.9)	20 (28.6)	20 (27.8)
2 保健師（校区担当でない）	13 (4.2)	3 (4.5)	3 (4.8)	1 (2.3)	4 (5.7)	2 (2.8)
3 管理栄養士	10 (3.2)	1 (1.5)	3 (4.8)	1 (2.3)	2 (2.9)	3 (4.2)
4 医師、歯科医師	3 (1.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	1 (2.3)	1 (1.4)	0 (0.0)
5 歯科衛生士	9 (2.9)	2 (3.0)	3 (4.8)	0 (0.0)	2 (2.9)	2 (2.8)
6 まちづくりセンター職員	67 (21.4)	19 (28.8)	16 (25.8)	6 (14.0)	15 (21.4)	11 (15.3)
7 ささえりあ職員	57 (18.2)	12 (18.2)	4 (6.5)	12 (27.9)	13 (18.6)	16 (22.2)
8 小学校長	57 (18.2)	10 (15.2)	9 (14.5)	8 (18.6)	12 (17.1)	18 (25.0)
9 その他	6 (1.9)	1 (1.5)	3 (4.8)	2 (4.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)

4-1. あなたは、現在の職種として通算でどのくらい働いていますか？（問27/25）

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 2年未満	80 (25.6)	16 (24.2)	19 (30.6)	9 (20.9)	19 (27.1)	17 (23.6)
2 2年～5年未満	85 (27.2)	21 (31.8)	16 (25.8)	13 (30.2)	15 (21.4)	20 (27.8)
3 5年～10年未満	45 (14.4)	12 (18.2)	11 (17.7)	4 (9.3)	7 (10.0)	11 (15.3)
4 10年以上	101 (32.3)	16 (24.2)	15 (24.2)	17 (39.5)	29 (41.4)	24 (33.3)
無回答など	2 (0.6)	1 (1.5)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 2年未満	26 (28.9)	28 (41.8)	9 (15.8)	13 (22.8)	3 (7.3)
2 2年～5年未満	18 (20.0)	30 (44.8)	16 (28.1)	13 (22.8)	8 (19.5)
3 5年～10年未満	7 (7.8)	2 (3.0)	22 (38.6)	13 (22.8)	1 (2.4)
4 10年以上	39 (43.3)	7 (10.4)	9 (15.8)	18 (31.6)	28 (68.3)
無回答など	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (2.4)

A. 回答者の属性

4-2. あなたは、現在の担当校区を通算でどのくらい担当していますか？/現在所属されている区役所には通算でどのくらい在職していますか？（問28/3）

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 2年未満	167 (53.4)	29 (43.9)	33 (53.2)	20 (46.5)	38 (54.3)	47 (65.3)
2 2年～5年未満	106 (33.9)	24 (36.4)	22 (35.5)	16 (37.2)	24 (34.3)	20 (27.8)
3 5年～10年未満	34 (10.9)	10 (15.2)	7 (11.3)	7 (16.3)	7 (10.0)	3 (4.2)
4 10年以上	6 (1.9)	3 (4.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	2 (2.8)
無回答など	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 2年未満	72 (80.0)	33 (49.3)	19 (33.3)	31 (54.4)	11 (26.8)
2 2年～5年未満	14 (15.6)	32 (47.8)	14 (24.6)	26 (45.6)	20 (48.8)
3 5年～10年未満	3 (3.3)	2 (3.0)	21 (36.8)	0 (0.0)	8 (19.5)
4 10年以上	1 (1.1)	0 (0.0)	3 (5.3)	0 (0.0)	2 (4.9)
無回答など	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

5. あなたは、現在担当している校区/地域にどの程度愛着がありますか？（問29/26）

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 とても愛着がある	81 (25.9)	19 (28.8)	15 (24.2)	17 (39.5)	11 (15.7)	19 (26.4)
2 愛着がある	187 (59.7)	34 (51.5)	41 (66.1)	24 (55.8)	49 (70.0)	39 (54.2)
3 どちらともいえない	37 (11.8)	11 (16.7)	5 (8.1)	2 (4.7)	9 (12.9)	10 (13.9)
4 あまり愛着がない	4 (1.3)	2 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.8)
5 まったく愛着がない	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)
無回答など	3 (1.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	1 (1.4)	1 (1.4)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 とても愛着がある	14 (15.6)	17 (25.4)	21 (36.8)	21 (36.8)	8 (19.5)
2 愛着がある	63 (70.0)	39 (58.2)	28 (49.1)	32 (56.1)	25 (61.0)
3 どちらともいえない	8 (8.9)	10 (14.9)	7 (12.3)	4 (7.0)	7 (17.1)
4 あまり愛着がない	4 (4.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5 まったく愛着がない	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	1 (1.1)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (2.4)

A. 回答者の属性

6. 現在担当されている小学校区/所属されている区役所を教えてください。(問2/2)

▶ 合計313人から回答をいただきました。校区担当職員の回答は1校区あたり平均3.0人でした。

中央区		東区		西区		南区		北区	
1 出水	2	20 秋津	3	38 池田	4	51 飽田西	4	72 麻生田	3
2 出水南	2	21 泉ヶ丘	3	39 池上	2	52 飽田東	4	73 植木	3
3 一新	3	22 画図	4	40 小島	3	53 飽田南	3	74 川上	3
4 大江	4	23 尾ノ上	3	41 春日	2	54 奥古閑	4	75 楠	2
5 帯山	4	24 健軍	4	42 河内	4	55 川口	4	76 桜井	3
6 帯山西	3	25 健軍東	3	43 城山	3	56 川尻	3	77 山東	3
7 黒髪	2	26 桜木	3	44 城西	4	57 隈庄	3	78 清水	3
8 慶徳	3	27 桜木東	3	45 白坪	3	58 城南	2	79 城北	2
9 向山	3	28 託麻北	1	46 高橋	3	59 杉上	1	80 高平台	3
10 壺川	3	29 託麻西	2	47 中島	1	60 銭塘	3	81 田底	3
11 五福	3	30 託麻東	1	48 花園	4	61 田迎	4	82 龍田	3
12 白川	3	31 託麻南	2	49 古町	2	62 田迎西	2	83 龍田西	3
13 城東	2	32 月出	3	50 芳野	3	63 田迎南	4	84 田原	4
14 砂取	4	33 長嶺	3			64 富合	3	85 西里	4
15 碩台	3	34 西原	3			65 豊田	3	86 楡木	2
16 託麻原	3	35 東町	4			66 中緑	4	87 菱形	3
17 白山	4	36 山ノ内	4			67 日吉	2	88 北部東	4
18 春竹	3	37 若葉	3			68 日吉東	4	89 武蔵	2
19 本荘	4					69 御幸	2	90 山本	4
						70 力合	1	91 弓削	4
						71 力合西	2	92 吉松	3
担当なし	8	担当なし	10	担当なし	5	担当なし	8	担当なし	8
計	66	計	62	計	43	計	70	計	72

全体計

313

B. 校区・地域での活動について

7. あなたの担当校区/担う業務において、支援をする（必要があれば支援をする）など、関わりがある地域の住民組織や団体をお教えてください。（問4/4） ※複数回答可

- ▶ 全体では民生委員・児童委員、主任児童委員が90.1%と最も多く、次いで校区社会福祉協議会の82.1%、校区自治協議会の80.5%でした。
- ▶ また職種による違いも示されました。他の職種と比較して関わりが多い組織等は以下の通りです。
 - ・校区担当保健師…子育て支援ネットワークなど
 - ・まちづくりセンター職員…町内自治会、消防団分団、地域公民館など
 - ・ささえりあ職員…老人クラブ、介護予防サポーターなど
 - ・小学校長等…PTA、防犯協会、子ども会、校区青少年健全育成協議会、スポーツ協会・団体など
 - ・その他の専門職等…食生活改善推進員、8020推進員など

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 校区自治協議会	252 (80.5)	58 (87.9)	45 (72.6)	36 (83.7)	54 (77.1)	59 (81.9)
2 校区社会福祉協議会	257 (82.1)	57 (86.4)	48 (77.4)	35 (81.4)	57 (81.4)	60 (83.3)
3 校区青少年健全育成協議会	134 (42.8)	34 (51.5)	30 (48.4)	15 (34.9)	22 (31.4)	33 (45.8)
4 町内自治会	222 (70.9)	53 (80.3)	44 (71.0)	30 (69.8)	44 (62.9)	51 (70.8)
5 民生委員・児童委員、主任児童委員	282 (90.1)	57 (86.4)	56 (90.3)	39 (90.7)	63 (90.0)	67 (93.1)
6 地域公民館	144 (46.0)	34 (51.5)	29 (46.8)	22 (51.2)	25 (35.7)	34 (47.2)
7 健康づくり部会・健康まちづくり委員会	106 (33.9)	17 (25.8)	14 (22.6)	20 (46.5)	23 (32.9)	32 (44.4)
8 スポーツ協会、スポーツ団体	91 (29.1)	20 (30.3)	20 (32.3)	16 (37.2)	16 (22.9)	19 (26.4)
9 P T A	144 (46.0)	33 (50.0)	24 (38.7)	14 (32.6)	32 (45.7)	41 (56.9)
10 食生活改善推進員	102 (32.6)	25 (37.9)	19 (30.6)	15 (34.9)	24 (34.3)	19 (26.4)
11 8020推進員	97 (31.0)	30 (45.5)	12 (19.4)	19 (44.2)	23 (32.9)	13 (18.1)
12 介護予防サポーター	79 (25.2)	19 (28.8)	12 (19.4)	14 (32.6)	11 (15.7)	23 (31.9)
13 まちづくり委員会	79 (25.2)	23 (34.8)	12 (19.4)	10 (23.3)	9 (12.9)	25 (34.7)
14 地域コミュニティセンター運営委員会	108 (34.5)	28 (42.4)	16 (25.8)	13 (30.2)	18 (25.7)	33 (45.8)
15 防犯協会	116 (37.1)	29 (43.9)	25 (40.3)	12 (27.9)	23 (32.9)	27 (37.5)
16 老人クラブ	155 (49.5)	24 (36.4)	30 (48.4)	27 (62.8)	34 (48.6)	40 (55.6)
17 子ども会	73 (23.3)	18 (27.3)	17 (27.4)	7 (16.3)	14 (20.0)	17 (23.6)
18 女性の会（地域婦人会）	64 (20.4)	11 (16.7)	13 (21.0)	9 (20.9)	11 (15.7)	20 (27.8)
19 公園愛護会	38 (12.1)	10 (15.2)	10 (16.1)	3 (7.0)	8 (11.4)	7 (9.7)
20 交通安全協会	105 (33.5)	21 (31.8)	21 (33.9)	13 (30.2)	22 (31.4)	28 (38.9)
21 消防団分団	71 (22.7)	20 (30.3)	14 (22.6)	8 (18.6)	13 (18.6)	16 (22.2)
22 子育て支援ネットワーク	143 (45.7)	24 (36.4)	32 (51.6)	19 (44.2)	35 (50.0)	33 (45.8)
23 N P O法人	35 (11.2)	8 (12.1)	5 (8.1)	6 (14.0)	9 (12.9)	7 (9.7)
24 上記以外のボランティア団体	31 (9.9)	8 (12.1)	9 (14.5)	5 (11.6)	5 (7.1)	4 (5.6)
25 その他	24 (7.7)	1 (1.5)	6 (9.7)	5 (11.6)	5 (7.1)	7 (9.7)

B. 校区・地域での活動について

(続き)

選択肢	職種別 回答数 (割合[%])				
	保健師 (校区担当)	まちづくり センター職員	ささえりあ 職員	小学校長等	その他の 専門職等
	N=90	N=67	N=57	N=57	N=41
1 校区自治協議会	72 (80.0)	65 (97.0)	45 (78.9)	51 (89.5)	19 (46.3)
2 校区社会福祉協議会	79 (87.8)	61 (91.0)	54 (94.7)	45 (78.9)	18 (43.9)
3 校区青少年健全育成協議会	20 (22.2)	54 (80.6)	7 (12.3)	50 (87.7)	3 (7.3)
4 町内自治会	48 (53.3)	67 (100.0)	47 (82.5)	47 (82.5)	13 (31.7)
5 民生委員・児童委員、主任児童委員	88 (97.8)	56 (83.6)	55 (96.5)	52 (91.2)	31 (75.6)
6 地域公民館	14 (15.6)	52 (77.6)	33 (57.9)	36 (63.2)	9 (22.0)
7 健康づくり部会・健康まちづくり委員会	29 (32.2)	26 (38.8)	19 (33.3)	16 (28.1)	16 (39.0)
8 スポーツ協会、スポーツ団体	6 (6.7)	41 (61.2)	7 (12.3)	36 (63.2)	1 (2.4)
9 P T A	32 (35.6)	49 (73.1)	3 (5.3)	52 (91.2)	8 (19.5)
10 食生活改善推進員	27 (30.0)	24 (35.8)	16 (28.1)	8 (14.0)	27 (65.9)
11 8020推進員	28 (31.1)	19 (28.4)	8 (14.0)	22 (38.6)	20 (48.8)
12 介護予防サポーター	18 (20.0)	14 (20.9)	34 (59.6)	3 (5.3)	10 (24.4)
13 まちづくり委員会	13 (14.4)	32 (47.8)	10 (17.5)	20 (35.1)	4 (9.8)
14 地域コミュニティセンター運営委員会	8 (8.9)	49 (73.1)	21 (36.8)	27 (47.4)	3 (7.3)
15 防犯協会	6 (6.7)	54 (80.6)	9 (15.8)	46 (80.7)	1 (2.4)
16 老人クラブ	28 (31.1)	37 (55.2)	43 (75.4)	32 (56.1)	14 (34.1)
17 子ども会	5 (5.6)	31 (46.3)	4 (7.0)	30 (52.6)	3 (7.3)
18 女性の会 (地域婦人会)	10 (11.1)	26 (38.8)	10 (17.5)	13 (22.8)	5 (12.2)
19 公園愛護会	0 (0.0)	34 (50.7)	1 (1.8)	2 (3.5)	1 (2.4)
20 交通安全協会	2 (2.2)	45 (67.2)	7 (12.3)	50 (87.7)	1 (2.4)
21 消防団分団	3 (3.3)	41 (61.2)	2 (3.5)	24 (42.1)	1 (2.4)
22 子育て支援ネットワーク	64 (71.1)	35 (52.2)	11 (19.3)	20 (35.1)	13 (31.7)
23 N P O法人	1 (1.1)	20 (29.9)	8 (14.0)	4 (7.0)	2 (4.9)
24 上記以外のボランティア団体	6 (6.7)	11 (16.4)	7 (12.3)	3 (5.3)	4 (9.8)
25 その他	12 (13.3)	3 (4.5)	1 (1.8)	4 (7.0)	4 (9.8)

B. 校区・地域での活動について

8. あなたの担当校区/地域は、職員として働きかけがしやすいと思いますか？（問5/5）

▶「強くそう思う」「そう思う」の合計が全体で70.0%、その割合は西区で最多でした。
また職種別にみると、小学校長等が最多で93.0%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 強くそう思う	28 (8.9)	6 (9.1)	6 (9.7)	6 (14.0)	3 (4.3)	7 (9.7)
2 そう思う	191 (61.0)	37 (56.1)	39 (62.9)	29 (67.4)	39 (55.7)	47 (65.3)
3 どちらともいえない	80 (25.6)	18 (27.3)	16 (25.8)	5 (11.6)	24 (34.3)	17 (23.6)
4 そう思わない	13 (4.2)	5 (7.6)	1 (1.6)	2 (4.7)	4 (5.7)	1 (1.4)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 強くそう思う	5 (5.6)	5 (7.5)	4 (7.0)	13 (22.8)	1 (2.4)
2 そう思う	44 (48.9)	43 (64.2)	39 (68.4)	40 (70.2)	24 (58.5)
3 どちらともいえない	32 (35.6)	17 (25.4)	13 (22.8)	4 (7.0)	14 (34.1)
4 そう思わない	9 (10.0)	2 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.9)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)

B. 校区・地域での活動について

9. あなたの担当校区/地域の住民組織や団体の関係者は、地域の状況や困りごとなど、あなたの業務の参考になるような情報を提供してくれていると思いますか？（問6/6）

▶「強く思う」「そう思う」の合計が全体で81.2%、その割合は北区で最多でした。
また職種別にみると、ささえりあ職員が最多で94.7%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 強く思う	39 (12.5)	8 (12.1)	9 (14.5)	10 (23.3)	4 (5.7)	8 (11.1)
2 そう思う	215 (68.7)	48 (72.7)	44 (71.0)	25 (58.1)	44 (62.9)	54 (75.0)
3 どちらともいえない	50 (16.0)	8 (12.1)	8 (12.9)	7 (16.3)	19 (27.1)	8 (11.1)
4 そう思わない	7 (2.2)	2 (3.0)	1 (1.6)	1 (2.3)	2 (2.9)	1 (1.4)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	2 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	1 (1.4)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 強く思う	13 (14.4)	6 (9.0)	8 (14.0)	11 (19.3)	1 (2.4)
2 そう思う	57 (63.3)	45 (67.2)	46 (80.7)	40 (70.2)	27 (65.9)
3 どちらともいえない	18 (20.0)	12 (17.9)	2 (3.5)	6 (10.5)	12 (29.3)
4 そう思わない	2 (2.2)	3 (4.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (2.4)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

B. 校区・地域での活動について

10. あなたの担当校区では、小学校区全体としてどのような取組みが重視されてきたと思いますか？あなたからみた、優先度が高いと思われる取組みを5つまで選択してください。（問7/-）

▶ 全体で「地域安全(防犯)に関する活動」が67.3%と最も多く、次いで「高齢者や介護予防に関する活動」(60.4%)、「健康まちづくりに関する活動」(59.6%)、「子どもの育成や健康に関する活動」(57.5%)の順番でした。これらの結果は職種による特徴も示されました。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=275	中央 N=58	東 N=52	西 N=38	南 N=62	北 N=65
1 健康まちづくりに関する活動	164 (59.6)	36 (62.1)	27 (51.9)	26 (68.4)	37 (59.7)	38 (58.5)
2 高齢者や介護予防に関する活動	166 (60.4)	42 (72.4)	32 (61.5)	25 (65.8)	33 (53.2)	34 (52.3)
3 障がい児・者に関する活動	8 (2.9)	2 (3.4)	2 (3.8)	3 (7.9)	1 (1.6)	0 (0.0)
4 子どもの育成や健康に関する活動	158 (57.5)	33 (56.9)	27 (51.9)	27 (71.1)	34 (54.8)	37 (56.9)
5 生活習慣病予防に関する活動	28 (10.2)	4 (6.9)	4 (7.7)	7 (18.4)	8 (12.9)	5 (7.7)
6 食生活の改善や食育に関する活動	21 (7.6)	8 (13.8)	2 (3.8)	1 (2.6)	7 (11.3)	3 (4.6)
7 歯・口の健康づくりに関する活動	29 (10.5)	9 (15.5)	1 (1.9)	6 (15.8)	7 (11.3)	6 (9.2)
8 町内自治会に関する活動	131 (47.6)	27 (46.6)	23 (44.2)	19 (50.0)	32 (51.6)	30 (46.2)
9 お祭りやイベントに関する活動	141 (51.3)	32 (55.2)	25 (48.1)	20 (52.6)	31 (50.0)	33 (50.8)
10 地域安全（防犯）に関する活動	185 (67.3)	38 (65.5)	32 (61.5)	30 (78.9)	44 (71.0)	41 (63.1)
11 防災に関する活動	133 (48.4)	42 (72.4)	27 (51.9)	16 (42.1)	22 (35.5)	26 (40.0)
12 文化・芸術に関する活動	19 (6.9)	7 (12.1)	1 (1.9)	2 (5.3)	8 (12.9)	1 (1.5)
13 環境美化（ゴミ拾いなどを含む）に関する活動	44 (16.0)	5 (8.6)	14 (26.9)	4 (10.5)	11 (17.7)	10 (15.4)
14 スポーツ（地域での運動会などを含む）に関する活動	67 (24.4)	11 (19.0)	14 (26.9)	8 (21.1)	17 (27.4)	17 (26.2)
15 その他	4 (1.5)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (1.6)	2 (3.1)
16 何もない	2 (0.7)	0 (0.0)	1 (1.9)	1 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
17 わからない	11 (4.0)	1 (1.7)	4 (7.7)	0 (0.0)	1 (1.6)	5 (7.7)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=88	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=5
1 健康まちづくりに関する活動	45 (51.1)	39 (58.2)	35 (61.4)	42 (73.7)	3 (60.0)
2 高齢者や介護予防に関する活動	67 (76.1)	39 (58.2)	49 (86.0)	8 (14.0)	3 (60.0)
3 障がい児・者に関する活動	3 (3.4)	3 (4.5)	0 (0.0)	2 (3.5)	0 (0.0)
4 子どもの育成や健康に関する活動	64 (72.7)	25 (37.3)	30 (52.6)	36 (63.2)	2 (40.0)
5 生活習慣病予防に関する活動	15 (17.0)	3 (4.5)	8 (14.0)	2 (3.5)	0 (0.0)
6 食生活の改善や食育に関する活動	7 (8.0)	3 (4.5)	7 (12.3)	3 (5.3)	1 (20.0)
7 歯・口の健康づくりに関する活動	11 (12.5)	3 (4.5)	5 (8.8)	10 (17.5)	0 (0.0)
8 町内自治会に関する活動	33 (37.5)	46 (68.7)	26 (45.6)	25 (43.9)	1 (20.0)
9 お祭りやイベントに関する活動	39 (44.3)	38 (56.7)	31 (54.4)	31 (54.4)	2 (40.0)
10 地域安全（防犯）に関する活動	52 (59.1)	46 (68.7)	40 (70.2)	44 (77.2)	3 (60.0)
11 防災に関する活動	33 (37.5)	40 (59.7)	21 (36.8)	36 (63.2)	3 (60.0)
12 文化・芸術に関する活動	3 (3.4)	5 (7.5)	5 (8.8)	6 (10.5)	0 (0.0)
13 環境美化（ゴミ拾いなどを含む）に関する活動	7 (8.0)	21 (31.3)	4 (7.0)	12 (21.1)	0 (0.0)
14 スポーツ（地域での運動会などを含む）に関する活動	9 (10.2)	17 (25.4)	12 (21.1)	27 (47.4)	1 (20.0)
15 その他	2 (2.3)	1 (1.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
16 何もない	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)
17 わからない	7 (8.0)	1 (1.5)	2 (3.5)	0 (0.0)	1 (20.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

11. あなたの担当校区において、校区としての「健康まちづくり」を統括的に担っている住民組織はどれですか？（問8/-）

▶ 全体で校区自治協議会が35.3%と最も多く、次いで校区社会福祉協議会(24.4%)でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=275	中央 N=58	東 N=52	西 N=38	南 N=62	北 N=65
1 校区自治協議会	97 (35.3)	16 (27.6)	11 (21.2)	16 (42.1)	29 (46.8)	25 (38.5)
2 校区社会福祉協議会	67 (24.4)	26 (44.8)	15 (28.8)	6 (15.8)	11 (17.7)	9 (13.8)
3 健康づくり部会・健康まちづくり部会	32 (11.6)	3 (5.2)	2 (3.8)	6 (15.8)	8 (12.9)	13 (20.0)
4 まちづくり委員会	15 (5.5)	2 (3.4)	2 (3.8)	3 (7.9)	0 (0.0)	8 (12.3)
5 その他	24 (8.7)	7 (12.1)	9 (17.3)	3 (7.9)	3 (4.8)	2 (3.1)
6 そのような住民組織はない	36 (13.1)	4 (6.9)	9 (17.3)	3 (7.9)	10 (16.1)	10 (15.4)
7 統括的ではないが、単体で担っている住民組織がある	10 (3.6)	1 (1.7)	4 (7.7)	0 (0.0)	4 (6.5)	1 (1.5)

※複数選択肢の回答もあったため、割合は合計で100%にはなっていません。

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=88	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=5
1 校区自治協議会	36 (40.9)	19 (28.4)	14 (24.6)	25 (43.9)	3 (60.0)
2 校区社会福祉協議会	12 (13.6)	21 (31.3)	20 (35.1)	13 (22.8)	1 (20.0)
3 健康づくり部会・健康まちづくり部会	11 (12.5)	7 (10.4)	7 (12.3)	7 (12.3)	0 (0.0)
4 まちづくり委員会	5 (5.7)	3 (4.5)	4 (7.0)	3 (5.3)	0 (0.0)
5 その他	4 (4.5)	7 (10.4)	6 (10.5)	6 (10.5)	1 (20.0)
6 そのような住民組織はない	17 (19.3)	9 (13.4)	4 (7.0)	4 (7.0)	1 (20.0)
7 統括的ではないが、単体で担っている住民組織がある	3 (3.4)	1 (1.5)	4 (7.0)	1 (1.8)	1 (20.0)

「その他」の内容	民生委員・児童委員・主任児童委員の協議会（5件）、コミュニティセンター（2件）、体育協会（2件）、スポーツ協会、子育てネットワーク、婦人会、ささえりあ、おばパト隊、わからない（9件）
「単体で担っている住民組織」の内容	校区自治協議会、校区社協と民生児童委員の協議会が連携、元気クラブ、健康まちづくり推進員、子育てネットワーク・自治連合会・防災連絡会、各民生委員さんがネットワークを働かせ、いろんな組織と協力してまちづくりイベントを行ったことがあった、青少年健全育成協議会、サロン

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

12. さまざまな校区の行事や活動があるなかで、あなたの担当校区では、校区として「健康まちづくりに関する活動」の優先度はどの程度だと思いますか？（問9/-）

▶「最も優先されている」「比較的優先されている」の合計が全体で47.6%、その割合は西区で最多でした。また職種別にみると、小学校長等が最多で57.9%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=275	中央 N=58	東 N=52	西 N=38	南 N=62	北 N=65
1 最も優先されている	7 (2.5)	4 (6.9)	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (1.6)	1 (1.5)
2 比較的優先されている	124 (45.1)	26 (44.8)	22 (42.3)	23 (60.5)	24 (38.7)	29 (44.6)
3 どちらともいえない	106 (38.5)	22 (37.9)	22 (42.3)	11 (28.9)	27 (43.5)	24 (36.9)
4 あまり優先されていない	32 (11.6)	5 (8.6)	5 (9.6)	4 (10.5)	10 (16.1)	8 (12.3)
5 全く優先されていない	4 (1.5)	1 (1.7)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.1)
無回答など	2 (0.7)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.5)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=88	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=5
1 最も優先されている	2 (2.3)	4 (6.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
2 比較的優先されている	36 (40.9)	25 (37.3)	29 (50.9)	33 (57.9)	1 (20.0)
3 どちらともいえない	33 (37.5)	28 (41.8)	22 (38.6)	20 (35.1)	2 (40.0)
4 あまり優先されていない	16 (18.2)	8 (11.9)	4 (7.0)	3 (5.3)	1 (20.0)
5 全く優先されていない	1 (1.1)	1 (1.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (20.0)
無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

13. あなた自身の職務のなかで、担当校区/地域の「健康まちづくり」を推進することの優先度はどの程度ですか？新型コロナウイルス感染症発生前と現在において、各々にお答え下さい。（問10/9）

- ▶ ①新型コロナウイルス感染症発生前では「最も優先していた」「比較的優先していた」の合計が全体で51.4%でしたが、②現在（調査時点）では「最も優先している」「比較的優先している」が全体で30.7%と低下したことがわかりました。また職種別にみると、校区担当保健師が①68.9%→②14.4%と変化が大きいことがわかりました。

【①新型コロナウイルス感染症発生前】

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 最も優先していた	8 (2.6)	1 (1.5)	4 (6.5)	0 (0.0)	3 (4.3)	0 (0.0)
2 比較的優先していた	153 (48.9)	32 (48.5)	20 (32.3)	30 (69.8)	32 (45.7)	39 (54.2)
3 どちらともいえない	117 (37.4)	28 (42.4)	23 (37.1)	11 (25.6)	30 (42.9)	25 (34.7)
4 あまり優先しなかった	29 (9.3)	5 (7.6)	12 (19.4)	2 (4.7)	5 (7.1)	5 (6.9)
5 全く優先しなかった	3 (1.0)	0 (0.0)	2 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)
無回答など	3 (1.0)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 最も優先していた	1 (1.1)	0 (0.0)	4 (7.0)	1 (1.8)	2 (4.9)
2 比較的優先していた	61 (67.8)	19 (28.4)	32 (56.1)	20 (35.1)	21 (51.2)
3 どちらともいえない	23 (25.6)	35 (52.2)	19 (33.3)	30 (52.6)	10 (24.4)
4 あまり優先しなかった	4 (4.4)	11 (16.4)	2 (3.5)	3 (5.3)	8 (19.5)
5 全く優先しなかった	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	2 (3.5)	0 (0.0)
無回答など	1 (1.1)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)

【②現在】

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 最も優先している	12 (3.8)	2 (3.0)	3 (4.8)	3 (7.0)	4 (5.7)	0 (0.0)
2 比較的優先している	84 (26.8)	18 (27.3)	19 (30.6)	13 (30.2)	15 (21.4)	19 (26.4)
3 どちらともいえない	146 (46.6)	34 (51.5)	19 (30.6)	22 (51.2)	38 (54.3)	33 (45.8)
4 あまり優先していない	61 (19.5)	12 (18.2)	18 (29.0)	4 (9.3)	13 (18.6)	14 (19.4)
5 全く優先していない	8 (2.6)	0 (0.0)	2 (3.2)	1 (2.3)	0 (0.0)	5 (6.9)
無回答など	2 (0.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 最も優先している	1 (1.1)	0 (0.0)	6 (10.5)	3 (5.3)	2 (4.9)
2 比較的優先している	12 (13.3)	22 (32.8)	19 (33.3)	19 (33.3)	12 (29.3)
3 どちらともいえない	38 (42.2)	33 (49.3)	27 (47.4)	30 (52.6)	18 (43.9)
4 あまり優先していない	34 (37.8)	10 (14.9)	5 (8.8)	4 (7.0)	7 (17.1)
5 全く優先していない	5 (5.6)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.9)
無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

14. あなた自身の考えとして、あなたが担当する校区/地域において、「健康まちづくり」を行う必要性はどの程度感じますか？（問11/10）

▶ 「大変重要である」「重要である」の合計が全体で77.0%、その割合は南区で最多でした。
また職種別にみると、ささえりあ職員が最多で94.7%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 大変重要である	35 (11.2)	13 (19.7)	5 (8.1)	5 (11.6)	6 (8.6)	6 (8.3)
2 重要である	206 (65.8)	38 (57.6)	37 (59.7)	32 (74.4)	56 (80.0)	43 (59.7)
3 どちらともいえない	67 (21.4)	15 (22.7)	18 (29.0)	6 (14.0)	8 (11.4)	20 (27.8)
4 あまり重要でない	3 (1.0)	0 (0.0)	2 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)
5 全く重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	2 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 大変重要である	6 (6.7)	6 (9.0)	13 (22.8)	2 (3.5)	8 (19.5)
2 重要である	51 (56.7)	38 (56.7)	41 (71.9)	47 (82.5)	28 (68.3)
3 どちらともいえない	32 (35.6)	22 (32.8)	1 (1.8)	8 (14.0)	4 (9.8)
4 あまり重要でない	1 (1.1)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (2.4)
5 全く重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	0 (0.0)	1 (1.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

15. あなたの担当校区/地域で取り組むべき健康づくり対策として、どのようなことが大事だと思いますか？あなたが大事だと思う優先度の高いものを5つまで選択してください。（○は5つまで）（問12/12）

▶ 全体で「地域のふれあい」が87.5%と最も多く、次いで「子どもの健全な育成」(86.9%)、「高齢者の介護・フレイル予防」(68.7%)、「食生活の改善や食育の推進」(50.5%)、「スポーツの推進や身体活動量の増加」(41.5%)、の順番でした。これらの結果は区や職種別の違いも示されました。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 地域のふれあい（孤立の防止や世代間交流を含む）	274 (87.5)	60 (90.9)	54 (87.1)	39 (90.7)	60 (85.7)	61 (84.7)
2 スポーツの推進や身体活動量の増加	130 (41.5)	30 (45.5)	27 (43.5)	13 (30.2)	25 (35.7)	35 (48.6)
3 食生活の改善や食育の推進	158 (50.5)	26 (39.4)	28 (45.2)	25 (58.1)	42 (60.0)	37 (51.4)
4 歯・口の健康づくりの推進（むし歯や歯周病予防など）	95 (30.4)	11 (16.7)	15 (24.2)	13 (30.2)	29 (41.4)	27 (37.5)
5 特定健診やがん検診などの受診率の向上	126 (40.3)	22 (33.3)	20 (32.3)	22 (51.2)	33 (47.1)	29 (40.3)
6 ストレス対策（こころの支援）	58 (18.5)	15 (22.7)	9 (14.5)	4 (9.3)	17 (24.3)	13 (18.1)
7 喫煙対策	6 (1.9)	1 (1.5)	2 (3.2)	1 (2.3)	1 (1.4)	1 (1.4)
8 飲酒対策	14 (4.5)	3 (4.5)	1 (1.6)	1 (2.3)	6 (8.6)	3 (4.2)
9 感染症対策	56 (17.9)	8 (12.1)	17 (27.4)	9 (20.9)	6 (8.6)	16 (22.2)
10 子どもの健全な育成（肥満対策や虐待予防など）	272 (86.9)	57 (86.4)	54 (87.1)	37 (86.0)	63 (90.0)	61 (84.7)
11 高齢者の虐待予防	50 (16.0)	10 (15.2)	14 (22.6)	7 (16.3)	9 (12.9)	10 (13.9)
12 高齢者の介護・フレイル予防	215 (68.7)	52 (78.8)	42 (67.7)	33 (76.7)	41 (58.6)	47 (65.3)
13 特定の病気の予防・対策	21 (6.7)	1 (1.5)	3 (4.8)	4 (9.3)	10 (14.3)	3 (4.2)
14 その他	11 (3.5)	4 (6.1)	1 (1.6)	1 (2.3)	3 (4.3)	2 (2.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 地域のふれあい（孤立の防止や世代間交流を含む）	80 (88.9)	65 (97.0)	55 (96.5)	45 (78.9)	28 (68.3)
2 スポーツの推進や身体活動量の増加	32 (35.6)	35 (52.2)	15 (26.3)	32 (56.1)	16 (39.0)
3 食生活の改善や食育の推進	43 (47.8)	24 (35.8)	32 (56.1)	30 (52.6)	29 (70.7)
4 歯・口の健康づくりの推進（むし歯や歯周病予防など）	24 (26.7)	5 (7.5)	19 (33.3)	28 (49.1)	18 (43.9)
5 特定健診やがん検診などの受診率の向上	67 (74.4)	15 (22.4)	22 (38.6)	7 (12.3)	14 (34.1)
6 ストレス対策（こころの支援）	11 (12.2)	17 (25.4)	9 (15.8)	16 (28.1)	5 (12.2)
7 喫煙対策	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.3)	3 (7.3)
8 飲酒対策	5 (5.6)	1 (1.5)	5 (8.8)	2 (3.5)	1 (2.4)
9 感染症対策	5 (5.6)	13 (19.4)	11 (19.3)	22 (38.6)	5 (12.2)
10 子どもの健全な育成（肥満対策や虐待予防など）	82 (91.1)	57 (85.1)	52 (91.2)	54 (94.7)	26 (63.4)
11 高齢者の虐待予防	11 (12.2)	12 (17.9)	25 (43.9)	0 (0.0)	2 (4.9)
12 高齢者の介護・フレイル予防	71 (78.9)	45 (67.2)	53 (93.0)	11 (19.3)	35 (85.4)
13 特定の病気の予防・対策	13 (14.4)	1 (1.5)	3 (5.3)	0 (0.0)	4 (9.8)
14 その他	1 (1.1)	1 (1.5)	6 (10.5)	0 (0.0)	2 (4.9)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

(続き)

「特定の病気の予防・対策」の内容	糖尿病（9件）、心疾患や脳血管疾患等の血管系の病気・障がい（8件）、高血圧（4件）、慢性腎臓病（3件）、生活習慣病（2件）、認知症（1件）
「その他」の内容	買物難民(2件)、高齢者の社会参加(2件)、校区の団結、認知症施策、地域の理解、生活習慣病の予防、人口減少の問題、地域の方が参加する健康活動や運動(例えば朝のラジオ体操、中国で朝から地域の人々が集まって気功をするような活動)、日常生活において楽しく歩け、知らないうちにエネルギーを消費するしかけ

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

16. 担当校区/地域において、住民組織や団体が、これからさらに主体的に「健康まちづくり」を進めていくために、行政としてどのような支援方法が有効だと思いますか？あなたが有効だと思うものを5つまで選択してください。（○は5つまで）（問13/11）

▶ 全体で「行政職員や関係機関の連携・協力を強化する」が71.6%と最も多く、次いで「校区の状況をデータで示す」(70.9%)、「組織のリーダーと対話を重ねる」(53.7%)、「会議などで校区の健康課題などを話し合う」(53.4%)、「校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する」(50.8%)、の順番でした。これらの結果は区や職種別の違いも示されました。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 校区の状況をデータで示す	222 (70.9)	40 (60.6)	44 (71.0)	36 (83.7)	48 (68.6)	54 (75.0)
2 組織のリーダーと対話を重ねる	168 (53.7)	40 (60.6)	30 (48.4)	23 (53.5)	33 (47.1)	42 (58.3)
3 会議などで校区の健康課題などを話し合う	167 (53.4)	37 (56.1)	28 (45.2)	26 (60.5)	42 (60.0)	34 (47.2)
4 活動方法をまとめた資料を用意する	26 (8.3)	2 (3.0)	5 (8.1)	5 (11.6)	7 (10.0)	7 (9.7)
5 校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する	159 (50.8)	24 (36.4)	36 (58.1)	27 (62.8)	33 (47.1)	39 (54.2)
6 専門的な委員会の設置を促す	24 (7.7)	4 (6.1)	5 (8.1)	6 (14.0)	3 (4.3)	6 (8.3)
7 健康まちづくりの推進員を育成する	78 (24.9)	17 (25.8)	14 (22.6)	12 (27.9)	22 (31.4)	13 (18.1)
8 協力してくれそうな新しい組織や人を探す	75 (24.0)	17 (25.8)	14 (22.6)	8 (18.6)	18 (25.7)	18 (25.0)
9 他校区と情報交換・共有する機会を設定する	52 (16.6)	16 (24.2)	12 (19.4)	3 (7.0)	8 (11.4)	13 (18.1)
10 行政職員や関係機関の連携・協力を強化する	224 (71.6)	41 (62.1)	44 (71.0)	37 (86.0)	51 (72.9)	51 (70.8)
11 市／区役所内の推進体制を強化する	53 (16.9)	10 (15.2)	9 (14.5)	7 (16.3)	17 (24.3)	10 (13.9)
12 健康まちづくりに関する財源を増やす	54 (17.3)	7 (10.6)	8 (12.9)	10 (23.3)	12 (17.1)	17 (23.6)
13 地域の人が集まれる新たな場所を確保する	36 (11.5)	5 (7.6)	7 (11.3)	6 (14.0)	10 (14.3)	8 (11.1)
14 住民のニーズ調査の実施を支援する	60 (19.2)	11 (16.7)	13 (21.0)	9 (20.9)	14 (20.0)	13 (18.1)
15 その他	10 (3.2)	4 (6.1)	1 (1.6)	0 (0.0)	2 (2.9)	3 (4.2)
16 既に自律した活動が行われており、これ以上の支援は必要ない	3 (1.0)	1 (1.5)	2 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 校区の状況をデータで示す	73 (81.1)	36 (53.7)	42 (73.7)	40 (70.2)	30 (73.2)
2 組織のリーダーと対話を重ねる	69 (76.7)	22 (32.8)	30 (52.6)	23 (40.4)	23 (56.1)
3 会議などで校区の健康課題などを話し合う	65 (72.2)	24 (35.8)	34 (59.6)	25 (43.9)	19 (46.3)
4 活動方法をまとめた資料を用意する	7 (7.8)	10 (14.9)	4 (7.0)	3 (5.3)	2 (4.9)
5 校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する	57 (63.3)	28 (41.8)	34 (59.6)	20 (35.1)	19 (46.3)
6 専門的な委員会の設置を促す	3 (3.3)	0 (0.0)	7 (12.3)	12 (21.1)	1 (2.4)
7 健康まちづくりの推進員を育成する	9 (10.0)	24 (35.8)	11 (19.3)	26 (45.6)	8 (19.5)
8 協力してくれそうな新しい組織や人を探す	25 (27.8)	19 (28.4)	9 (15.8)	11 (19.3)	11 (26.8)
9 他校区と情報交換・共有する機会を設定する	17 (18.9)	11 (16.4)	15 (26.3)	5 (8.8)	4 (9.8)
10 行政職員や関係機関の連携・協力を強化する	74 (82.2)	39 (58.2)	42 (73.7)	41 (71.9)	27 (65.9)
11 市／区役所内の推進体制を強化する	6 (6.7)	12 (17.9)	17 (29.8)	9 (15.8)	9 (22.0)
12 健康まちづくりに関する財源を増やす	4 (4.4)	14 (20.9)	14 (24.6)	19 (33.3)	3 (7.3)
13 地域の人が集まれる新たな場所を確保する	2 (2.2)	8 (11.9)	14 (24.6)	5 (8.8)	7 (17.1)
14 住民のニーズ調査の実施を支援する	17 (18.9)	8 (11.9)	12 (21.1)	11 (19.3)	12 (29.3)
15 その他	1 (1.1)	4 (6.0)	4 (7.0)	0 (0.0)	1 (2.4)
16 既に自律した活動が行われており、これ以上の支援は必要ない	1 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (2.4)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

(続き)

「その他」の内容	・ 民間企業・団体等との連携・協力（4件）。 ・ 校区の団結。 ・ 地域に予算をどのような形でか計上でできれば、地域力はかなりあると思うので健康まちづくりは推進可能と思われる。 ・ 健康まちづくり委員会が会議体としてはあるが住民組織や団体としては予算や規約があるわけでもなく基盤が不安定であるため、そこを整える。 ・ 老人の無料タクシー、買い物支援ができる工夫してほしい。 ・ 住民も一体となって活動できるような体制づくり。 ・ 特にリーダー的人材の確保（今後の世代交代の為）。
----------	---

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

17. あなたは、熊本市が小学校区単位の健康関連データをまとめた「校区健康カルテ」を作成していることを知っていますか？（問14/13）

▶「知っており、自分の担当校区のカルテを見たことがある」が全体で77.3%、その割合は中央区で最多でした。また職種別にみると、校区担当保健師が最多で98.9%でした。

選択肢		区役所別 回答数（割合[%]）					
		全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1	知っており、自分の担当校区のカルテを見たことがある	242 (77.3)	53 (80.3)	49 (79.0)	33 (76.7)	55 (78.6)	52 (72.2)
2	知っているが、自分の担当校区のカルテはまだ見ていない	27 (8.6)	7 (10.6)	4 (6.5)	3 (7.0)	5 (7.1)	8 (11.1)
3	知らなかった	42 (13.4)	6 (9.1)	8 (12.9)	7 (16.3)	10 (14.3)	11 (15.3)
	無回答など	2 (0.6)	0 (0.0)	1 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)

選択肢		職種別 回答数（割合[%]）				
		保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1	知っており、自分の担当校区のカルテを見たことがある	89 (98.9)	65 (97.0)	53 (93.0)	5 (8.8)	30 (73.2)
2	知っているが、自分の担当校区のカルテはまだ見ていない	0 (0.0)	1 (1.5)	3 (5.3)	17 (29.8)	5 (12.2)
3	知らなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	35 (61.4)	6 (14.6)
	無回答など	1 (1.1)	1 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

17-1. 17の質問で「1. 知っており、自分の担当校区のカルテを見たことがある」とお答えした人にお聞きします。「校区健康カルテ」をどの程度活用しましたか？（問14-1/13-1）

▶「既に活用した」「活用を予定している」の合計が全体で81.0%、その割合は北区で最多でした。また職種別にみると、校区担当保健師が最多で98.9%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=242	中央 N=53	東 N=49	西 N=33	南 N=55	北 N=52
1 既に活用した（関係者への共有、話し合いなど）	88 (36.4)	21 (39.6)	5 (10.2)	13 (39.4)	23 (41.8)	26 (50.0)
2 活用を検討中である	108 (44.6)	15 (28.3)	33 (67.3)	16 (48.5)	23 (41.8)	21 (40.4)
3 活用の予定はない	46 (19.0)	17 (32.1)	11 (22.4)	4 (12.1)	9 (16.4)	5 (9.6)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=89	まちづくり センター職員 N=65	ささえりあ 職員 N=53	小学校長等 N=5	その他の 専門職等 N=30
1 既に活用した（関係者への共有、話し合いなど）	51 (57.3)	13 (20.0)	10 (18.9)	2 (40.0)	12 (40.0)
2 活用を検討中である	37 (41.6)	24 (36.9)	35 (66.0)	0 (0.0)	12 (40.0)
3 活用の予定はない	1 (1.1)	28 (43.1)	8 (15.1)	3 (60.0)	6 (20.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

17-2. 17-1の質問で「1. 既に活用した」とお答えした人にお聞きます。住民に「校区健康カルテ」を提示した反応はどのようなものでしたか？（問14-2/13-2）

▶ 「大いに興味をもっていた」「興味をもっていた」の合計が全体で69.3%、その割合は西区で最多でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=88	中央 N=21	東 N=5	西 N=13	南 N=23	北 N=26
1 大いに興味をもっていた	12 (13.6)	0 (0.0)	1 (20.0)	5 (38.5)	1 (4.3)	5 (19.2)
2 興味をもっていた	49 (55.7)	15 (71.4)	1 (20.0)	7 (53.8)	8 (34.8)	18 (69.2)
3 どちらともいえない	16 (18.2)	5 (23.8)	1 (20.0)	0 (0.0)	9 (39.1)	1 (3.8)
4 あまり興味をもっていなかった	2 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (3.8)
5 全く興味をもっていなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
6 住民には提示していない(職員間のみでの共有等)	9 (10.2)	1 (4.8)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (21.7)	1 (3.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=51	まちづくり センター職員 N=13	ささえりあ 職員 N=10	小学校長等 N=2	その他の 専門職等 N=12
1 大いに興味をもっていた	7 (13.7)	2 (15.4)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (16.7)
2 興味をもっていた	33 (64.7)	3 (23.1)	9 (90.0)	1 (50.0)	3 (25.0)
3 どちらともいえない	6 (11.8)	7 (53.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (25.0)
4 あまり興味をもっていなかった	1 (2.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5 全く興味をもっていなかった	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
6 住民には提示していない(職員間のみでの共有等)	4 (7.8)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	4 (33.3)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

18. 「校区健康カルテ」は、校区の健康づくりに役立つと思いますか？（問15/14）

▶ 「強く思う」「そう思う」の合計が全体で78.3%、その割合は西区で最多でした。
また職種別にみると、校区担当保健師が最多で91.1%でした。

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 強く思う	38 (12.1)	9 (13.6)	7 (11.3)	6 (14.0)	10 (14.3)	6 (8.3)
2 そう思う	207 (66.1)	42 (63.6)	38 (61.3)	33 (76.7)	42 (60.0)	52 (72.2)
3 どちらともいえない	56 (17.9)	11 (16.7)	16 (25.8)	3 (7.0)	14 (20.0)	12 (16.7)
4 そう思わない	8 (2.6)	3 (4.5)	1 (1.6)	0 (0.0)	4 (5.7)	0 (0.0)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	4 (1.3)	1 (1.5)	0 (0.0)	1 (2.3)	0 (0.0)	2 (2.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 強く思う	17 (18.9)	1 (1.5)	7 (12.3)	4 (7.0)	9 (22.0)
2 そう思う	65 (72.2)	33 (49.3)	42 (73.7)	40 (70.2)	26 (63.4)
3 どちらともいえない	8 (8.9)	23 (34.3)	7 (12.3)	12 (21.1)	6 (14.6)
4 そう思わない	0 (0.0)	8 (11.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
5 全くそう思わない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
無回答など	0 (0.0)	2 (3.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

19. 「校区健康カルテ」についての感想やご意見（追加してほしい項目や改善点など）があればお聞かせください。（問16/15）

▶ 合計で106件のご回答をいただきました。
内容を整理した結果、大きく「感想」と「追加項目や改善などの意見」の2つに分類できました。
より具体的な内容や回答例を以下にまとめました。

※回答例はなるべくそのまま記載していますが、必要に応じて若干の編集を加えたものもあります。

（１）感想

項目	回答内容
①わかりやすい	健診の受診率等分かりやすくまとめてあると思う。 わかりやすい「校区健康カルテ」だと思う。栄養士が校区へ出向き、地域住民へ啓発する機会があれば良いと思う。
②住民の反応が良かった	市や区全体との比較もでき、住民の反応がよかった。 校区健康カルテの検討会に参加したが、校区の特性がデータを見ることでわかりやすい。地域住民からも、自分の校区、できれば町内毎にデータを見てみたいという意見がでていた。
③校区の特色や課題が把握できた	校区ごとの特色が良くわかる。 各校区の知らなかった特徴を知ることができた。 校区の健康についての情報がくわしくわかり参考になりました。特に、肥満傾向の割合が高いため、小学校でも対策をとり、健康な子どもたちの育成に貢献していきたいと思う。
④活用していきたい	校区の健康課題は将来の子どもたち（今元気な子どもたち）の課題にもなる。 将来を見据えた健康づくりを進めていくために活用していく方向で検討している。

（２）追加項目や改善などの意見

項目	回答内容
①データ分析結果のコメントを記載してほしい	分析結果が文章で示してあればいいと思う。見て推測はできるが、住民に分析して伝えるとなると難しい。又、その上で未来がどうなるか予測的なものもあれば望ましい。
	未来を見据えたこまかな分析結果の記入があればいいと思う。
	住民にカルテを用いて説明する時はデータ分析（比較：経年的、他校区）をしてからお伝えしているが、住民がHPからダウンロードして見た時に説明がなくとも分かるように、あらかじめ校区の特徴や傾向をカルテに記載しておいて頂けるとありがたい。
	校区毎に行政としてカルテの内容の何を問題視し、課題ととらえているのか、そのアセスメントが記載されていると参考になる。
	他の校区と一概に比較はできないが、ここは地域として弱い、ここは強い分野など、データから読みとれる分析、特徴を示すと、地域の特徴や、ここをもっと力をいれないといけないなど分かり、次の施策に展開しやすい。
	校区の傾向、まとめを追加してほしい（データだけでは、どう読みとっていいのかわからない）。健康まちづくりの改善のための方向性や提案を追加してほしい。

項目	回答内容
①データ分析結果のコメントを記載してほしい [続き]	校区健康カルテの見方（データをどのように促えるか）についての資料があると、校区の方に説明しやすく有りがたい。
	経年データなので、経年的な変化がどのような意味を持っているのかを項目ごとにアドバイスをもらいたい（特に、日頃からデータをよく扱っている方から見てのアドバイスをもらえると欠けていた視点が補えると思う）。
	様々なデータがあげられているが、見方がよくわからないのではないかな。それぞれに傾向と今後の対策が書かれているとわかりやすいと思う。
	がん等の病気の種類を校区ごとに状況を表してありますが、要因などをかいてあればよいのかなと思う。
	カルテの結果を受けての、校区の健康課題が何かについてのコメントがあるとよい。
	各項目において、データから見える概況やデータの原因等の分析コメントがあると、わかりり易い。
	病気の要因・原因の記述があればと思う。 他の校区と比較してどのような特徴があるか、など書いてあるとわかりやすいと思う。（高齢者が多い、核家族が多い…など）
②国保や健診受診者以外のデータもほしい	成人の状況は、特定健診の受診者のみの傾向であるので、もっと多くのデータを集約でき分析できればいいと思う。
	データが国保のみなので健康保険組合などのデータが追加してもらえればさらに有効なものになるのでは… 国保の特定健診のデータだけでなく、NDBを活用し、他の保険者のデータも含めて、有所見者や生活習慣の状況が出せると良い（国保加入者が少ない校区だと特に）。
③少人数校区のデータの振れ幅が大きく比較しにくい	校区の人口が少ないために割合などが大きく出るためデータがよみとりづらい（特に子ども…2人出生で1人・該当すると5割になってしまう）（比較しにくい）。
	人口規模の小さい所や、高齢化の高い校区では、現在の人口構成のグラフや将来推計のグラフは住民さんには見せれません。必要な所を抜粋して使用しています。グラフの幅を校区ごとに変えて頂けるとありがたい。
	出生数の少ない校区では、「子どもの状況」（出生率以外）のところは振れ幅が大きく、なかなか状況をつかみづらい。

項目	回答内容
④追加の項目についての意見	医療費割合（疾病分類）
	サロン、集いの場の数（施設数ではなく活動の数）
	認知症サポーターの登録者数も情報として頂きたい。
	子ども状況「規則正しい生活習慣の割合」に小学生（例：6年）、中学生（例：中2）を入れていただくと、小中学生の子どもを持つご家庭の意識も高まるのではないかな。
	子どものう蝕（むし歯）のデータが出ていますので、歯・口のライフコースにおける集大成的な位置にある「咀嚼」も入ると思う。 途中で追加となった食べる速さ（特定健診の質問）と、保健指導の判定区分（情報提供、動機づけなど）をクロス集計するとおもしろいのでは？ メタボ肥満防止のため、早食（ゆっくりよくかんで食べる）の視点も加えてほしい。厚労省の公表データに熊本県は働き世代の早食が多かった。
	状況の中で、認知症の割合や、肥満、低栄養といった詳しい所を2～3項目追加してほしい。校区のプレゼンに活用する上で現在では、人口構成と、認定率しか活用できなかった。
⑤集計方法や見せ方についての意見	関係者より、高齢者サロンの項目が入ると良いと意見をもらった。老人クラブや元氣くらぶより、サロンの方が各校区での数も多く介護予防活動の指標になるのではないかな。
	市の中で校区がどの位置にあるのか、近隣校区との比較があるとよい。
	地域ごとのランキングなどがあると分かりやすいかなと思います。（ワーストも、良いところも）→健康課題など地域の方にとっても分かりやすい。役員さん方の声などの反映があると引継ぎや校区の魅力もより伝わるのかもしれないと思う。
	市と同じ人口規模の自治体のデータ（生活環境の似た）があると良い。
	他校区と比較してそのデータが高い方か低い方かなど分かると良いなと思う。
	国、同規模市町村との比較がしたい（全国的に見れば悪いデータも、市や区との比較では似たりよったりで改善意識につながりにくそうなため）。乳幼児や児童の生活習慣に関するものを1項目ずつ。
	他校区との比較が一目でわかるような表があれば良いと思う。
	将来人口ピラミッドがわかりづらい。
	子どもの生活リズム、21時台までの就寝は20時台までに修正してほしい。
	校区によって人口規模がかなり違うので、区ごとのものもほしい。
	地域のみなさんは町内ごとの集計を求めているようだ。
	現時点で校区の役員さん達が興味を持っているデータではないため、活用するために、他のデータから関連を示さなければならない。
	いくつかの調査項目において、単に居住校区が要因となるとは思わない（死亡率の種別や生活習慣など）。
	継続的データ作成と住民にわかりやすい表示に向けた検討。
	校区健康カルテ（第2版）の出生率の部分だけ最新のデータが2017年のものなので、もう少し新しいデータだと現状の出生率が分かりやすいと思う。
	ややデータが古いものもあるので、最新のものとがあると、より参考になる。

項目	回答内容
⑥データ更新の時期についての意見	9 2 校区分あり、地域や庁内との共通のツールとして活かしていきたいが、毎年更新されなければ意味がなく、今後もしっかりと整備を続けて頂けるのが心配。そうでないと、「やりっ放し」と言われてしまいそう。 健康カルテの更新について、明確にしてほしい（毎年、2 年に一度等）。
⑦広報の必要性	もっと広報の必要性を感じる。 認知度の低さをどう補い高めていくかが課題。 校区住民にまず存在をアピールした方がよい。ただ、コロナ禍にあり、現状では周知も難しい。 一般住民への周知がなされていないのではないかな。
⑧活用方法や活用例を知りたい	校区でどのように活用できるのか、参考となる具体的ケースがあれば示していただきたい。 各校区でのデータが詳しく記載されているのでわかりやすいが、その後の地域の取組・個人の取組を、どのように周知していくか、行動に移すか。地域の反応、声をとらえることが困難。 データをもとに課題の分析方法や他の地域での活用例など知りたい。 校区ごとの特色は客観的に見ることができると、具体的に活用するとなると、方法が思い浮かばない。活用方法の例などがあればと思う。 今後の要望として校区健康カルテの活用例（良かった点、注意する点など）を示してほしい。
⑨活用方法についての意見や提案	子どもたちがわかりやすい校区健康カルテを作って、小学校や中学校の総合的学習の時間などを活用してみるなど、子どもから家庭そして地域へ健康について考えるきっかけとする方法もよいと思う。 データはあってもどのようなまちづくりを、どのように進めるのかそれを共有したり話し合ったりする場がなければ難しいのではないかな。 カルテの内容をもとにどのような活動を組み立てて、実践するのがよいか、踏みこんだ地域活動を構築することが重要だと思うが、それを誰が中心となるか、難しいところではないかな。 もっとオープンに目にする機会が欲しい（校区内に複数箇所設置）。 校区健康カルテ報告会を行政主催で実施してほしい（地域住民フォーラム的な）。 カルテを校区担当保健師がまず読みとくことが大切と思う。その上で地域に伝える、一緒に考える、その力を保健師がもっていないと、宝のもちぐさになるのでは。

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

20. 次の行政等の職員は、担当校区/地域での「健康まちづくり」の推進について、どのくらいの頻度であなたと情報交換をしますか？それぞれの職員についてお答えください。（問19/7）

※ご自身の職種は1を選択してください。

- ▶ 「1. 頻繁にする」「2. ときどきする」の合計は、全体で「1. 保健師(校区担当)」が58.1%と最も多く、次いで「7. ささえりあ職員」(55.9%)、「6. まちづくりセンター職員」(54.0%)の順番でした。
区役所別にみると、「5. 歯科医師、歯科衛生士」は南区、北区、西区で、「9. 医療機関や福祉施設の職員」は西区、南区、中央区で比較的割合が高い結果でした。
- ▶ 職種別にみると、自身の職種を除き、情報交換の割合が高い職種は以下の通りです。
- ・校区担当保健師…保健師(校区担当でない)、まちづくりセンター職員、ささえりあ職員
 - ・まちづくりセンター職員…ささえりあ職員、校区担当保健師、小学校の教員
 - ・ささえりあ職員…医療機関や福祉施設の職員、まちづくりセンター職員、校区担当保健師
 - ・小学校長等…医療機関や福祉施設の職員、まちづくりセンター職員、校区担当保健師
 - ・その他の専門職等…校区担当保健師、ささえりあ職員、まちづくりセンター職員

※5段階評価のうち「1. 頻繁にする」「2. ときどきする」の合計

選択肢	区役所別 回答数 (割合[%])					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 区役所の保健師 (校区担当)	182 (58.1)	38 (57.6)	38 (61.3)	26 (60.5)	37 (52.9)	43 (59.7)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	101 (32.3)	19 (28.8)	21 (33.9)	16 (37.2)	20 (28.6)	25 (34.7)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	55 (17.6)	10 (15.2)	9 (14.5)	10 (23.3)	9 (12.9)	17 (23.6)
4 区役所の医師	26 (8.3)	6 (9.1)	4 (6.5)	7 (16.3)	5 (7.1)	4 (5.6)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	76 (24.3)	12 (18.2)	11 (17.7)	11 (25.6)	21 (30.0)	21 (29.2)
6 まちづくりセンター職員	169 (54.0)	39 (59.1)	30 (48.4)	20 (46.5)	33 (47.1)	47 (65.3)
7 ささえりあ職員	175 (55.9)	41 (62.1)	33 (53.2)	26 (60.5)	37 (52.9)	38 (52.8)
8 小学校の教員	74 (23.6)	14 (21.2)	14 (22.6)	11 (25.6)	17 (24.3)	18 (25.0)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	91 (29.1)	22 (33.3)	11 (17.7)	19 (44.2)	25 (35.7)	14 (19.4)

選択肢	職種別 回答数 (割合[%])				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 区役所の保健師 (校区担当)	81 (90.0)	27 (40.3)	26 (45.6)	28 (49.1)	20 (48.8)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	64 (71.1)	4 (6.0)	7 (12.3)	2 (3.5)	24 (58.5)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	32 (35.6)	0 (0.0)	2 (3.5)	0 (0.0)	21 (51.2)
4 区役所の医師	12 (13.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (7.0)	10 (24.4)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	33 (36.7)	1 (1.5)	3 (5.3)	15 (26.3)	24 (58.5)
6 まちづくりセンター職員	48 (53.3)	47 (70.1)	29 (50.9)	26 (45.6)	18 (43.9)
7 ささえりあ職員	43 (47.8)	54 (80.6)	46 (80.7)	11 (19.3)	20 (48.8)
8 小学校の教員	10 (11.1)	16 (23.9)	3 (5.3)	42 (73.7)	3 (7.3)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	11 (12.2)	9 (13.4)	33 (57.9)	30 (52.6)	8 (19.5)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

(続き)

※ 5段階評価のうち「4. あまりしない」「5. まったくしない」の合計

選択肢	区役所別 回答数 (割合[%])					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 区役所の保健師 (校区担当)	92 (29.4)	21 (31.8)	17 (27.4)	10 (23.3)	27 (38.6)	17 (23.6)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	161 (51.4)	33 (50.0)	32 (51.6)	22 (51.2)	39 (55.7)	35 (48.6)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	217 (69.3)	45 (68.2)	46 (74.2)	30 (69.8)	52 (74.3)	44 (61.1)
4 区役所の医師	246 (78.6)	51 (77.3)	48 (77.4)	32 (74.4)	56 (80.0)	59 (81.9)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	196 (62.6)	42 (63.6)	43 (69.4)	27 (62.8)	42 (60.0)	42 (58.3)
6 まちづくりセンター職員	75 (24.0)	9 (13.6)	20 (32.3)	16 (37.2)	17 (24.3)	13 (18.1)
7 ささえりあ職員	77 (24.6)	13 (19.7)	21 (33.9)	9 (20.9)	22 (31.4)	12 (16.7)
8 小学校の教員	194 (62.0)	39 (59.1)	43 (69.4)	25 (58.1)	44 (62.9)	43 (59.7)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	173 (55.3)	32 (48.5)	43 (69.4)	21 (48.8)	35 (50.0)	42 (58.3)

選択肢	職種別 回答数 (割合[%])				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 区役所の保健師 (校区担当)	3 (3.3)	34 (50.7)	23 (40.4)	18 (31.6)	13 (31.7)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	16 (17.8)	58 (86.6)	39 (68.4)	38 (66.7)	9 (22.0)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	42 (46.7)	64 (95.5)	52 (91.2)	43 (75.4)	15 (36.6)
4 区役所の医師	62 (68.9)	65 (97.0)	54 (94.7)	42 (73.7)	22 (53.7)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	41 (45.6)	62 (92.5)	51 (89.5)	29 (50.9)	12 (29.3)
6 まちづくりセンター職員	22 (24.4)	5 (7.5)	18 (31.6)	15 (26.3)	15 (36.6)
7 ささえりあ職員	24 (26.7)	9 (13.4)	0 (0.0)	29 (50.9)	15 (36.6)
8 小学校の教員	69 (76.7)	43 (64.2)	46 (80.7)	4 (7.0)	31 (75.6)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	65 (72.2)	54 (80.6)	18 (31.6)	11 (19.3)	24 (58.5)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

21. 次の行政等の職員とあなたは、担当校区/地域での「健康まちづくり」の推進に関する目標をどのくらい共有していますか？それぞれの職員についてお答えください。（問20/9）

※ご自身の職種は1を選択してください。

- ▶ 「1. 完全に共有している」「2. おおよそ共有している」の合計は、全体で「1. 保健師(校区担当)」が45.4%と最も多く、次いで「6. まちづくりセンター職員」(38.0%)、「7. ささえりあ職員」(34.8%)の順番でした。区役所別にみると、「2. 保健師(校区担当でない)」は西区、北区、東区で、「9. 医療機関や福祉施設の職員」は西区、南区で比較的割合が高い結果でした。
- ▶ 職種別にみると、自身の職種を除き、目標共有の割合が高い職種は以下の通りです。
- ・校区担当保健師…保健師(校区担当でない)、まちづくりセンター職員、ささえりあ職員
 - ・まちづくりセンター職員…ささえりあ職員、校区担当保健師、医療機関や福祉施設の職員
 - ・ささえりあ職員…医療機関や福祉施設の職員、校区担当保健師、まちづくりセンター職員、
 - ・小学校長等…まちづくりセンター職員、医療機関や福祉施設の職員、校区担当保健師
 - ・その他の専門職等…校区担当保健師、ささえりあ職員、まちづくりセンター職員

※5段階評価のうち「1. 完全に共有している」「2. おおよそ共有している」の合計

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 区役所の保健師（校区担当）	142 (45.4)	25 (37.9)	29 (46.8)	25 (58.1)	29 (41.4)	34 (47.2)
2 区役所の保健師（校区担当でない）	76 (24.3)	12 (18.2)	15 (24.2)	14 (32.6)	14 (20.0)	21 (29.2)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	39 (12.5)	6 (9.1)	10 (16.1)	7 (16.3)	10 (14.3)	6 (8.3)
4 区役所の医師	26 (8.3)	5 (7.6)	6 (9.7)	5 (11.6)	7 (10.0)	3 (4.2)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	49 (15.7)	7 (10.6)	10 (16.1)	8 (18.6)	15 (21.4)	9 (12.5)
6 まちづくりセンター職員	119 (38.0)	29 (43.9)	21 (33.9)	18 (41.9)	16 (22.9)	35 (48.6)
7 ささえりあ職員	109 (34.8)	24 (36.4)	22 (35.5)	18 (41.9)	25 (35.7)	20 (27.8)
8 小学校の教員	52 (16.6)	10 (15.2)	11 (17.7)	8 (18.6)	8 (11.4)	15 (20.8)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	42 (13.4)	7 (10.6)	5 (8.1)	12 (27.9)	13 (18.6)	5 (6.9)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 区役所の保健師（校区担当）	78 (86.7)	21 (31.3)	15 (26.3)	10 (17.5)	18 (43.9)
2 区役所の保健師（校区担当でない）	50 (55.6)	2 (3.0)	4 (7.0)	2 (3.5)	18 (43.9)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	21 (23.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (43.9)
4 区役所の医師	15 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	10 (24.4)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	24 (26.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (10.5)	19 (46.3)
6 まちづくりセンター職員	42 (46.7)	43 (64.2)	15 (26.3)	12 (21.1)	7 (17.1)
7 ささえりあ職員	24 (26.7)	26 (38.8)	44 (77.2)	4 (7.0)	11 (26.8)
8 小学校の教員	3 (3.3)	6 (9.0)	1 (1.8)	38 (66.7)	4 (9.8)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	4 (4.4)	8 (11.9)	16 (28.1)	12 (21.1)	2 (4.9)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

(続き)

※ 5段階評価のうち「4. あまり共有していない」「5. まったく共有していない」

選択肢	区役所別 回答数 (割合[%])					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 区役所の保健師 (校区担当)	88 (28.1)	17 (25.8)	20 (32.3)	9 (20.9)	20 (28.6)	22 (30.6)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	154 (49.2)	29 (43.9)	32 (51.6)	24 (55.8)	31 (44.3)	38 (52.8)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	202 (64.5)	41 (62.1)	44 (71.0)	29 (67.4)	37 (52.9)	51 (70.8)
4 区役所の医師	220 (70.3)	43 (65.2)	46 (74.2)	32 (74.4)	44 (62.9)	55 (76.4)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	197 (62.9)	39 (59.1)	43 (69.4)	28 (65.1)	37 (52.9)	50 (69.4)
6 まちづくりセンター職員	107 (34.2)	16 (24.2)	26 (41.9)	18 (41.9)	29 (41.4)	18 (25.0)
7 ささえりあ職員	98 (31.3)	15 (22.7)	26 (41.9)	8 (18.6)	27 (38.6)	22 (30.6)
8 小学校の教員	207 (66.1)	46 (69.7)	45 (72.6)	30 (69.8)	41 (58.6)	45 (62.5)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	206 (65.8)	37 (56.1)	48 (77.4)	27 (62.8)	42 (60.0)	52 (72.2)

選択肢	職種別 回答数 (割合[%])				
	保健師 (校区担当) N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 区役所の保健師 (校区担当)	5 (5.6)	24 (35.8)	22 (38.6)	27 (47.4)	9 (22.0)
2 区役所の保健師 (校区担当でない)	19 (21.1)	50 (74.6)	39 (68.4)	37 (64.9)	8 (19.5)
3 区役所の管理栄養士・栄養士	47 (52.2)	54 (80.6)	47 (82.5)	38 (66.7)	15 (36.6)
4 区役所の医師	55 (61.1)	58 (86.6)	49 (86.0)	39 (68.4)	18 (43.9)
5 区役所の歯科医師、歯科衛生士	46 (51.1)	54 (80.6)	48 (84.2)	33 (57.9)	15 (36.6)
6 まちづくりセンター職員	26 (28.9)	9 (13.4)	28 (49.1)	25 (43.9)	18 (43.9)
7 ささえりあ職員	25 (27.8)	22 (32.8)	2 (3.5)	32 (56.1)	16 (39.0)
8 小学校の教員	73 (81.1)	51 (76.1)	47 (82.5)	6 (10.5)	29 (70.7)
9 地域の医療機関や福祉施設の職員	70 (77.8)	54 (80.6)	28 (49.1)	25 (43.9)	28 (68.3)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

22. 「健康まちづくり」事業について、あなたの考えをお聞かせください。（問21/17）

▶ 全体で「1. 重要な取り組みである」(81.1%)、「4. 小学校区の範囲は適している」(68.9%)の割合が高く、その割合は西区やささえりあ職員、小学校長等、その他の専門職等において高い結果でした。一方で、「5. わかりやすい」(10.2%)、「9. 地域と一緒に進めることができた」(17.3%)などの割合は低い結果でした。「6. 手間がかかる」(18.1%)、「7. 費用がかかりすぎる」(2.0%)の割合が低いことは、肯定的な結果と考えられましたが、校区担当保健師は「手間がかかる」の割合がやや高い結果でした。

※ 5段階評価のうち「1. 強くそう思う」「2. そう思う」の合計の割合

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=254	中央 N=50	東 N=53	西 N=36	南 N=57	北 N=58
1 校区住民の健康づくりに役立つ重要な取り組みである	206 (81.1)	39 (78.0)	44 (83.0)	34 (94.4)	44 (77.2)	45 (77.6)
2 健康づくりを目的とした他の事業と比べて優れている	85 (33.5)	17 (34.0)	19 (35.8)	13 (36.1)	18 (31.6)	18 (31.0)
3 校区住民のニーズにあわせた活動がしやすい	121 (47.6)	24 (48.0)	30 (56.6)	21 (58.3)	21 (36.8)	25 (43.1)
4 小学校区という範囲は健康まちづくりに適している	175 (68.9)	36 (72.0)	37 (69.8)	25 (69.4)	39 (68.4)	38 (65.5)
5 活動方法や手順がわかりやすい	26 (10.2)	7 (14.0)	4 (7.5)	7 (19.4)	4 (7.0)	4 (6.9)
6 複雑で手間のかかる取り組みである	46 (18.1)	6 (12.0)	10 (18.9)	4 (11.1)	13 (22.8)	13 (22.4)
7 取り組みを進める費用がかかりすぎる	5 (2.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (2.8)	0 (0.0)	3 (5.2)
8 私は健康まちづくりの趣旨をよく理解できている	71 (28.0)	12 (24.0)	11 (20.8)	13 (36.1)	17 (29.8)	18 (31.0)
9 これまで、地域と一緒に進めることができた	44 (17.3)	12 (24.0)	7 (13.2)	8 (22.2)	9 (15.8)	8 (13.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=69	まちづくり センター職員 N=37	ささえりあ 職員 N=50	小学校長等 N=56	その他の 専門職等 N=41
1 校区住民の健康づくりに役立つ重要な取り組みである	51 (73.9)	26 (70.3)	42 (84.0)	49 (87.5)	37 (90.2)
2 健康づくりを目的とした他の事業と比べて優れている	16 (23.2)	15 (40.5)	17 (34.0)	23 (41.1)	14 (34.1)
3 校区住民のニーズにあわせた活動がしやすい	28 (40.6)	17 (45.9)	24 (48.0)	29 (51.8)	23 (56.1)
4 小学校区という範囲は健康まちづくりに適している	42 (60.9)	20 (54.1)	36 (72.0)	44 (78.6)	32 (78.0)
5 活動方法や手順がわかりやすい	5 (7.2)	3 (8.1)	4 (8.0)	8 (14.3)	6 (14.6)
6 複雑で手間のかかる取り組みである	22 (31.9)	7 (18.9)	3 (6.0)	4 (7.1)	10 (24.4)
7 取り組みを進める費用がかかりすぎる	0 (0.0)	1 (2.7)	2 (4.0)	0 (0.0)	2 (4.9)
8 私は健康まちづくりの趣旨をよく理解できている	20 (29.0)	6 (16.2)	10 (20.0)	14 (25.0)	21 (51.2)
9 これまで、地域と一緒に進めることができた	12 (17.4)	2 (5.4)	14 (28.0)	7 (12.5)	9 (22.0)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

23. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）について、「健康まちづくり事業を推進する」という観点から、考えをお聞かせください。（問22/19）

▶ 全体で「2. 職員同士のコミュニケーションは活発である」(70.9%)、「5. 区役所の理念や価値観に合っている」(61.8%)、「8. 自分の職務は健康まちづくりに必要である」(61.4%)などの割合が高い結果でした。ただし、職種別にみると、まちづくりセンター職員や小学校長等は「自分の職務は健康まちづくりに必要である」の割合は低い結果でした。また全体で、「12. 人員は十分」(5.9%)、「11. 予算が十分」(10.6%)、「9. ニーズを把握できている」(22.4%)などの割合が低い結果でした。

※ 5段階評価のうち「1. 強くそう思う」「2. そう思う」の合計の割合

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=254	中央 N=50	東 N=53	西 N=36	南 N=57	北 N=58
1 組織の仕組みは健康まちづくりを推進しやすい	118 (46.5)	26 (52.0)	25 (47.2)	20 (55.6)	25 (43.9)	22 (37.9)
2 職員同士のコミュニケーションは活発である	180 (70.9)	35 (70.0)	38 (71.7)	28 (77.8)	35 (61.4)	44 (75.9)
3 組織は新しい取り組みや提案を受け入れる素地がある	144 (56.7)	30 (60.0)	32 (60.4)	21 (58.3)	31 (54.4)	30 (51.7)
4 組織として、健康まちづくりの必要性を感じている	154 (60.6)	33 (66.0)	30 (56.6)	24 (66.7)	37 (64.9)	30 (51.7)
5 健康まちづくりは区役所の理念や価値観に合っている	157 (61.8)	34 (68.0)	32 (60.4)	22 (61.1)	37 (64.9)	32 (55.2)
6 他の事業と比べて健康まちづくりの優先度は高い	75 (29.5)	13 (26.0)	15 (28.3)	14 (38.9)	14 (24.6)	19 (32.8)
7 健康まちづくりに関する職務を行うことが推奨されている	110 (43.3)	28 (56.0)	21 (39.6)	18 (50.0)	23 (40.4)	20 (34.5)
8 自分の職務は健康まちづくりを進めるために必要である	156 (61.4)	33 (66.0)	30 (56.6)	25 (69.4)	34 (59.6)	34 (58.6)
9 校区住民の健康課題やニーズを把握できている	57 (22.4)	14 (28.0)	8 (15.1)	12 (33.3)	8 (14.0)	15 (25.9)
10 事業をすすめる際に、上司や同僚は必要な支援をしている	150 (59.1)	31 (62.0)	30 (56.6)	22 (61.1)	36 (63.2)	31 (53.4)
11 健康まちづくりを進めるための予算は十分である	27 (10.6)	5 (10.0)	10 (18.9)	5 (13.9)	3 (5.3)	4 (6.9)
12 健康まちづくりを進めるための人員は十分にいる	15 (5.9)	5 (10.0)	4 (7.5)	2 (5.6)	1 (1.8)	3 (5.2)
13 市役所本庁は必要な情報を提供してくれる	60 (23.6)	12 (24.0)	12 (22.6)	9 (25.0)	9 (15.8)	18 (31.0)
14 他の同種の組織との接点（共同活動や情報共有等）がある	89 (35.0)	18 (36.0)	16 (30.2)	16 (44.4)	19 (33.3)	20 (34.5)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=69	まちづくり センター職員 N=37	ささえりあ 職員 N=50	小学校長等 N=56	その他の 専門職等 N=41
1 組織の仕組みは健康まちづくりを推進しやすい	35 (50.7)	13 (35.1)	28 (56.0)	20 (35.7)	21 (51.2)
2 職員同士のコミュニケーションは活発である	55 (79.7)	24 (64.9)	40 (80.0)	37 (66.1)	23 (56.1)
3 組織は新しい取り組みや提案を受け入れる素地がある	40 (58.0)	24 (64.9)	31 (62.0)	27 (48.2)	22 (53.7)
4 組織として、健康まちづくりの必要性を感じている	46 (66.7)	16 (43.2)	39 (78.0)	27 (48.2)	26 (63.4)
5 健康まちづくりは区役所の理念や価値観に合っている	53 (76.8)	14 (37.8)	35 (70.0)	24 (42.9)	31 (75.6)
6 他の事業と比べて健康まちづくりの優先度は高い	17 (24.6)	10 (27.0)	16 (32.0)	14 (25.0)	18 (43.9)
7 健康まちづくりに関する職務を行うことが推奨されている	46 (66.7)	6 (16.2)	25 (50.0)	9 (16.1)	24 (58.5)
8 自分の職務は健康まちづくりを進めるために必要である	55 (79.7)	13 (35.1)	37 (74.0)	19 (33.9)	32 (78.0)
9 校区住民の健康課題やニーズを把握できている	20 (29.0)	5 (13.5)	13 (26.0)	7 (12.5)	12 (29.3)
10 事業をすすめる際に、上司や同僚は必要な支援をしている	61 (88.4)	14 (37.8)	32 (64.0)	18 (32.1)	25 (61.0)
11 健康まちづくりを進めるための予算は十分である	18 (26.1)	1 (2.7)	1 (2.0)	0 (0.0)	7 (17.1)
12 健康まちづくりを進めるための人員は十分にいる	7 (10.1)	2 (5.4)	0 (0.0)	2 (3.6)	4 (9.8)
13 市役所本庁は必要な情報を提供してくれる	27 (39.1)	1 (2.7)	11 (22.0)	11 (19.6)	10 (24.4)
14 他の同種の組織との接点（共同活動や情報共有等）がある	24 (34.8)	10 (27.0)	26 (52.0)	19 (33.9)	10 (24.4)

C. 熊本市が推進する「健康まちづくり」について

24. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）における、組織としての全体的な「健康まちづくり」事業の推進方法について、考えをお聞かせください。（問23/20）

- ▶ 全体で「7. 住民の意見を聞いている」(全体で46.5%)、「1. 明確な計画を立てて実施」(34.6%)の割合が比較的高く、職種別にみると、校区担当保健師やその他の専門職等でその割合が高い結果でした。一方で、全体で「5. 外部の支援者がいる」(13.8%)、「6. 中心的な職員がリーダーとして正式に任命されている」(18.5%)などの割合が低い結果でした。

※ 5段階評価のうち「1. 強くそう思う」「2. そう思う」の合計の割合

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=254	中央 N=50	東 N=53	西 N=36	南 N=57	北 N=58
1 具体的で明確な計画を立てて実施している	88 (34.6)	25 (50.0)	18 (34.0)	13 (36.1)	18 (31.6)	14 (24.1)
2 組織内で影響力が大きい職員の参加や支援がある	65 (25.6)	16 (32.0)	17 (32.1)	7 (19.4)	12 (21.1)	13 (22.4)
3 中心的な職員がリーダーとして正式に任命されている	47 (18.5)	15 (30.0)	10 (18.9)	5 (13.9)	6 (10.5)	11 (19.0)
4 組織内に事業を熱心に推進してくれる職員がいる	55 (21.7)	18 (36.0)	12 (22.6)	5 (13.9)	7 (12.3)	13 (22.4)
5 事業を支援してくれる外部の関係者がいる（大学など）	35 (13.8)	14 (28.0)	8 (15.1)	1 (2.8)	5 (8.8)	7 (12.1)
6 事業に関係する様々な団体や人を巻き込んでいる	59 (23.2)	18 (36.0)	12 (22.6)	5 (13.9)	11 (19.3)	13 (22.4)
7 必要に応じて住民の意見を聞いている	118 (46.5)	30 (60.0)	27 (50.9)	17 (47.2)	25 (43.9)	19 (32.8)
8 事業結果についての評価やフィードバックがある	51 (20.1)	13 (26.0)	10 (18.9)	10 (27.8)	8 (14.0)	10 (17.2)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 (校区担当) N=69	まちづくり センター職員 N=37	ささえりあ 職員 N=50	小学校長等 N=56	その他の 専門職等 N=41
1 具体的で明確な計画を立てて実施している	35 (50.7)	7 (18.9)	10 (20.0)	15 (26.8)	21 (51.2)
2 組織内で影響力が大きい職員の参加や支援がある	23 (33.3)	5 (13.5)	13 (26.0)	14 (25.0)	10 (24.4)
3 中心的な職員がリーダーとして正式に任命されている	17 (24.6)	2 (5.4)	12 (24.0)	10 (17.9)	6 (14.6)
4 組織内に事業を熱心に推進してくれる職員がいる	18 (26.1)	2 (5.4)	13 (26.0)	12 (21.4)	10 (24.4)
5 事業を支援してくれる外部の関係者がいる（大学など）	11 (15.9)	4 (10.8)	6 (12.0)	5 (8.9)	9 (22.0)
6 事業に関係する様々な団体や人を巻き込んでいる	17 (24.6)	7 (18.9)	13 (26.0)	6 (10.7)	16 (39.0)
7 必要に応じて住民の意見を聞いている	43 (62.3)	15 (40.5)	26 (52.0)	11 (19.6)	23 (56.1)
8 事業結果についての評価やフィードバックがある	22 (31.9)	4 (10.8)	9 (18.0)	6 (10.7)	10 (24.4)

D. 小学校区/地域に関する認識

25. あなたが担当している小学校区/地域について、以下に関する考えをお聞かせください。（問17/16）

▶ 全体で「15. 地域に愛着をもって活動している」(85.0%)、「1. 住みやすいところだ」(77.6%)、「7. 集まる場所が有効に活用されている」(64.9%)、「14. 大切にしている文化的な資源などがある」(62.3%)の割合が高い結果でした。一方で、「11. 食事に気を付けている」(10.5%)、「10. 運動をしている」(18.8%)などの割合が低い結果でした。

※ 5段階評価のうち「1. 強くそう思う」「2. そう思う」の合計の割合

選択肢	区役所別 回答数（割合[%]）					
	全体 N=313	中央 N=66	東 N=62	西 N=43	南 N=70	北 N=72
1 住民にとって住みやすいところだ	243 (77.6)	55 (83.3)	56 (90.3)	32 (74.4)	49 (70.0)	51 (70.8)
2 住民が「犯罪の不安」を感じている	37 (11.8)	19 (28.8)	4 (6.5)	6 (14.0)	4 (5.7)	4 (5.6)
3 公共交通機関（電車・バス等）が利用しやすい	119 (38.0)	48 (72.7)	27 (43.5)	14 (32.6)	15 (21.4)	15 (20.8)
4 区役所や出張所に行きやすい	113 (36.1)	47 (71.2)	27 (43.5)	12 (27.9)	13 (18.6)	14 (19.4)
5 歩くのに適した歩道や緑道が多い	100 (31.9)	31 (47.0)	32 (51.6)	8 (18.6)	14 (20.0)	15 (20.8)
6 人が集まれる場所（集会所や公園等）が十分にある	150 (47.9)	34 (51.5)	35 (56.5)	16 (37.2)	34 (48.6)	31 (43.1)
7 校区の集まりでは6の場所が有効に活用されている	203 (64.9)	48 (72.7)	39 (62.9)	28 (65.1)	46 (65.7)	42 (58.3)
8 地域の活動に参加する人が多い	101 (32.3)	28 (42.4)	13 (21.0)	9 (20.9)	23 (32.9)	28 (38.9)
9 健康意識の高い人が多い	83 (26.5)	25 (37.9)	15 (24.2)	12 (27.9)	15 (21.4)	16 (22.2)
10 日常的に運動をしている人が多い	59 (18.8)	17 (25.8)	12 (19.4)	5 (11.6)	11 (15.7)	14 (19.4)
11 日常的に食事に気を付けている人が多い	33 (10.5)	14 (21.2)	7 (11.3)	2 (4.7)	6 (8.6)	4 (5.6)
12 地域の人みんな助け合っている	168 (53.7)	35 (53.0)	24 (38.7)	26 (60.5)	39 (55.7)	44 (61.1)
13 お互いを思いやり気にかけ合ったりしている	181 (57.8)	34 (51.5)	30 (48.4)	29 (67.4)	43 (61.4)	45 (62.5)
14 大切にしている文化的な資源などがある	195 (62.3)	47 (71.2)	32 (51.6)	39 (90.7)	33 (47.1)	44 (61.1)
15 地域の関係者は地域に愛着をもって活動している	266 (85.0)	57 (86.4)	50 (80.6)	40 (93.0)	57 (81.4)	62 (86.1)
16 健康まちづくりが活発に行われている	99 (31.6)	24 (36.4)	20 (32.3)	14 (32.6)	21 (30.0)	20 (27.8)

選択肢	職種別 回答数（割合[%]）				
	保健師 （校区担当） N=90	まちづくり センター職員 N=67	ささえりあ 職員 N=57	小学校長等 N=57	その他の 専門職等 N=41
1 住民にとって住みやすいところだ	67 (74.4)	56 (83.6)	37 (64.9)	53 (93.0)	30 (73.2)
2 住民が「犯罪の不安」を感じている	2 (2.2)	9 (13.4)	12 (21.1)	9 (15.8)	4 (9.8)
3 公共交通機関（電車・バス等）が利用しやすい	41 (45.6)	25 (37.3)	16 (28.1)	28 (49.1)	9 (22.0)
4 区役所や出張所に行きやすい	39 (43.3)	24 (35.8)	14 (24.6)	23 (40.4)	13 (31.7)
5 歩くのに適した歩道や緑道が多い	28 (31.1)	25 (37.3)	13 (22.8)	17 (29.8)	17 (41.5)
6 人が集まれる場所（集会所や公園等）が十分にある	47 (52.2)	33 (49.3)	22 (38.6)	29 (50.9)	18 (43.9)
7 校区の集まりでは6の場所が有効に活用されている	60 (66.7)	46 (68.7)	36 (63.2)	38 (66.7)	22 (53.7)
8 地域の活動に参加する人が多い	25 (27.8)	27 (40.3)	16 (28.1)	25 (43.9)	7 (17.1)
9 健康意識の高い人が多い	26 (28.9)	11 (16.4)	21 (36.8)	17 (29.8)	8 (19.5)
10 日常的に運動をしている人が多い	15 (16.7)	13 (19.4)	13 (22.8)	15 (26.3)	3 (7.3)
11 日常的に食事に気を付けている人が多い	13 (14.4)	2 (3.0)	4 (7.0)	7 (12.3)	7 (17.1)
12 地域の人みんな助け合っている	50 (55.6)	37 (55.2)	35 (61.4)	30 (52.6)	16 (39.0)
13 お互いを思いやり気にかけ合ったりしている	57 (63.3)	39 (58.2)	35 (61.4)	32 (56.1)	17 (41.5)
14 大切にしている文化的な資源などがある	51 (56.7)	47 (70.1)	28 (49.1)	40 (70.2)	29 (70.7)
15 地域の関係者は地域に愛着をもって活動している	82 (91.1)	54 (80.6)	49 (86.0)	51 (89.5)	30 (73.2)
16 健康まちづくりが活発に行われている	34 (37.8)	18 (26.9)	14 (24.6)	22 (38.6)	11 (26.8)

E. 自由記述「健康まちづくり」の推進例やご意見

26. 担当校区/地域における「健康まちづくり」の推進について、工夫していること（コロナ禍での活動の工夫も含む）や、これまで成果が出たことなどについて、どのようなことでも良いのでお聞かせください。（問18/18）

▶ 合計で111件のご回答をいただきました。その一部をご紹介します。
 主な活動事例について、大きく「(1)地域のふれあい」「(2)スポーツの推進や身体活動量の増加」「(3)食生活の改善や食育の推進」「(4)歯・口の健康づくりの推進」「(5)こどもの育成・見守り、子育て支援など」「(6)高齢者の介護・フレイル予防、高齢者の見守り」「(7)その他」「(8)その他の意見等」の8つに分類しました。

※回答例はなるべくそのまま記載していますが、必要に応じて若干の編集を加えたものもあります。
 ※活動内容は主なもので分類していますので、他の活動テーマを含んでいることもあります。

(1) 地域のふれあい（イベントを活用した健康づくり、多世代の交流など）

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	校区社協	校区夏祭りでの健康チェックコーナーの開設。 避難訓練での啓発。 育児サークルや高齢者サロンでの啓発。	校区夏祭りにおいて、校区の健康データを取り入れた、健康チェック内容にしたり情報提供の実施。
中	民児協、校区社協、自治協議会	高齢者サロンでの体組成測定や血圧測定 地域の中学校・高校生の健康教育、母子交流。	コロナ禍以降は中止となったが、これまで中学生・高校生向けに妊娠・出産や生活習慣について考える機会をもってもらった。学生期からの健康教育ができた。
中	P T A	P T A主催の「〇〇まつり」での健康コーナーの設置。そこで、血糖測定やフッ化物洗口、健康相談を実施している。	P T Aと連携した。
中	健やかネット（自治協議会、小、中学校、ささえりあ民生委員・主任児童委員、市職員等）	校区の住人が校区の中で自分らしく暮らせるよう地域力を活かした健康づくり（予防）の側面からの取組みを充実。 全体会（構成員で集まって今後の活動や健康課題について協議する場）。 ぐるっと（地域のウォーキング）・熊本城ナイトハイク、探検ツアー（小学生と地域の方でのウォーキング）。	地域全体で課題の検討ができる。健康課題を自分のこととして考えてもらう機会となる。 各団体が情報交換、提案ができる場になる。 地域のつながりの強化につながる。
東	校区まちづくり実行委員会、区ボランティア医師の会	平成27・28年度：収穫祭で血糖測定。 平成29・30年度：夏祭りでの血糖測定、収穫祭で体力測定。 令和2・3年度はコロナのため未実施。	校区に医療機関が多く、医療機関が健康まちづくりに関心を持っている。校区の既存のイベントに、健康ブースを設け、啓発を図っている。
東	健康まちづくり推進員協議会	地域イベントで健康ブースを設置し、生活習慣病予防の啓発を行った。	何ができるか、何をしたいかをまず話し合い、ブースの内容を一緒に考えた。
東	小学校P T Aや青少協主催のイベントのなかに「健康まちづくり」のイベントを組み込ませてもらった。	ウォークラリーのイベントの中で、歩き方のポイントをお伝えした。また、健康相談ブースを作り、血圧測定を行った。	ある民生委員さんの働きかけにより実施となった。主催の青少協に、健康まちづくり活動の目的を理解してもらったうえで事前打合せを実施。「健康まちづくり」を意識してもらえきっかけになった。

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
西	社会福祉協議会 「家族の健康づくり支援ネットワーク」	コミセン祭りで健康チェック。 ママ友の会。 ささえりあと連携した運動教室の実施。	会議を定期的に行い、課題等を共有することで、母子など若い世代へ啓発できた。
西	自治協議会（健康づくり部会）	自治協議会定例会で健診結果等の情報共有。 平成24～30年度：健康ウォーキングや健康教育、校区内医師による講話など、地域が主体的に活動。	コロナの流行前までは、地域が主体的に活動。
西	自治協議会の中に「健康まちづくり委員会」を設置した。（H26年度～）	若い頃からの生活習慣病対策	活動の中に若い世代（PTA）を巻きこむ保護者に生活実態アンケートを実施。（活用方法は今後検討予定）
西	健康まちづくり委員会	健康に関する講演会（コロナ前）。 （コロナ後）ウォーキングに変更し、健康チェックコーナーを開設（保健子ども課）。	コロナにより室内で実施していた活動を屋外へ変更。
西	①自治協議会 ②PTA	①町内単位の健康教育 ②ふれあいフェスタ	①校区全体の活動では広がりにくかったため町内毎の活動に変更。 ②若い世代が参加出来るように小学校PTAバザーへの参加。
西	自治会、民児協、各種ネットワーク会議など、PTAとの協力、校区社協・子育て世代の集いの場（サークルなど）、漁協・農協との協力	生活習慣病対策・予防対策、母子保健、精神保健、成人保健、集団健診などのよびかけ、介護予防、廃校を生かした健康体操、集える場づくり	もともとあるウォーキングコース（整備されているもの）を活かしての声かけ、よびかけ。コロナ禍でもあり、成人期の方にお会いする機会も少ないので、母子での働きかけの際に生活習慣病について子どもの将来のことを含め、大人の健康づくりについてもお伝えしている。
西	家族の健康づくり支援ネットワーク	小学校のすこやか学級への支援、健康講話、校区ママ友の会、コミセンまつりへの協力（体力測定、塩分濃度測定など）、30・40代の健康チェック運動教室、親子ピクス	「子どもから大人まで」をテーマに校区住民すべての人が健康に過ごせるよう、校区の現状や課題を参加者で検討し、解決のための活動を行う。 メンバー：校区社協、小学校、中学校、PTA、保育園、自治会、自治協議会、自治会女性部、まちづくりセンター。
西	校区子と親の健康づくり支援ネット	健康講話、夏休み健康づくり作品コンクール、健康づくり風あげ大会、特定健診の普及、けん玉大会、など	・校区社協と保健子ども課が中心となり、校区各団体・機関が参加することで、共通の取り組みや課題の認識ができた。 ・メンバー：校区社協、保健子ども課、まちセン、防犯協会、子ども会、小学校、中学校、保護者会、スポーツ協会、青少協、保育園、自治協、医療機関、JA・漁協、商工会、ささえりあ、など。

アンケート集計結果

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
西	自治会、保健師、保健子ども課など	校区運動会での健康診断	参加者が血圧測定、血管年齢など健診ができ、自分で健康づくりに対するふり返しをすることができていた。
西	社会福祉協議会（子と親の健康づくり支援ネット）	平成20年度～：生活習慣病改善モデル事業として取り組み開始。住民の発案でイベントを開催。	令和2年1月はメンバーのアイデアでけん玉を使った健康づくりのワークショップを開催し、親子で200名近い集客があった。
南	①地区自治連合会（事務局：まちづくりセンター） ②保健子ども課 ③総合型スポーツ事務局（健康まちづくり部会のメンバー）	①健康まつり ②集団健診結果説明会での個別指導 ③総合型スポーツ夢フェスタでの健康チェック	①参加者への健康チェック：血管年齢測定、骨密度、簡易血糖検査など ②事前に健診データを確認、必要な指導内容の準備をに対応
南	①PTA ②自治会 ③保健子ども課	①小学校での伝承遊びの普及と保護者への健康チェック ②地域のまつりでの血圧測定と健康相談 ③集団健診の結果説明会	①児童にも簡単に測定できる検査項目の準備 ②消防団など若い人達へも積極的に声をかけた ③対象者の健診データを事前に確認し、指導内容を準備して対応
南	①健康まちづくり推進員会 ②子育て支援ネットワーク	①推進員研修会 ②子育てお散歩マップの作成～市ホームページへの掲載	コロナ禍で活動が制限される中、やれることに取り組んでいる。
南	自治協議会	①復興まつり（元コミセンまつり）にて、健康ブースを開催し、自治協議会にて生活習慣病予防啓発や、校区の健康課題の共有ができた。 ②小学校認知症サポーター養成講座実施にむけ、福祉ネットやPTA、小学校、ささえりあ、まちセン、相談支援事業所、福祉課、社協、地域の高齢者福祉施設でオンライン会議を何度も実施し、リモート研修を実施した。	地域住民や地域の医療機関、ささえりあ等と協力し作業療法士による個別連動指導などの実施。 オンライン会議やリモート研修の実施。
南	健康づくり部会	生活習慣病改善モデル事業が平成22～23年度に展開され、平成24年度からは健康づくり部会として活動継続。	部会の活動の工夫、校区の健康について話し合う機会を作っていた。コロナ禍では活動なし。
南	自治協議会	小学校のPTAバザーで健康チェックのブースを開き、保護者（若い世代）へ健康に対する意識を高めて頂く機会としている。	体組成、骨ウェーブ、簡易血糖検査、唾液pHチェックなど、気軽に健康に対するの関心を向けて頂けるような内容を実施。簡易血糖検査の利用者の中に、紹介状基準に該当する対象者（随時血糖：200mg/dl以上）の方もおり、未受診だったため、受診勧奨し実際に病院に繋がったケースもあった。

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
南	健康まちづくり推進員会	竹の子掘りウォーキング、夏休みのラジオ体操、健康まちづくり推進員向け研修会（在宅医療、認知症、睡眠、体調管理、調理実習など）。	①研修会で市の出前講座や包括連携協定を結んでいる企業を活用。 ②市の食生活改善推進員のレシピを配布し書面開催。
南	—	小学校の学校保健会の開催にあわせ、校区住民の健康相談（令和2年度・3年度はコロナ禍のため中止）	学校医や区役所などの協力。
北	自治協議会	地域行事「えーとこ祭」での「健康づくり」啓発活動（区福祉課が主体で実施）。	地域住民が多く参加される機会を活用し、「健康づくりコーナー」を設置。住民の健康づくりに対する意識向上を図った。
北	民生委員児童委員、校区健康まちづくりを考える会、NPO法人健康生活応援くまもとプロジェクト、〇〇見守隊	校区の健康まちづくり考える会が主催となり、コミセンにて健康に関する講座が行われていたが、現在はささえりあが主催となり、民生委員・主任児童委員を対象にオンラインツールZoomを活用しての講座（NPO法人と健康づくりに関する講座の開催）。	オンラインを活用した講座を開催するにあたり、事前に活用方法のマニュアル作成、使い方の指導。 NPO法人と健康に関する学びの機会。 自治協議会が見守隊を設立。子どもたちの安全な登下校、あいさつで地域の顔見知りを増し、校区全体で見守る目になる。
北	—	地域の行事に合わせた形での健康づくり活動	地域行事の際に、血圧測定や健康情報を提供する。

(2) スポーツの推進や身体活動量の増加（スポーツ大会やウォーキングの実施など）

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
東	校区社協・自治会	男性の運動教室：男性のみ対象にエクササイズ。 ミニ便利屋さん：独居高齢者・高齢世帯中心に電球とりかえ、草むしりなど対応。主に校区でされている。利用時100円／回。支援者にも自治協より少額報酬あり。	協力して頂ける事業所とDVD作成。医師の協力もある。定着してきた。
東	校区社協、民児協	感染予防に配慮し、屋外でのラジオ体操、校区内散歩などをサロンの代替として行っている。	コロナにより室内で実施していた活動を屋外へ変更。
西	スポーツ協会（体協）	町民体育祭がコロナで中止となり、かわりのイベントとしてウォーキングを開催	密にならないようなウォーキング、野菜の収穫、苗植え体験の実施。
西	ささえりあ	コロナにより室内で実施していた活動を屋外へ変更	ラジオ体操の推進や近所のウォーキングコースを案内するとともにコースをYouTubeにアップ。
南	自治会、校区社協	地域の病院と連携して、独自の健康体操を考案して、パンフレットにして、町内住民へ配布。	健康体操を考案し、パンフレットにして作成・配布した。

アンケート集計結果

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
南	校区社協	さわやか健康ウォーク	健康ウォーク時に小学校の体育館で校区の医療機関の協力のもと、健康チェックブースを開設し、血圧・血糖や骨密度などの計測を行っている。チェックした値をもとにスタッフからの説明もある。「毎年楽しみにしている」との感想も聞かれ、日頃の生活を振り返る良い機会になっている。
北	自治会	リモートを活用した体操の実施	参加者も増えていると聞いている。
北	校区社協、自治会	コロナの流行状況をみながらヨガ教室の開催企画、実施。デイサービスの職員との協働。	住民が行き慣れている施設で屋外の広場を借りて実施できるよう、施設側に交渉し実現。心の癒しをと考え「リフレッシュヨガ」として開催（定数決めて実施）。好評で参加者も多かった。
北	コミュニティセンター	健康体操教室（週1回、コミュニティセンター）：回覧板で参加者募集し、地元のレク協会員による体操指導を実施。	コミュニティセンター主体で特に支援はしていない。初回に保健子ども課、保健師と共に訪問し、ささえりあの紹介をしている。
北	校区社協	月1回ウォークラリー	開催当初参加した。
北	健康まちづくり委員会	個人で1ヶ月間ウォーキングに取り組むわくわくウォーク。 集団でロードハイキングを行うひがなばなウォーク（コロナ禍で中止）。	コロナ禍でリスクレベルも高く行政主催の会議ができなかったこともあり、地域主体で地域役員のみで会議をひらいてもらい、わくわくウォークの実施に至った（これまでは会議主催・進行・準備すべて行政だった）。
北	わくわくウォーク	年2回、各自でウォーキングに取り組み、結果を報告 校区イベントで抽選が行なわれる	校区イベントで抽選が行なわれるため、イベントへの参加者増加につながっている。
北	校区健康まちづくり委員会	まち歩き、見守り隊	日常の活動に複数の目的を持たせる（ウォーキングに子どもの見守り活動を兼ねる、廃品回収に、フレイル予防を兼ねるなど）。

(3) 食生活の改善や食育の推進

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	—	食生活の支援	動画を作成し、YouTubeにアップしたり、HPやLINEで情報提供した。

(4) 歯・口の健康づくりの推進（小学校でのフッ化物洗口支援など）

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	8020健康づくりの会	学校でのフッ化物洗口ボランティア	自主的にアイデアをいろいろ出してくれる。
中	8020健康づくりの会	熊本市及び区との協同活動、「歯の祭典」校区イベント・保育園等健康教育、歯科医師会、小学校フッ化物洗口事業委託、高齢者サロン等での口体操（自主活動）	会員数も年々増加し、役員、校区リーダー等の役割分担ができています。役員会、定例会で活動報告をすることで、他の校区の活動を知り、良い刺激、良い競争ができ、自主活動が増えている。
東	区役所	小学校低学年児童へのフッ化物洗口	シルバー人材の活用。
南	8020健康づくりの会 支部	歯と口の健康づくりの推進を行政と一緒に取り組んでいる。各校区へその活動が広がるよう、8020推進員の全校区配置を目指して周知、啓発に取り組んできた。	学び得た知識や技術を家族や近隣住民に伝え広め、健康づくりの輪を広げるため、地域行事に8020ブースを設置した。平成24年は41名だった会員数が、令和2年は72名に増加した（令和3年からは97名の見込）。残り1校区で全校区配置となる。令和4年度には、全校区配置となる見込み。

(5) こどもの育成・見守り、子育て支援など

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	小学校	感染予防策、学校保健委員会（SNSの正しい使い方）	家庭にも協力をしてもらうため、啓発活動に取り組んだ。 ICTを活用した発表、協議等 ※感染者が抑えられ、意識も高まった。
東	子育てネットワーク	年3回の会議にて地域の状況等共有し、連携を図る。	書面での情報提供を行う。
東	子育てネットワーク	世代間交流（昔遊び、ものづくり、防災教室など）	新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に行った上で、実施できるよう専門的な立場から助言を行った。
西	自治協議会、健康まちづくり部会	三世代仲良くファミリークッキング、子どもと一緒に夏休みラジオ体操	食生改善推進員、8020推進員など地域ボランティアの協力。

(6) 高齢者の介護・フレイル予防、高齢者の見守り（サロンの開催、百歳体操の実施など）

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	地域包括支援センター	ウォーキング（15分続けて歩こうプロジェクト）活動の推進。 いきいき百歳体操サロンの立ち上げ、後方支援。 コロナ自粛中にフレイル予防の冊子を作成し配布。	助成金等を活用している。テーマを固定し長く継続できるようにしている。
中	社協・いきいき百歳体操サロン、老人クラブ	月1回、校区いきいき教室。 老人クラブでいきいき百歳体操を週1回。	コロナ禍で物品の準備からリーダーさんが率先して、感染予防法を行っている。
中	いきいき百歳体操を行う団体	会場使用制限がなければ、感染対策に気を付けて百才体操を実施されていた。	活動を希望する団体の感染対策状況の確認、市の方針を地域とこまめに情報共有して、自粛・再開を地域で検討し、可能な範囲で活動を継続されていた。
東	元気くらぶ、各町内のサロン、健康くらぶ	いきいき百歳体操 保育園児との交流	密を避けるため2部制としたり、席の配置の仕方を工夫した。
東	校区社協、民児協	いきいきサロン、元気クラブ	令和4年度から、校区単位の元気クラブを町内単位への運用に変更される。 多人数での会場確保や、遠方へ通うことなど、解消される見込み。
東	いっちょやろう会	いきいき百歳体操など	前半・後半の2部制での体操とした。
東	元気かい4町内、くまもと元気くらぶ		2部制で感染対策しながら活動継続 脳トレは住民参加者がアイデアを出し合い工夫
西	老人会	元気くらぶ2ヶ所。B型通所をコロナ感染リスクが下がった時に開催。	開催された時に、感染対策状況の確認。健康づくりに関するリーフレットを配布。
西	元気くらぶ	オンラインを活用し、リハ職による運動指導を実施 ・屋内で開催していた元気くらぶを、屋外で「青空元気くらぶ」を実施。 コロナにより室内で実施していた活動を屋外へ変更。	リハ職と住民の感染予防につながった。 オンラインによる健康教育の予算化につながった。 感染症対策で元気くらぶにリハ職が対面指導ができなかったが、オンラインで住民と久しぶりに再会し、住民もリハ職もモチベーションの向上につながった。 元気くらぶの開催方法の選択肢が増えた。 （屋内だけでなく、屋外でも実施可）
南	脳トレクラブ	体操を中心に筋トレを行っている。口腔体操も盛り込んでいる。	定期的に体力測定が行われている。
南	—	いきいき百歳体操 グラウンドゴルフ	いきいき百歳体操の立ち上げを、住民主体ですすめた。
北	校区社協、自治協議会	わくわく福祉まつりを年1回おこなっており、骨密度の測定や講師を呼んでの講演会をしている。老人をタクシーで送迎して、参加しやすくしている。	高齢者の送迎で参加しやすい工夫をした。

(7) その他(コロナ対策、情報発信、講演会の開催、組織づくりの工夫など)

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
中	校区社協、自治協議会、民児協、老連会、ささえりあ	関係者が集まり、校区の課題を共有し、地域住民への支援を検討・企画・実施している。	校区の強みや課題をデータで示し、興味を持ってもらいやすいように工夫している。 ※高齢者ネットワーク、子育てネットワークを校区単位の健康まちづくりの活動と位置づけている。
中	社協、自治会、民間協、老人会	オンラインを活用した研修会(中央区全体で好事例の共有) 地域のニーズ調査 その他研修会	コロナ禍でも民児協が短時間開催があったため、フレイル予防などの情報提供をすることができた。 オンライン研修会の参加。
中	自治会、民協、社協、まちづくり、老人会、婦人会	オンラインを活用した研修会	サロンはリスクレベルに応じて、開催、休止をくりかえし継続された時の再開支援。 休止中もつながりを保つために、情報提供をされていた。 オンラインの研修や会議にも団体長の一部は参加された(LINEを活用した連絡網)。 ※自治会や社協を中心にすべての諸団体が協力して取り組んでいる。
中	校区社協、民児協	オンラインを活用した研修会	オンラインへのスキル向上の為にZoom等の方法を資料にまとめて(かなり分かり易く)提供。 コロナにより室内で実施していた活動を屋外や個別訪問へ変更するなどの事例を情報提供。
中	—	校区カルテを用いて、関係機関(まちセン、ささえりあ中央)と情報交換会を実施。	関係機関にて、様々な視点からの情報を得ることができた。
東	自治会	学校隣接の公園の清掃活動	常に整備され、清掃も行き届いており、子どもたちの良き遊び場となっている。高齢者の方々がグラウンドゴルフをしたり、地域の方々が散歩したりして、校区民の憩いの場となっている。
東	校区ドリームプロジェクト	地域の住民主体で地域課題について話し合いをしたり勉強会をしたりする団体。	固苦しくない話し合いの場を目指す。
東	校区社協、民児協	まちづくりセンター、ささえりあの担当者と校区保健師、社協長、民生委員、主任児童委員と地域の課題について話し合うワークショップを行った。 イベントで健康ブースを設置した。	ワークショップを行う前に、まちづくりセンターとささえりあの担当者、社協長、民協長と事前に打ち合わせを行った。それにより、ワークショップをスムーズに行うことができた。
南	自治会	町内美化運動	広報誌に活動を紹介。
北	校区社会福祉協議会	毎月、健康講座をコミセンで実施	毎月テーマを決め、講師を外部に依頼。

アンケート集計結果

区	団体名等	活動内容	工夫やよかったと感じたこと
北	①民生委員・児童委員 ②NPO法人健康生活応援くまもとプロジェクト	①Zoomによる研修 ②健康づくりに関する講座の開催	①Zoomの使い方を指導し、研修会を開催。 ②地域住民の自ら考え学ぶ機会をつくった(介護予防、認知症、傾聴など様々な分野の講話)。
北	コミュニティセンター、自治協議会	健康に関する情報の発信	回覧板やPTAの安心メールをつかって情報発信した(地域からの要望あり)。

(8) その他の意見等

区	団体名等	意見等
中	ささえりあ	活動費のやりくり捻出が困難。フレイル予防(介護予防)活動で利用できる助成金が少ない。
西	社会福祉協議会 「家族の健康づくり支援ネットワーク」	コロナにより活動休止だが、今後の活動再開に向け、R3年度も会長や役員(計2名)と校区カルテを活用し話し合うことができた。
西	自治協議会(健康づくり部会)	今回のアンケートをきっかけに自治協議会会長と健康カルテや既存の資料をもとに健康まちづくりについて話ができた。

E. 自由記述「健康まちづくり」の推進例やご意見

27. 校区、あるいは市全体として健康まちづくり活動が活発に取り組まれていくために、どのようなことが必要だと思いますか？アイデアやご意見などをご自由にお聞かせください。（問24/21）／その他、健康まちづくりの活動についてご意見等があればお聞かせください。（問-/22）

▶ 合計で91件のご回答をいただきました。
内容を整理した結果、大きく「(1)推進方法や体制に関するご意見」「(2)活動内容に関するご意見」「(3)活動場所に関するご意見」「(4)情報発信・啓発に関するご意見」「(5)予算に関するご意見」「(6)その他のご意見」の6つに分類できました。
より具体的な内容や回答例を以下にまとめました。

※回答例はなるべくそのまま記載していますが、必要に応じて若干の編集を加えたものもあります。

(1) 推進方法や体制に関するご意見

項目	回答内容
①「健康まちづくり」の再確認 (ビジョンの共有や役割の再確認など)	「健康まちづくり」を進めていくための関係団体（機関）の代表者が集まって、小学校区全体で取り組んでいくビジョン（全体像や全体の計画）を共有したり、各団体等の重点取組や団体間の連携について、確認し合ったりするような会を定期的に行った方がよいと思う。
	担当校区には、健康まちづくりを推進しようと活動する主体がさまざまある（健康まちづくり推進委員会・ささえりあ・区保健子ども課・区福祉課・まちづくりセンター等）。ただ、共通の目標・ビジョンが共有されているとはいえず、それぞれが思い思いに活動しているという印象。（そもそも、そういった校区独自の共通の目標的なものは何か設定があるのでしょうか？私たちはよく理解しないまま、地域がやりたい活動を支援しているのが現状です）。さまざまな主体が意欲的に活動されているので、共通の目標にむかって方向性をあわせて、達成状況等をチェックしながら進めるようにすると良いのではないのでしょうか。そのためには、明確な旗振り（マネジメント）役が必要。それを校区保健師が担うのか、ささえりあが担うのか、役割分担がはっきりすると、私たちも仕事がしやすい。
	学校は、児童の健康づくりという点では取組を進めていますが、「健康まちづくり」までの視野には至っていなかった。「校区の健康まちづくり」という全体像の中で、学校が果たす役割が見えてくるのではないかと思います。
	校区の健康について地域の人たちと情報を共有する中で課題を抽出し取り組んでいく。そのために地域における「健康まちづくり」の目指すところを共有化し、実現に向けて役割分担をしながら取り組めるようにしていきたい。
	健康まちづくりとはどういったものか、何を目指していくのかわからない。関係者で共有して、協力して取組む必要があるのではないかと思います。
	地域役員とのワークショップを行い、地域の課題や強みを共有することまではできたが、健康まちづくりに取り組もうという思いは役員によって温度差があり、具体的な取組を検討するところまではできず、その後につながらなかった。行政が一方的に働きかけるのではなく、地域役員の方々と同じ立場で活動していくことへの難しさを感じた。
	「健康づくり」という大きなテーマでは、各職種が自分の領域での活動を考えるのではないかと。期間を決めて、もう少し具体的なテーマを明確に提示すれば、それに対してすりあわせ可能な提案ができ動きやすくなるのではないかと。

項目	回答内容
②話し合いの場の設定	地域住民や団体、事業所等が集まり、区役所ごとの課題を見つけ、連携していく。それを校区へおろしていく。各専門職も入っていく事が大事だと思う。どの様な支援が必要なのかも見出ししていく。
	まずは、区役所と「健康まちづくり」の活動について話し合う場を持ちたい。
	まちづくりに関係する様々な人達（地域・行政・民間）が集り、学んで話し合う機会が必要だと思う。自治協議会など自治組織向けに、まちづくり（健康・福祉も含めた）の研修会、その研修会にはまちづくりに関わる、行政機関皆が集まり、一緒に学ぶ。
	関係者、担当者同士で話し合う機会がよりあるとよい。
③住民のニーズの把握	住民のニーズを把握することが必要だと思う。
④職員が地域に出ること	まずは、コロナ禍での取組みの方向性を示すこと。行政職員がまちに足を運び、街並みを変えていくような話し合いをしっかりとしていくことなど。
	健康まちづくりを進める上で、専門職である保健師や栄養士などが自分たちの業務に関係がある時だけ地域に出るのではなく、常日ごろから顔を見せて関係性を築くべきである。
	住民主体の健康まちづくりを進めるうえで、まず、住民に健康まちづくりの取組みの重要性を理解していただく必要があると思う。そのためには、行政職員からの根気強い説明や耳を傾けてくれる信頼関係の構築が重要だと思うが、自身の業務に関する場でしか住民と関わらない職員は、信頼関係が深まりにくいように感じる。まちづくりセンター職員のように、保健師や歯科衛生士、栄養士等も日常的にさまざまな地域行事に足を運び信頼関係を築き、「あの職員が言うなら参加しよう、取り組もう、頑張っ続けよう。」と思ってもらうことが重要だと思う。
	地域の方達と地域の健康についてしっかり話し合ったり、意見を交換する時間がとれていないため、目的や方法が現状と合っているのか確認できていない。これまでの活動を続けているだけの状況となっている。
⑤庁内外での情報共有	地域住民と地域役員・関係機関が情報共有したり、話す機会がより増えると思う。
	健康まちづくり活動が活発な校区の取組みなど、アプローチの方法などを共有する場があると参考になる。
	各校区の課題の整理とそこに対する対応の検討を1校ずつもしくは課題毎に話し合い情報共有する。（支援者側、区役所内で）
	健康は様々な社会活動の基盤となるものなので、庁内の様々な部署と施策をもっと共有したほうが良いと思う。経済・商工部門、スポーツ部門、健康部門、92小中学校保護者での運動イベント等。
	健康まちづくりに関する部署や担当が違っていると、情報が入ってこない。行政内の情報共有が、まず大事かと思う。
	現在、コロナ禍であり、地域活動を行うにも難しい時期である。マンパワーも余裕がない。そんな時でも進める方法や考え方があれば教えてほしい。
	住民1人ひとりが“健康”について考えられるような啓発があまりないように思う。またそれを中心に推進していく為の、医療福祉、行政などの情報共有の場やこの機会があまりない。市全体として進めていく為には、本人含めた小地域へのアプローチと市全体へのアプローチが必要だと思う。健康指導等もう少し気軽に相談やアドバイスをうける場所が身近にあればいいと思う（「まちの保健室」的なもの）。
	新型コロナ禍で地域活動がほとんど行われていない状況で、新しいことも既存の事業も十分行えていない。担当校区へ出向く機会も減って健康まちづくり活動が停滞している状況。近日中に関係機関と情報共有の場をもうける予定。

項目	回答内容
⑥庁内外での推進体制の構築	コロナ禍で地域の健康づくり活動もストップしていたが、1年半ぶりに健康づくり委員会の会議が開催され、地域役員が主体となって、スムーズに再開することができた。健康づくり委員会として、委員長や部会等がきちんと位置づけられているから、再開もスムーズにできたと思う。
	健康づくりは若い世代から取り組むことで効果が得やすいと思う。子どもから高齢者まで幅広く連携できるように取り組めるネットワーク作りが必要と思う。
	多職種、専門職、行政の支援といった連携が十分に情報共有できていないように思う。地域づくりの中で、生活支援コーディネーター1つとっても第1層、第2層の連携の強い他市町村は予算や地域の実情把握1つとっても十分に支え合っていると思う。活動の力になってくれそうな人材や資源開発を一体的に支援、開発する上で今後行政との溝！？を埋めていけるとより活発なまちづくり支援を行えると感じる。
	校区の健康づくりネットワーク（校区社協、保健子ども課）を基幹としつつ、まちづくりセンターが全体へアクションをかけるベースをつくる。それに各関係団体や機関が協力体制をとっていくことが必要と考える。
	介護予防サポーターや認知症サポーター育成後の活動実践の場がコロナの影響も大きい極めて少ないと感じている。こうした時世なので大々的なイベントでサポーターさんらへ協力を要請する形はやりにくいかもしれないが、閉じこもりで心身低下が進行している高齢者が増えている現実もあるので、個別にサポーターの方々の関与をして頂ける仕組みづくりがあるとよいのではないかと。公園の掲示板をより有効に活用出来ないか（介護予防目的に）。
	住民主体は活動として難しいので、行政が委託先に依頼して、地域の公民館を周り、健康教室を開催して欲しい。住民は主となる人が動けば参加する。住民が少しでも面倒な事をすると負担になり誰もしたがない。地域が集まれば、会話が生まれて、把握もしやすくなる。
	まちづくりセンターの立ち位置がわからない。保健子ども課や福祉課との関わりが少ない。 これまで健康まちづくりは、区役所の保健師と地域の関係者との間の事で、ささえりあがそこに大きくかわるというスタンスではなかった。その為、包括は高齢者に対しての健康意識の向上等を意識したサロン支援、講演会の企画を行ってきた。健康まちづくりに対してそれぞれの組織の役割があると思われるが漠然としていて、積極的にやらなければいけない事という意識にはないのではないかと、そこはイニシアチブを行政が発揮してそれぞれの役割や期待している内容を明確にした方が取り組みやすいのではないかと。

項目	回答内容
⑦資材の整備（活動のメニュー化、パンフレット作成、研修会の充実など）	健康まちづくりについての説明パンフ、具体的取組事例集があったらよい。皆が共通理解し、取り組む必要があると思える様に。
	地域のリーダーが健康まちづくりをしようと思ったときに、手軽に企画・実施できる地域での健康づくり活動のメニュー・パッケージがあるとよい。パッケージには、目的・期待される効果、実施内容、人・物の手配方法、必要経費、実施方法など、難しければ実践例（目的・経緯、活動内容、実施方法・準備など）が分かりやすく書かれているとよい。
	平成24年当初に市を挙げて取りくんでいた時代から、10年近く経過し現状として健康まちづくり活動を活発に取りくまれている所は、ほばないと感じている。コロナにより校区保健活動はほとんど行えておらず、また地域役員さんと連携した地域活動のやり方そのものを知らない若い保健師が増えていることに危機感すら感じている。健康まちづくり活動を再度活性化するのであれば、具体的な展開方法を今一度まちセン職員や校区保健師等、関係機関で共有した上で、地域に展開していけると良いと思う。
	組織内の問題ではあるが、職員の入れ替わりが多く十分に引き継ぎができていない現状がある。少し業務を理解し計画立案、実施できるよう、健康まちづくりに関する資料や、組織単位での研修会などあれば積極的に関わりを持つことができるのではないかと考えている。
⑧庁内外での連携	校区単位での活動はマンパワー等、困難な事が多く各種団体がそれぞれの強みを活かして協働できれば良いと思う
	区役所とささえりあが連携を密にする。活動してくれそうな地域住民に働きかける。
	健康づくりに賛同してくれそうな団体と協力する。校区のイベントを活用し、地域に根づいた活動を行い、健康づくりを小さな子どもから高齢者まで、身近なものに感じてもらう。健康まちづくりの新しいアイデアを関係団体からひろいあげ、活動自体を楽しいものにする。
	保健活動を行っておられる区の保健師さんと区内のささえりあの保健師さん又は看護師さんとの連携 様々な団体との連携、協力が必要である。
⑧-1 庁内外での連携－教育	学校としては、子どもたちの将来にわたる健康づくりを進めていくために、校区健康カルテを活用しつつ、学校の健康課題の解決に向けて関係者（区役所保健子ども課や関係団体）と連携し取組を推進し、情報を発信していくことが、健康まちづくりの取組の一つとなると考えている
	まずは、義務教育期（段階）に健康づくりについてのプログラム（内容と方法）を位置づけ、取り組む支援をしていただけると助かる。
	小学校としては、いろいろな活動に協力する形での参加が多い。地域の諸団体が活動しやすいよう、行政のバックアップが望まれる。
	学校と家庭との連携協力が児童の健康づくり、基本的な生活習慣の確立には必要である。児童の課題解決のためには、保護者の意識を高める取組である社会教育の充実が必要である。そのための仕組みづくり、市教育に社会教育を推進する取組を推進する。
	組織の業務内容次第でもあるが、小学校の場合は、場所等の提供では協力できる部分はあるが、その他の部分では、教師の働き方改革等で難しい部分がある。そもそも、学校には「健康まちづくり事業」の概要等が知らされておらず、関わり方がイメージできていない。校区の健康カルテは役に立つデータだった。

項目	回答内容
⑧-2 庁内外での連携－企業	校区の中心的なキーパーソンとして、担当保健師を置き、各関係部署や地域との調整、事業推進を担えばよいのではと考える。地域は集まる場の確保に苦労されている。民間の福祉施設に限らず、一般企業へも、地域貢献の面から協力を求めてもよいのではないかと。
	校区内にある企業などとも協力して幅広い世代が参加したくなるイベントを考えられると良いと思う。
	企業の力、経済関係組織への働きかけ 長く健康に働ける環境づくりが必要と思う。将来的には、要介護者が減ることにつながると思う。
⑨人材確保・育成	活動を引っ張っていく地域のリーダーの存在。
	リーダーシップのある人材が必要。
	地域住民の中で推進に協力してくれる人を養成する。 校区での健康まちづくり活動が活発でなく、例年保健師が主体になって行っている印象（今回回答した校区の場合）。自治協議会会長は2年で交代されるため、一から健康まちづくりについて伝えていかねばならないため浸透しづらい。
	人とのつながりを生かすことが大切だと思う。ハード面も必要だが、時間をかけて人材の育成が必要だと考える。
	地域のリーダーの方が高齢となっているため、リーダー育成や人材の発掘が必要。
	コロナ対応のため2部制をとることが多く、物品の準備（感染対策）が必要。時間の延長に対して必要な人材の確保が課題。 支援して頂ける人材の確保。地域住民の理解と協力が必要。校区毎により特色があると思うので特色や課題に合わせた取り組みが必要である。

(2) 活動内容に関するご意見

項目	回答内容
①運動	体協と協力して、体力測定などを行う。
	運動習慣がないことがよく問題になるので、まず5分程度の運動から始められないかと考えたところ。例えば全市あげて、ラジオ体操の実践の取り組みができないかと思う。何年かかけて普及すると、他の運動にも取り組む人がでてくるのではないかと思う。ラジオ体操にも地方版があるようなので時々他地方版でやってみると、飽きなくていいかもしれない。音源もCD・テープなど複数の方法で作成して、いつでもどこでも実践することができると取り組みやすいかなと思う。
②食	個人経営の店があり、その方々と住民の健康のしかけ（減塩おそうざいとか野菜350メニューみたいな）を取り入れつつ、お客さんも呼び込めるしかけづくり。福岡では保育園におそうざいとかの自販機。コロナで、消費の停滞（食材売れない）、店の自粛で経営できない。コロナ太りを解決できるよう、生産者、調理する人、販売者がつながって上記のような「あると助かるサービス」ができると良い。
③データの活用	校区カルテやKDBのデータなど、数値データを積極的に示していくことで、普段の活動の意味づけになると思います。
④格差縮小	経済格差の縮小のための取り組みの検討も大切。健康が大切とわかって、経済面や時間なく取り組めないという人が減るように。
⑤バザーでの出展	P T Aと協力して横のつながりを作ったり、バザーにブースを出展したりする。

項目	回答内容
⑥若い世代・子どもが参加できるイベント	校区内には若い方が参加しやすいイベントが少ないため、もっとイベントや力を持つ団体が増えるとよい。
	仕事をしてる方は、仕事と家庭のことで精一杯と思う。しかし、若い頃からの習慣づけが必要だし、若い世代を事業・活動にどのように参加してもらえるかが課題だと思う。
	若い世代の人たちが健康に関心が向くようなイベントの開催。
	私自身がまだまだ校区のことが分からないことだらけなので、地域を知るために地域の方々と交流できる場が欲しい。（座談会のような感じで）
	若い方も関心を持ってもらえるように、子育て関連のイベントとからめて、健康推進のお話もできるといいなと思う。→若い方は働いている方が多いが、育休中であれば来られやすいかと思う。
⑦デジタルデバイスの活用	小学生や中学生も一緒に行う、「健康まちづくり」の活動があってもいいと思う。新型コロナが大きく世の中を変えたので、「健康まちづくり活動」も、時代に合わせて方針を立て直す必要があると感じる。
	げんきアップくまもとアプリと地元の農家等とコラボしてイベントを企画すると、興味を持たれる方も増えるのではないかなと思う。な～んなと運動手帖等日々の運動や健康をチェックできるツールと、地元の農家や商店等とコラボしてプレゼント（農作物つめ合わせ、お買い物券等）を提供してもらえるようにすると、やってみようかなと思われる方も増えるのではと思う。
	これまでに地域のイベントに健康に関する事を加えてという形が多い印象にあったが、コロナ禍となり集う場が減ったこともあり、今後はSNSやオンラインを活かした発信等も視野に入れるなど、地域の中でできる活動について共有していきたい。
	コロナ禍での活動の幅を広げるため、オンラインの技術や環境を地域で拡散していく必要があると感じる。オンラインへのハードルを低くするため、身近な事例を紹介したりと、研修会の機会をもうけるなど。 校区といっても、面積が広く、生活環境も異なるので、それぞれの地区で役員の方々が自分たちのやり方をすすめられる環境があると独自性が生まれ、地域に特化したものができるのではないかと考える。 デジタルデバイスやネット環境の整備が進むと若い世代の方々との交流や関係機関とのやりとりがスムーズになると考えている。

(3) 活動場所に関するご意見

項目	回答内容
①場所の確保や活用	集まりたくなるような所、必要なものを購入する場所など、生活の中にある場所ですつながるまちづくりがあればよいなと思う。
	地域のコミュニティの中であっても様々な意見があって、1つにまとめることがなかなか難しいと感じる。活動したいと思っていても、何をどうしたらよいのか分からない人もいると思うので、何か提案や指導してくれる場所（人）がいれば「形」になりやすいと思う。
	コロナでイベントがなくなっているので健康に関する事業ができればと思う。公園などでも体操やイベント企画などあればおもしろそう。健康まちづくりは校区ごとに取組みが違うので、見える化し、住民に取組みが伝わるとよい。私自身分かっていない部分があるので連携していきたい。

(4) 情報発信・啓発に関するご意見

項目	回答内容
①健康まちづくり活動の周知	「健康まちづくり」について必要性を感じてもらえる様に、まずは啓発周知が必要と思う。（メディア等）
	「健康まちづくり」の活動について知らなかった。ささえりあにはあまりこの活動についてお知らせがないように思う。協力できることがあればと思う。
	コロナ禍で中止しているものが多いことも含め、健康まちづくりについて、より多くの方に知ってもらうことがまずは必要だと思う。
	健康まちづくりの活動を知ってもらう。校区単位をこえて、区や市で健康まちづくりを担っている団体について知る。協働して取りくむ。
②活動の周知方法の工夫	TV（メディア）を通して、健康まちづくりの啓発活動を行う。
	各地域の健康まちづくり活動についてホームページや広報紙等で地域に周知し、自分の地域の活動に興味を持ってもらえるように促す。
	具体的でわかりやすい内容で健康まちづくりのアピールができると良い。
③対象者や目的の明確化	若い世代への健康づくりに関する情報発信が必要だと思う。広報誌やホームページでは若い方があまり見ないと思うので、LINEやインスタグラムでの情報発信をしていくことが必要だと思う。
	健康づくりへの関心は、男女別・年齢別によっても違うと思う。年齢別にターゲットを絞った重点施策を組むことも、健康づくりを推進する上で必要だと思う。また健康づくりというと、メディア等では、こんな悪い病気になるから、改善のために取組もうという表現がみえる。そうではなく視点を変えて、こういうことに取組めば、こう良くなると、良いことに取組めば、さらに、こんな良い効果があるという、表現の方で、マイナスイメージからプラスイメージではなく、プラスイメージから、よりプラスのイメージへと結びつけると、人も考え方が変わってくると思う。

(5) 予算に関するご意見

項目	回答内容
①財源の確保	地域に歴史的資源があり、健康づくりにも活用できるが、地域に財源がないので財源の支援が必要だと思う。

(6) その他のご意見

項目	回答内容
①地域のつながりづくりの必要性	活動の素地として、近隣住民が互いに顔を知っており、声を掛け合う雰囲気、関係づくりが必要。そうでないと、参加しない人は今後も一度も参加しないと思われる。誘い合う（声をかけ合う）関係があれば、「行ってみよう」という気持ちになるかもしれない。 他の地域からの転入も多い校区であり、地域住民の交流が今後の課題である。
②コロナ禍での課題	コロナで保健所との行き来をしたり担当校区を代わったりと、とても難しい状況。 コロナの中で、全くこのような取組みについての情報も話し合いもない。地域の方ともこの2年、全くふれあうことができていない。
③アンケート結果の有効活用	地域住民にアンケートをとる取組みがあっているが、その後の結果を生かしきれず、また数年後に同じようなアンケートをとる…ということがあっているようだ。せっかくとったアンケートは、地域にしっかり還元できるといいと思う。
④高齢者の移動手段確保	無料タクシー、バス等、老人が移動できるような（自家用）車ではなくて、何かしら買い物などもできる方法を考えてほしい。
⑤地域の既存の行事との関わり	すでに地域ではイベントが開催されており、新たに「健康まちづくり委員会」などを設置することは難しく、どのように対処していくとよいかを知りたい。
⑥60歳代の参加	若い人は仕事やプライベート、家事や子育てで忙しく、地域活動への参加は見込めない。比較的若くて元気な高齢者（60代）が頑張ってくことで活動が活発になると思われる。

【別添資料】

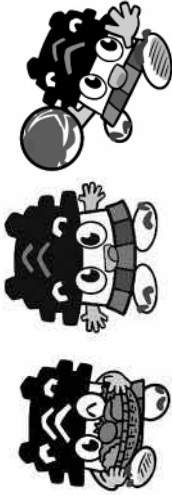
使用した調査票

- ①担当校区をもつ職員版
- ②担当校区をもたない職員版

- *地域包括支援センター
- *小学校
- *まちづくりセンター
- *区役所保健子ども課の校区担当保健師など

熊本市 健康まちづくり活性化に 向けたアンケート

調査票



～ご記入にあたってのお願い～

- 担当校区が複数ある場合は、お手数ですが校区ごとに回答してください。
- 同じ職種の複数人で校区を担当している場合は、回答内容を協議のうえ、代表の方が回答してください(1校区につき1つの調査票でご回答ください)。
- 回答はあてはまる番号を○で囲むなど、各設問の指示にしたがってください。
- 本調査は無記名です。また回答内容による不利益等は一切ございませんので、率直にお答えください。
- ～返送について～
 - ご記入いただきました調査票は、同封しました返信用封筒に入れ、11月30日(火)までにポストにご投函ください(返送先は東邦大学です)。
 - 差出人のお名前等を書いていただく必要はありません。

本調査に関するお問い合わせ先

熊本市健康づくり推進課 096-361-2145 [平日 8:30-17:15]
東邦大学医学部衛生学教室 03-3762-4151 (内線 2405) [平日 9:00-17:00]

I. あなたの校区での活動についてお聞きます

問1. あなたの職種をお教えてください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|----------------|
| 1. 保健師 (校区担当) | 2. 保健師 (校区担当でない) | 3. 管理栄養士・栄養士 |
| 4. 医師 | 5. 歯科医師、歯科衛生士 | 6. まちづくりセンター職員 |
| 7. ささえりあ職員 | 8. 小学校長 | 9. その他 () |

問2. 現在担当されている小学校区をすべて教えてください。

すべてに○ (複数選択可)

区	中央区	東 区	西 区	南 区	北 区
小学校区名 (五十音順)	1. 出水 2. 出水南 3. 一新 4. 大江 5. 帯山 6. 帯山西 7. 黒髪 8. 慶徳 9. 向山 10. 壺川 11. 五福 12. 白川 13. 城東 14. 砂取 15. 碩台 16. 託麻原 17. 白山 18. 春竹 19. 本莊	20. 秋津 21. 泉ヶ丘 22. 画図 23. 尾ノ上 24. 健軍 25. 健軍東 26. 桜木 27. 桜木東 28. 託麻北 29. 託麻西 30. 託麻東 31. 託麻南 32. 月出 33. 長嶺 34. 西原 35. 東町 36. 山ノ内 37. 若葉	38. 池田 39. 池上 40. 小島 (松尾東) 松尾西 松尾北 41. 春日 42. 河内 43. 城山 44. 城西 45. 白坪 46. 高橋 47. 中島 48. 花園 49. 古町 50. 芳野	51. 鮑田西 52. 鮑田東 53. 鮑田南 54. 奥古閑 55. 川口 56. 川尻 57. 隈庄 58. 城南 59. 杉上 60. 銭塘 61. 田迎 62. 田迎西 63. 田迎南 64. 富合 65. 豊田 66. 中緑 67. 日吉 68. 日吉東 69. 御幸 70. 力合 71. 力合西	72. 麻生田 73. 植木 74. 川上 75. 楠 76. 桜井 77. 山東 78. 清水 79. 城北 80. 高平台 81. 田底 82. 龍田 83. 龍田西 84. 田原 85. 西里 86. 楡木 87. 菱形 (大和) 88. 北部東 89. 武蔵 90. 山本 91. 弓削 92. 吉松

※この質問はアンケートを校区単位で集計するために必要ですので、ご協力をお願いします。



問 3. 問 2 で校区を複数選択した方に質問です。選択した校区のうち、この調査票でお答え
いただく校区の番号を 1 つご記入ください。(問 2 の校区番号を記入)

 校区番号 (1 つ)

以降の問 4 ～ 問 20 は、問 3 でお答えいただいた校区
(1 校区のみの担当の場合は問 2 でお答えいただいた校区) についてお答えください。



問 4. あなたの担当校区において、支援をする(必要があれば支援をする)など、関わりがある地域の
住民組織や団体をすべて教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 校区自治協議会

3. 校区青少年健全育成協議会

5. 民生委員・児童委員、主任児童委員

7. 健康づくり部会・健康まちづくり委員会

9. P T A

11. 8020 推進員

13. まちづくり委員会

15. 防犯協会

17. 子ども会

19. 公園愛護会

21. 消防団分団

23. N P O 法人

25. その他 ()
2. 校区社会福祉協議会

4. 町内自治会

6. 地域公民館

8. スポーツ協会、スポーツ団体

10. 食生活改善推進員

12. 介護予防サポーター

14. 地域コミュニティセンター運営委員会

16. 老人クラブ

18. 女性の会 (地域婦人会)

20. 交通安全協会

22. 子育て支援ネットワーク

24. 上記以外のボランティア団体

問 5. あなたの担当校区の住民組織や団体は、職員として働きかけがしやすいと思いますか？
(1 つに○)

1. 強くそう思う

4. そう思わない
2. そう思う

5. 全くそう思わない
3. どちらともいえない

問 6. あなたの担当校区の住民組織や団体の関係者は、地域の状況や困りごとなど、あなたの業務の
参考になるような情報を提供してくれていると思いますか？ (1 つに○)

1. 強くそう思う

4. そう思わない
2. そう思う

5. 全くそう思わない
3. どちらともいえない

問 7. あなたの担当校区では、小学校区全体としてどのような取組みが重視されてきたと思いますか？
あなたからみた、優先度が高いと思われる取組みを 5 つまで選択してください。(○は 5 つまで)

1. 健康まちづくりに関する活動

3. 障がい児・者に関する活動

5. 生活習慣病予防に関する活動

7. 歯・口の健康づくりに関する活動

9. お祭りやイベントに関する活動

11. 防災に関する活動

13. 環境美化 (ゴミ拾いなどを含む) に関する活動

14. スポーツ (地域での運動会などを含む) に関する活動

15. その他 ()

16. 何もない
2. 高齢者や介護予防に関する活動

4. 子どもの育成や健康に関する活動

6. 食生活の改善や食育に関する活動

8. 町内自治会に関する活動

10. 地域安全 (防犯) に関する活動

12. 文化・芸術に関する活動
17. わからない

Ⅱ. 熊本市が推進する「健康まちづくり」についてお聞きします

問 8. あなたの担当校区において、校区としての「健康まちづくり」を統括的に担っている住民組織を
教えてください。(1 つに○)

1. 校区自治協議会

3. 健康づくり部会・健康まちづくり委員会

5. その他 ()

7. 統括的ではないが、単体で担っている住民組織がある ()
2. 校区社会福祉協議会

4. まちづくり委員会

6. そのような住民組織はない

問 9. さまざまな校区の行事や活動があるなかで、あなたの担当校区では、校区として「健康まちづくり
関する活動」の優先度はどの程度だと思いますか？ (1 つに○)

1. 最も優先されている

4. あまり優先されていない
2. 比較的優先されている

5. 全く優先されていない
3. どちらともいえない

問 10. あなた自身の職務のなかで、担当校区の「健康まちづくり」を推進することの優先度はどの程度ですか？①新型コロナウイルス感染症発生前と②現在についてお答え下さい。(1つに○)

①新型コロナウイルス感染症発生前

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 最も優先していた | 2. 比較的優先していた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり優先しなかった | 5. 全く優先しなかった | |

②現在

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 最も優先している | 2. 比較的優先している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり優先していない | 5. 全く優先していない | |

問 11. あなた自身の考えとして、あなたの担当校区において、「健康まちづくり」を行う重要性はどの程度感じますか？(1つに○)

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1. 大変重要である | 2. 重要である | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり重要でない | 5. 全く重要でない | |

問 12. あなたの担当校区で取組むべき健康づくり対策として、どのようなことが大事だと思いますか？あなたが大事だと思う優先度の高いものを5つまで選択してください。(○は5つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 地域のふれあい（孤立の防止や世代間交流を含む） |
| 2. スポーツの推進や身体活動量の増加 |
| 3. 食生活の改善や食育の推進 |
| 4. 歯・口の健康づくりの推進（むし歯や歯周病予防など） |
| 5. 特定健診やがん検診などの受診率の向上 |
| 6. ストレス対策（こころの支援） |
| 7. 喫煙対策 |
| 8. 飲酒対策 |
| 9. 感染症対策 |
| 10. 子どもの健全な育成（肥満対策や虐待予防など） |
| 11. 高齢者の虐待予防 |
| 12. 高齢者の介護・フレイル予防 |
| 13. 特定の病気の予防・対策（病名：_____） |
| 14. その他 ※上記以外で大事だと思うことがあれば教えてください。 |

(_____)

問 13. この担当校区において、地域の住民組織や団体が、これからさらに主体的に「健康まちづくり」を進めていくために、行政としてどのような支援方法が有効だと思いますか？あなたが有効だと思うものを5つまで選択してください。(○は5つまで)

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1. 校区の状況をデータで示す | 2. 組織のリーダーと対話を重ねる |
| 3. 会議などで校区の健康課題などを話し合う | 4. 活動方法をまとめた資料を用意する |
| 5. 校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する | 6. 専門的な委員会の設置を促す |
| 7. 健康まちづくりの推進員を育成する | 8. 協力してくれそうな新しい組織や人を探す |
| 9. 他校区と情報交換・共有する機会を設定する | 10. 行政職員や関係機関の連携・協力を強化する |
| 11. 市／区役所内の推進体制を強化する | 12. 健康まちづくりに関する財源を増やす |
| 13. 地域の人が集まれる新たな場所を確保する | 14. 住民のニーズ調査の実施を支援する |
| 15. その他（ _____ ） | |
| 16. 既に自律した活動が行われており、これ以上の支援は必要ない | |

問 14. あなたは、熊本市が小学校区単位の健康関連データをまとめた「校区健康カルテ」を作成していることを知っていましたか？(1つに○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 知っており、担当校区のカルテを見たことがある |
| 2. 知っていたが、担当校区のカルテはまだ見ていない |
| 3. 知らなかった |



→ 問 14-1. 上の問 14 で「1. 知っており、担当校区のカルテを見たことがある」とお答えした人にお聞きします。「校区健康カルテ」をどの程度活用しましたか？(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 既に活用した（関係者への共有、話し合いなど） |
| 2. 活用を検討中である |
| 3. 活用の予定はない |

→ 問 14-2. 上の問 14-1 で「1. 既に活用した」とお答えした人にお聞きします。住民に「校区健康カルテ」を提示した反応はどのようなものでしたか？(1つに○)

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 大いに興味をもっていった | 2. 興味をもっていった |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり興味をもっていなかった |
| 5. 全く興味をもっていなかった | 6. 住民には提示していない(職員間のみでの共有等) |

問 15. 「校区健康カルテ」は、担当校区の健康づくりに役立つと思いますか？（1つに○）

- | | | |
|-----------|-------------|--------------|
| 1. 強くそう思う | 2. そう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. そう思わない | 5. 全くそう思わない | |

問 16. 「校区健康カルテ」についての感想やご意見(追加してほしい項目や改善点など)があればお聞かせください。(自由記述)

※複数校区回答される場合は、1つの調査票のみにご記入いただければ結構です。

問 17. あなたの担当校区について、以下の①～⑯に関する考えをお聞かせください。(○は1つずつ)

※小学校区の範囲でお答えください。※校区との関わりが少ない場合は、わかる範囲でお答えください。

	そ ろ ど う 思 う	そ う 思 う	え ど な い と も い	そ う 思 わ な い	そ 全 く 思 わ な い
①住民にとって住みやすいところだ。	→ 1	2	3	4	5
②住民が「犯罪の被害にあうのではという不安」を感じている。	→ 1	2	3	4	5
③公共交通機関(電車・バスなど)が利用しやすい。	→ 1	2	3	4	5
④区役所や出張所に行きやすい。	→ 1	2	3	4	5
⑤歩くのに適した歩道や緑道が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑥地域の人が集まれる場所(集会所や施設、公園等)が十分に	→ 1	2	3	4	5
⑦校区の集まりでは⑥のような場所が有効に活用されている。	→ 1	2	3	4	5
⑧地域の活動に参加する人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑨健康意識の高い人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑩日常的に運動をしている人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑪日常的に食事に気を付けている人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑫地域の人はみんな助け合っている。	→ 1	2	3	4	5
⑬地域の人はお互いを思いやりたり気にかけて合ったりしている。	→ 1	2	3	4	5
⑭地域の人たちが大切にしている文化的な資源や行事、場所、特産品などがある。	→ 1	2	3	4	5
⑮地域の住民組織や団体の関係者は、地域に愛着をもって活動している。	→ 1	2	3	4	5
⑯健康まちづくりが活発に行われている。	→ 1	2	3	4	5

問 18. 担当校区における「健康まちづくり」や「健康づくり」の活動について、工夫していること(コロナ禍での活動の工夫も含む)や、これまで成果が出たことなどについて、どのようなことでもお聞かせください。

(自由記述)

※各地域の取組み事例を集め、今後の活動の参考となる形でお返す予定です。

【活動を主に取組んでいる団体名など】

【活動内容】

【工夫したこと（支援の方法も含む）や成果】

【その他】

問 19. 次の①～⑨の行政等の職員は、担当校区での「健康まちづくり」の推進について、どのくらいの頻度であなたと情報交換をしますか？ それぞれの職員についてお答えください。(○は1つずつ)

※ご自身の職種は 1 を選択してください。

	頻繁に する	ときどき する	どちらとも いえない	あまり しない	まったく しない
①区役所の保健師（校区担当）	→ 1	2	3	4	5
②区役所の保健師（校区担当でない）	→ 1	2	3	4	5
③区役所の管理栄養士・栄養士	→ 1	2	3	4	5
④区役所の医師	→ 1	2	3	4	5
⑤区役所の歯科医師、歯科衛生士	→ 1	2	3	4	5
⑥まちづくりセンター職員	→ 1	2	3	4	5
⑦ささえりあ職員	→ 1	2	3	4	5
⑧小学校の教員	→ 1	2	3	4	5
⑨地域の医療機関や福祉施設の職員	→ 1	2	3	4	5

問 20. 次の①～⑨の行政等の職員とあなたは、担当校区での「健康まちづくり」の推進に関する目標をどのくらい共有していますか？それぞれの職員についてお答えください。(○は1つずつ)
※ご自身の職種は1を選択してください。

	完全に 共有して いる	おおよそ 共有して いる	どちらとも いえない	あまり 共有して いない	まったく 共有して いない	
①区役所の保健師（校区担当）	→	1	2	3	4	5
②区役所の保健師（校区担当でない）	→	1	2	3	4	5
③区役所の管理栄養士・栄養士	→	1	2	3	4	5
④区役所の医師	→	1	2	3	4	5
⑤区役所の歯科医師、歯科衛生士	→	1	2	3	4	5
⑥まちづくりセンター職員	→	1	2	3	4	5
⑦ささえりあ職員	→	1	2	3	4	5
⑧小学校の教員	→	1	2	3	4	5
⑨地域の医療機関や福祉施設の職員	→	1	2	3	4	5

★この調査票が2校区目以降の場合は、以下の問 21～問 24 は回答せず問 25 にお進みください。
※この調査票が1校区目の場合は、以降のすべての質問にお答えください。

問 21. 「健康まちづくり」事業について、以下の①～⑨に関するあなたの考えをお聞かせください。
(○は1つずつ)

	そ強 うく 思 う	そ う 思 う	い ど ち ら と も い え な い	そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	そ 全 く 思 わ な い
①校区住民の健康づくりに役立つ重要な取り組みである。	→	1	2	3	4	5
②健康づくりを目的とした関連事業（健康ポイント事業や保健医療職による健康教育や健康相談など）と比べて効果がある。	→	1	2	3	4	5
③校区住民のニーズにあわせた活動がしやすい。	→	1	2	3	4	5
④小学校区という範囲は健康まちづくりに適している。	→	1	2	3	4	5
⑤活動方法や手順がわかりやすい。	→	1	2	3	4	5
⑥複雑で手間のかかる取り組みである。	→	1	2	3	4	5
⑦取り組みを進めるための費用がかかりすぎる。	→	1	2	3	4	5
⑧私は健康まちづくりの趣旨をよく理解できている。	→	1	2	3	4	5
⑨これまで、地域と一緒に健康まちづくりを進めることができた。	→	1	2	3	4	5

問 22. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）について、「健康まちづくり」事業を推進する」という観点から、以下の①～⑭に関する考えをお聞かせください。
(○は1つずつ)

	そ う 思 う	そ う 思 う	え ど ち ら と も い え な い	そ う 思 わ な い	全 く 思 わ な い	
①組織の仕組みは健康まちづくりを推進しやすい。	→	1	2	3	4	5
②職員同士のコミュニケーションは活発である。	→	1	2	3	4	5
③組織は新しい取組みや提案を受け入れる素地がある。	→	1	2	3	4	5
④組織として、健康まちづくりの必要性を感じている。	→	1	2	3	4	5
⑤健康まちづくりは組織の理念や価値観に合っている。	→	1	2	3	4	5
⑥他の事業と比べて健康まちづくりの優先度は高い。	→	1	2	3	4	5
⑦健康まちづくりに関する業務を行うことが推奨されている。	→	1	2	3	4	5
⑧自分の職務は健康まちづくりを進めるために必要である。	→	1	2	3	4	5
⑨校区住民の健康課題やニーズを把握できている。	→	1	2	3	4	5
⑩事業をすすめる際に、上司や同僚は必要な支援をしている。	→	1	2	3	4	5
⑪健康まちづくりを進めるための予算は十分である。	→	1	2	3	4	5
⑫健康まちづくりを進めるための人員は十分にいる。	→	1	2	3	4	5
⑬市役所本片は必要な情報を提供してくれる。	→	1	2	3	4	5
⑭他の同種の組織との接点（共同活動や情報共有等）がある。	→	1	2	3	4	5

Ⅱ. あなた自身のことについてお聞きします

※以降の質問は、回答校区が2校目以降の場合でもお答えください。
※複数人で協議して回答されている場合、下記の方がお答えください。

- ①主担当がいる場合 ➡ 主担当の方がお答えください。
②主担当がいない場合 ➡ その校区を一番長く担当されている方が回答してください。

問 25. あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

問 26. あなたの年齢（令和3年9月1日時点）を教えてください。(1つに○)

1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30～34歳	4. 35～39歳
5. 40～44歳	6. 45～49歳	7. 50～54歳	8. 55～59歳
9. 60歳以上			

問 27. あなたは、現在の職種として通算でどのくらい働いていますか？（1つに○）

1. 1年未満	2. 1～2年未満	3. 2～3年未満	4. 3～5年未満
5. 5～10年未満	6. 10～15年未満	7. 15～20年未満	8. 20年以上

問 28. あなたは、この質問票でお答えいただいた担当校区を通算でどのくらい担当していますか？
（1つに○）

1. 1年未満	2. 1～2年未満	3. 2～3年未満	4. 3～5年未満
5. 5～10年未満	6. 10～15年未満	7. 15～20年未満	8. 20年以上

問 29. あなたは、この質問票でお答えいただいた担当校区にどの程度愛着がありますか？（1つに○）

1. とても愛着がある	2. 愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. まったく愛着がない	

問 30. この質問票は何人で話し合って回答されましたか？（自分を含めた人数を記入）

人



質問は以上になります。ご協力ありがとうございました！

問 23. あなたの所属している組織（区役所／小学校／ささえりあ）における、組織としての
全体的な「健康まちづくり」事業の推進方法について、以下の①～⑧に関する考えをお聞かせ
ください。（それぞれ1つに○）

そ強く思う	そう思う	えな いともい	そう 思わ ない	そ全 く思 わ ない	
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5
→	1	2	3	4	5

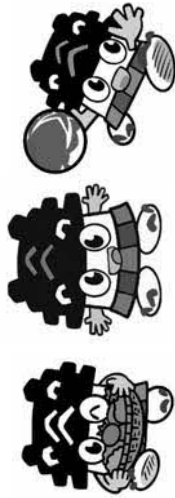
問 24. 担当校区、あるいは市全体として健康まちづくり活動が活発に取組まれていくために、どのような
ことが必要だと思いますか？アイデアやご意見などをご自由にお聞かせください。（自由記述）

※例えば、【活動の力になってくれるような団体など（企業や NPO 法人等を含む）がある】【健康づくりに活用されて
いない場所や施設がある】【地域の人たちが参加しやすいように、○○のような活動や仕掛けがあると良いと
思う】【地域の関係者に○○の情報やサポートが必要だと思う】など、ご自由にお聞かせください。
※その他、健康まちづくりの活動についてご意見等があれればそれもお聞かせください。

*区役所福祉課の保健師など
*区役所保健子ども課の
医師、歯科医師、管理栄養士、
歯科衛生士・事務職員など

熊本市 健康まちづくり活性化に 向けたアンケート

調査票



～ご記入にあたってのお願い～

- 回答はあてはまる番号を○で囲むなど、各設問の指示にしたがってください。
- **本調査は無記名です。**また回答内容による不利益等は一切ございませんので、率直にお答えください。

～返送について～

- ご記入いただきました調査票は、同封しました返信用封筒に入れ、**11月30日(火)まで**にポストにご投函ください(返送先は東邦大学です)。
- 差出人のお名前等を書いていただく必要はありません。

本調査に関するお問い合わせ先

熊本市健康づくり推進課 096-361-2145 [平日 8:30-17:15]
東邦大学医学部衛生学教室 03-3762-4151 (内線 2405) [平日 9:00-17:00]

I. あなたの地域での活動についてお聞きします

問 1. あなたの職種をお教えてください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|----------------|
| 1. 保健師 (校区担当) | 2. 保健師 (校区担当でない) | 3. 管理栄養士・栄養士 |
| 4. 医師 | 5. 歯科医師、歯科衛生士 | 6. まちづくりセンター職員 |
| 7. ささえあり職員 | 8. 小学校長 | 9. その他 () |

問 2. 現在所属されている区役所を教えてください。(1つに○)

- | | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 1. 中央区 | 2. 東区 | 3. 西区 | 4. 南区 | 5. 北区 |
|--------|-------|-------|-------|-------|

問 3. 現在所属されている区役所には通算でどのくらい在職していますか? (1つに○)

- | | | | |
|-------------|--------------|--------------|------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1～2 年未満 | 3. 2～3 年未満 | 4. 3～5 年未満 |
| 5. 5～10 年未満 | 6. 10～15 年未満 | 7. 15～20 年未満 | 8. 20 年以上 |

問 4. あなたが担う業務において、支援をする(必要があれば支援をする)など、関わりがある地域の住民組織や団体をすべて教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 校区自治協議会 | 2. 校区社会福祉協議会 |
| 3. 校区青少年健全育成協議会 | 4. 町内自治会 |
| 5. 民生委員・児童委員、主任児童委員 | 6. 地域公民館 |
| 7. 健康づくり部会・健康まちづくり委員会 | 8. スポーツ協会、スポーツ団体 |
| 9. PTA | 10. 食生活改善推進員 |
| 11. 8020 推進員 | 12. 介護予防サポーター |
| 13. まちづくり委員会 | 14. 地域コミュニティセンター運営委員会 |
| 15. 防犯協会 | 16. 老人クラブ |
| 17. 子ども会 | 18. 女性の会 (地域婦人会) |
| 19. 公園愛護会 | 20. 交通安全協会 |
| 21. 消防団分団 | 22. 子育て支援ネットワーク |
| 23. NPO 法人 | 24. 上記以外のボランティア団体 |
| 25. その他 () | |

問 8. 次の①～⑨の行政等の職員は、地域での「健康まちづくり」の推進に関する目標をどのくらい共有
していますか？ それぞれの職員についてお答えください。(○は1つずつ)

※ご自身の職種は 1 を選択してください。

	完全に 共有して いる	おおよそ 共有して いる	どちらとも いえない	あまり 共有して いない	まったく 共有して いない
①区役所の保健師（校区担当）	→	1	2	3	4
②区役所の保健師（校区担当でない）	→	1	2	3	4
③区役所の管理栄養士・栄養士	→	1	2	3	4
④区役所の医師	→	1	2	3	4
⑤区役所の歯科医師、歯科衛生士	→	1	2	3	4
⑥まちづくりセンター職員	→	1	2	3	4
⑦ささえりあ職員	→	1	2	3	4
⑧小学校の教員	→	1	2	3	4
⑨地域の医療機関や福祉施設の職員	→	1	2	3	4

Ⅱ. 熊本市が推進する「健康まちづくり」についてお聞きします

問 9. あなた自身の職務のなかで、地域の「健康まちづくり」を推進することの優先度はどの程度
ですか？ ①新型コロナウイルス感染症発生前と②現在についてお答え下さい。(1つに○)

①新型コロナウイルス感染症発生前

1. 最も優先していた	2. 比較的優先していた	3. どちらともいえない
4. あまり優先しなかった	5. 全く優先しなかった	

②現在

1. 最も優先している	2. 比較的優先している	3. どちらともいえない
4. あまり優先していない	5. 全く優先していない	

問 10. あなた自身の考えとして、地域において、「健康まちづくり」を行う重要性はどの程度感じますか？
(1つに○)

1. 大変重要である	2. 重要である	3. どちらともいえない
4. あまり重要でない	5. 全く重要でない	

問 5. あなたの所属している区役所の地域は、全体的に職員として働きかけがしやすいと思います
か？（1つに○）

1. 強くそう思う	2. そう思う	3. どちらともいえない
4. そう思わない	5. 全くそう思わない	

問 6. あなたの所属している区役所の地域の住民組織や団体の関係者は、地域の状況や困りごとな
ど、あなたの業務の参考になるような情報を提供してくれていると思いますか？（1つに○）

1. 強くそう思う	2. そう思う	3. どちらともいえない
4. そう思わない	5. 全くそう思わない	

問 7. 次の①～⑨の行政等の職員は、地域での「健康まちづくり」の推進について、どのくらいの頻度であ
なたと情報交換をしますか？ それぞれの職員についてお答えください。(○は1つずつ)

※ご自身の職種は 1 を選択してください。

	頻繁に する	ときどき する	どちらとも いえない	あまり しない	まったく しない
①区役所の保健師（校区担当）	→	1	2	3	4
②区役所の保健師（校区担当でない）	→	1	2	3	4
③区役所の管理栄養士・栄養士	→	1	2	3	4
④区役所の医師	→	1	2	3	4
⑤区役所の歯科医師、歯科衛生士	→	1	2	3	4
⑥まちづくりセンター職員	→	1	2	3	4
⑦ささえりあ職員	→	1	2	3	4
⑧小学校の教員	→	1	2	3	4
⑨地域の医療機関や福祉施設の職員	→	1	2	3	4

問 11. あなたの所属している区役所の地域において、住民組織や団体が、これからさらに主体的に「健康まちづくり」を進めていくために、行政としてどのような支援方法が有効だと思いますか？
あなたが有効だと思うものを5つまで選択してください。(○は5つまで)

1. 校区の状況をデータで示す

2. 組織のリーダーと対話を重ねる

3. 会議などで校区の健康課題などを話し合う

4. 活動方法をまとめた資料を用意する

5. 校区のやり方や資源に合わせた方法を提案する

6. 専門的な委員会の設置を促す

7. 健康まちづくりの推進員を育成する

8. 協力してくれそうな新しい組織や人を探す

9. 他校区と情報交換・共有する機会を設定する

10. 行政職員や関係機関の連携・協力を強化する

11. 市／区役所内の推進体制を強化する

12. 健康まちづくりに関する財源を増やす

13. 地域の人が集まれる新たな場所を確保する

14. 住民のニーズ調査の実施を支援する

15. その他 ()

16. 既に自律した活動が行われており、これ以上の支援は必要ない

問 12. あなたの所属している区役所の地域全体で取組むべき健康づくり対策として、どのようなことが大事だと思いますか？**あなたが大事だと思う優先度の高いものを5つまで選択してください。(○は5つまで)**

1. 地域のふれあい（孤立の防止や世代間交流を含む）

2. スポーツの推進や身体活動量の増加

3. 食生活の改善や食育の推進

4. 歯・口の健康づくりの推進（むし歯や歯周病予防など）

5. 特定健診やがん検診などの受診率の向上

6. ストレス対策（こころの支援）

7. 喫煙対策

8. 飲酒対策

9. 感染症対策

10. 子どもの健全な育成（肥満対策や虐待予防など）

11. 高齢者の虐待予防

12. 高齢者の介護・フレイル予防

13. 特定の病気の予防・対策（病名：_____）

14. その他 ※上記以外で大事だと思うことがあれば教えてください。
- ()

問 13. あなたは、熊本市が小学校区単位の健康関連データをまとめた「校区健康カルテ」を作成していることを知っていましたか？（1つに○）

1. 知っており、関係する校区のカルテを見たことがある

2. 知っていたが、関係する校区のカルテはまだ見ていない

3. 知らなかった

→ 問 13-1. 上の問 13 で「1. 知っており、関係する校区のカルテを見たことがある」とお答えした人にお聞きします。「校区健康カルテ」をどの程度活用しましたか？（1つに○）

1. 既に活用した（関係者への共有、話し合いなど）

2. 活用を検討中である

3. 活用の予定はない

→ 問 13-2. 上の問 13-1 で「1.既に活用した」とお答えした人にお聞きします。住民に「校区健康カルテ」を提示した反応はどのようなものでしたか？（1つに○）

1. 大いに興味をもっていた

2. 興味をもっていた

3. どちらともいえない

4. あまり興味をもっていなかった

5. 全く興味をもっていなかった

6. 住民には提示していない（職員間のみでの共有等）

問 14. 「校区健康カルテ」は、校区の健康づくりに役立つと思いますか？（1つに○）

1. 強くそう思う

2. そう思う

3. どちらともいえない

4. そう思わない

5. 全くそう思わない

問 15. 「校区健康カルテ」についての感想やご意見（追加してほしい項目や改善点など）があればお聞かせください。（自由記述）

問 16. あなたの所属している区役所の地域全体について、以下の①～⑯に関する考えをお聞かせください。
い。(○は1つずつ) ※地域との関わりが少ない場合は、わかる範囲でお答えください。

	そ強 うく 思 う	そ う 思 う	えど な い ら と も い	そ う 思 わ な い	そ全 く 思 わ な い
①住民にとって住みやすいところだ。	→ 1	2	3	4	5
②住民が「犯罪の被害にあうのではという不安」を感じている。	→ 1	2	3	4	5
③公共交通機関(電車・バスなど)が利用しやすい。	→ 1	2	3	4	5
④区役所や出張所に行きやすい。	→ 1	2	3	4	5
⑤歩くのに適した歩道や緑道が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑥地域の人が集まれる場所(集会所や施設、公園等)が十分にある。	→ 1	2	3	4	5
⑦地域の集まりでは⑥のような場所が有効に活用されている。	→ 1	2	3	4	5
⑧地域の活動に参加する人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑨健康意識の高い人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑩日常的に運動をしている人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑪日常的に食事に気を付けている人が多い。	→ 1	2	3	4	5
⑫地域の人はみんな助け合っている。	→ 1	2	3	4	5
⑬地域の人はお互いを思いやりたり気にかけて合ったりしている。	→ 1	2	3	4	5
⑭地域の人たちが大切にしている文化的な資源や行事、場所、特産品などがある。	→ 1	2	3	4	5
⑮地域の住民組織や団体の関係者は、地域に愛着をもって活動している。	→ 1	2	3	4	5
⑯健康まちづくりが活発に行われている。	→ 1	2	3	4	5

問 17. 「健康まちづくり」事業について、以下の①～⑨に関するあなたの考えをお聞かせください。
(○は1つずつ)

	そ強 うく 思 う	そ う 思 う	いど な い ら と も	そ う 思 わ な い	そ全 く 思 わ な い
①校区住民の健康づくりに役立つ重要な取り組みである。	→ 1	2	3	4	5
②健康づくりを目的とした関連事業(健康ポイント事業や保健医療職による健康教育や健康相談など)と比べて効果がある。	→ 1	2	3	4	5
③校区住民のニーズにあわせた活動がしやすい。	→ 1	2	3	4	5
④小学校区という範囲は健康まちづくりに適している。	→ 1	2	3	4	5
⑤活動方法や手順がわかりやすい。	→ 1	2	3	4	5
⑥複雑で手間のかかる取り組みである。	→ 1	2	3	4	5
⑦取り組みを進めるための費用がかかりすぎる。	→ 1	2	3	4	5
⑧私は健康まちづくりの趣旨をよく理解できている。	→ 1	2	3	4	5
⑨これまで、地域と一緒に健康まちづくりを進めることができた。	→ 1	2	3	4	5

問 18. 地域における「健康まちづくり」や「健康づくり」の活動について、工夫していること(コロナ禍での活動の工夫も含む)や、これまで成果が出たことなどについて、どのようなことでもお聞かせください。
(自由記述)

※各地域の取り組み事例を集め、今後の活動の参考となる形でお返す予定です。

【活動を主に取組んでいる団体名など】

【活動内容】

【工夫したこと（支援の方法も含む）や成果】

【その他】

問 19. あなたの所属している区役所について、「健康まちづくり事業を推進する」という観点から、以下の①～⑭に関する考えをお聞かせください。(○は1つずつ)

①組織の仕組みは健康まちづくりを推進しやすい。	→	1	2	3	4	5
②職員同士のコミュニケーションは活発である。	→	1	2	3	4	5
③組織は新しい取組みや提案を受け入れる素地がある。	→	1	2	3	4	5
④組織として、健康まちづくりの必要性を感じている。	→	1	2	3	4	5
⑤健康まちづくりは組織の理念や価値観に合っている。	→	1	2	3	4	5
⑥他の事業と比べて健康まちづくりの優先度は高い。	→	1	2	3	4	5
⑦健康まちづくりに関する業務を行うことが推奨されている。	→	1	2	3	4	5
⑧自分の職務は健康まちづくりを進めるために必要である。	→	1	2	3	4	5
⑨地域住民の健康課題やニーズを把握できている。	→	1	2	3	4	5
⑩事業をすすめる際に、上司や同僚は必要な支援をしている。	→	1	2	3	4	5
⑪健康まちづくりを進めるための予算は十分である。	→	1	2	3	4	5
⑫健康まちづくりを進めるための人員は十分にいる。	→	1	2	3	4	5
⑬市役所本庁は必要な情報を提供してくれる。	→	1	2	3	4	5
⑭他の同種の組織との接点(共同活動や情報共有等)がある。	→	1	2	3	4	5

次のページに続きます

問 20. あなたの所属している区役所における、組織としての全体的な「健康まちづくり」事業の推進方法について、以下の①～⑧に関する考えをお聞かせください。(それぞれ1つに○)

①具体的に明確な計画を立てて実施している。	→	1	2	3	4	5
②組織内で影響力が大きい職員の参加や支援がある。	→	1	2	3	4	5
③健康まちづくりの推進を中心的に担う職員が、リーダーとして組織内で正式に任命されている。	→	1	2	3	4	5
④組織内に事業を熱心に推進してくれる職員がいる。	→	1	2	3	4	5
⑤事業を支援してくれる外部の関係者がいる(大学など)。	→	1	2	3	4	5
⑥事業に関係する様々な団体や人を巻き込んでいる。	→	1	2	3	4	5
⑦必要に応じて住民の意見を聞いている。	→	1	2	3	4	5
⑧事業についての評価やフィードバックがある。	→	1	2	3	4	5

問 21. 校区、あるいは市全体として健康まちづくり活動が活発に取り組まれていくために、どのようなことが必要だと思いますか？アイデアやご意見などをご自由にお聞かせください。(自由記述)

※例えば、【活動の力になってくれるような団体など(企業や NPO 法人等を含む)がある】【健康づくりに活用されていない場所や施設がある】【地域の人たちが参加しやすいように、○○のような活動や仕掛けがあると良いと思う】【地域の関係者に○○の情報やサポートが必要だと思う】など、ご自由にお聞かせください。

問 22. その他、健康まちづくりの活動についてご意見等があればお聞かせください。(自由記述)

Ⅷ. あなた自身のことについてお聞きます

問 23. あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
-------	-------	-----------

問 24. あなたの年齢（令和3年9月1日時点）を教えてください。(1つに○)

1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30～34歳	4. 35～39歳
5. 40～44歳	6. 45～49歳	7. 50～54歳	8. 55～59歳
9. 60歳以上			

問 25. あなたは、現在の職種として通算でどのくらい働いていますか？（1つに○）

1. 1年未満	2. 1～2年未満	3. 2～3年未満	4. 3～5年未満
5. 5～10年未満	6. 10～15年未満	7. 15～20年未満	8. 20年以上

問 26. あなたは、現在所属している区役所の地域にどの程度愛着がありますか？（1つに○）

1. とても愛着がある	2. 愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. まったく愛着がない	



質問は以上になります。ご協力ありがとうございました！

熊本市健康まちづくり活性化に向けたアンケート調査報告書（職員版）
令和5年（2023年）9月発行

編集 熊本市 健康づくり推進課・東邦大学 医学部衛生学教室

発行 熊本市健康福祉局保健衛生部 健康づくり推進課
〒860-8601
熊本市中央区中央区手取本町1番1号
電話 096-328-2156

東邦大学 医学部衛生学教室
〒143-8540
東京都大田区大森西5丁目21番16号
（研究代表者：東邦大学／長野県立大学 今村晴彦）

